

A TREATISE
ON THE
PRACTICE OF MEDICINE,
FOR THE
USE OF STUDENTS AND PRACTITIONERS.

BY
ROBERTS BARTHOLOW M.D.; LL.D.;

Professor of Materia Medica & General Therapeutics in the Jefferson Medical College of Philadelphia; Formerly Professor of the Theory & Practice of Medicine and of Clinical Medicine in the Medical College of Ohio; Fellow of the College of Physicians of Philadelphia; Member of the American Philosophical Society, and of the American Neurological Association; Honorary Member of the Medical & Surgical Faculty of Maryland, of the New York and Ohio State Medical Societies, of the Cincinnati Academy of Medicine; Author of a Practical Treatise on Materia Medica and Therapeutics; of a Treatise on Medical Electricity, and of a manual of Hypodermic Medication, &c.

FIFTH EDITION, REVISED AND ENLARGED.

NEW YORK

1884.

TRANSLATED BY
M. TOYABE.

原書千八百八十四年刊行
譯書皇曆明治十七年出版

內科新論

米國博士拔爾蘇朗原撰
日本醫士鳥谷部政人譯述

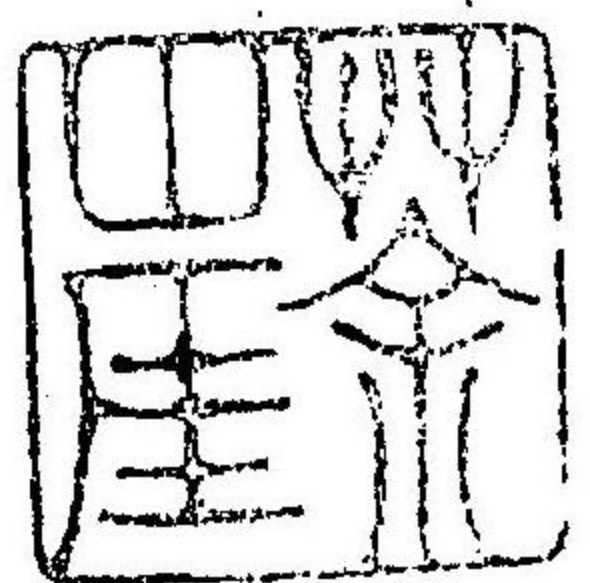
內科新
論版權
所有章

不造程不
濟公不身



精
心
不
小

茶
屋
佐
藤
進



內科新論第五冊目次

腎臟諸病	一
腎臟實性充血	十一
腎臟虛性充血	十三
急性腎臟實質炎	十七
慢性腎臟實質炎	卅二
腎臟質間炎	四十二
腎臟粉質變性	五十八
腎盂炎及腎臟腎盂炎	六十八
腎臟結石	七十六
腎臟水腫	九十
腎臟癌腫	九十五
腎臟結核	百三
腎臟包蟲囊腫	百七

移動腎

腎臟周圍炎

○神經系諸病篇

腦充血

腦貧血

腦內脈管之阻塞症

腦內毛細管之阻塞症

腦內諸竇之阻塞症

腦出血

腦膜出血

硬腦膜炎及血瘤

急性腦水

慢性腦水

先天腦水

結核性腦膜炎

百十三
百十八

百廿三

百卅二

百卅九

百五十

百五十三

百五十七

百七十五

百七十七

百八十三

百八十八

百九十

百九十五

第五冊目次終

急性腦膜炎

慢性腦膜炎

急性腦炎

頭蓋內囊腫

暗啞

眩暈

二百五

二百十三

二百十五

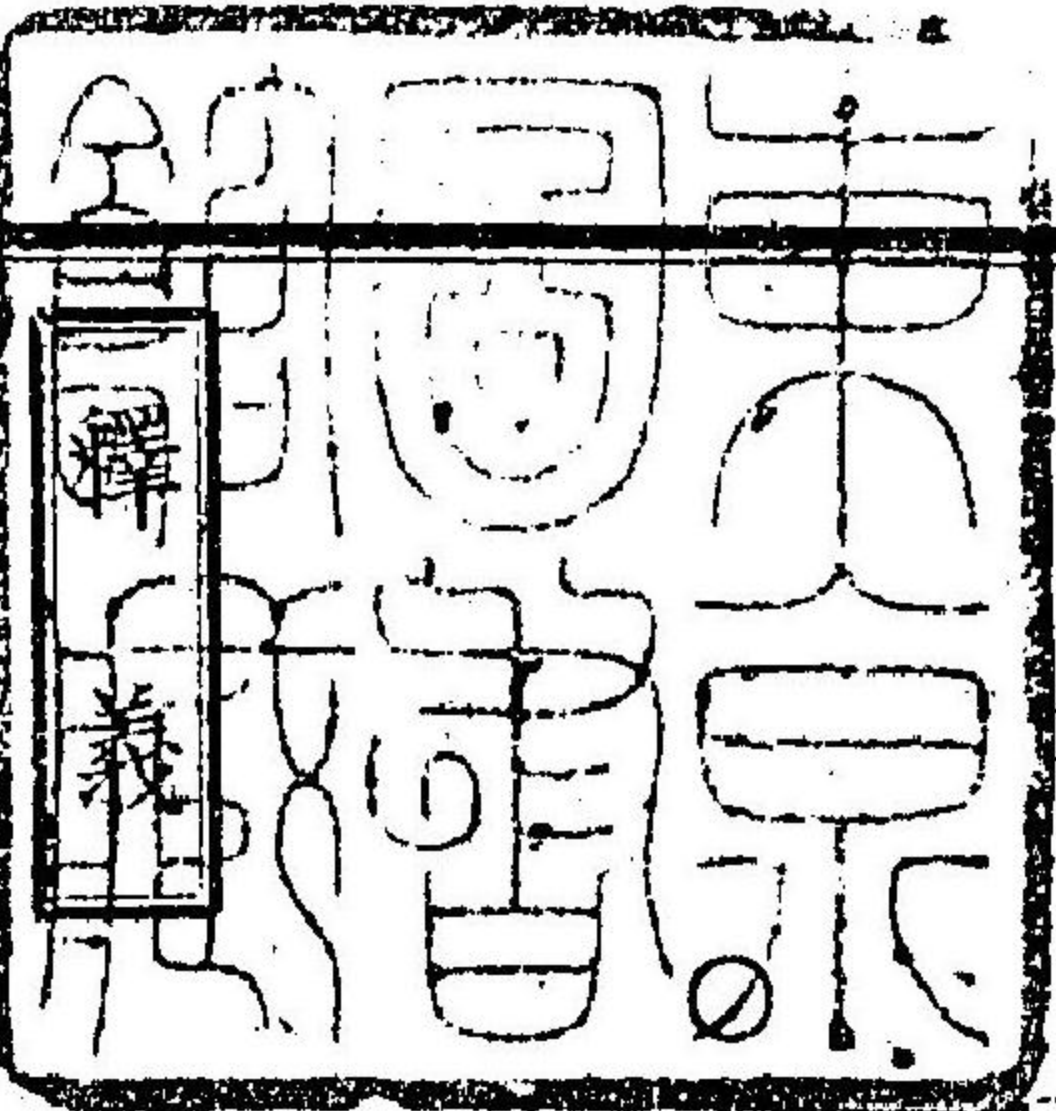
二百廿六

二百四十一

二百四十七



石達曹酸尿參第石灰石化酸貳第石酸尿壹第
 石灰石酸蓆五第石結狀鈴ル成リヨ灰石酸蓆四第



腎臟諸病

○ 尿血症

原ユレーミヤ
名 URAEMIA.

腎臟ノ官能ヲ以テ排除スヘキ排泄物ヲシテ血中ニ停滯セシムルトキハ則

尿血症(又尿毒症)ト稱スル所ノ疾患ヲ誘發スヘシ

尿血症ナル文字ノ意義ハ血中ニ尿素ノ現存ヲ徵スト雖「フエルツ」氏ノ說ニ據レハ本
症ヲ誘起スル所ノ重要ナル毒物ハ尿素ニアラス越幾斯分、刺篤亞斯、鹽類、其他ノ尿成分
ニシテ若シ血行中ニ停滯スルキハ有毒トナルモノナリ故ニ今日ニ於テ世人ノ一般ニ通
用スル所ニ順カヒ尿血症ト稱スルキハ血中ニ諸種ノ尿成分ヲ含有スルカ爲メニ起ル所
ノ諸症候ヲ總括シタルモノト見做サ、ルヘカラス

病原論

尿成分ノ停滯ヲ起スハ、泌尿、或ハ排尿ノ不全ナルニ因ルモノナリ

泌尿、不全ナルキハ尿液ヲ構生スヘキ物質ヲシテ血中ヨリ折出スルヲ能ハサルモノナリ
排尿、不全ヲ起スハ既ニ尿液ヲ構生シタル後之レカ排泄ヲ妨クルカ爲メニ再ヒ血中ニ吸

収セラル、ニ由ルモノナリ

蛋白尿ヲ發スル所ノ諸種ノ疾患ニ於テ輸尿管、尿道及ヒ膀胱ノ壅塞ヲ起ス所ノ疾患又タハ尿道ヲ侵蝕スル所ノ腫瘤ノ如キ外部ノ壓迫ニ因テ泌尿及ヒ排尿ノ機不全ナルキハ血尿症ヲ誘起スヘシ

尿血症ヲ發スルカ爲メニ尿量ノ減少スルキハ固形分モ亦タ其量ヲ減スヘシ

尿中ノ水分ノ比例健態ヨリ多キハ尿中ノ排泄スヘキ成分ヲ脱却スルコト能ハサルヲ以テ尿血症ノ徵候ヲ呈スヘシ

尿中ニ特異ノ成分ヲ發生シテ以テ繼發性ノ變調ヲ誘起スルコトヲ發明シタルハ有名ナル武雷葛氏ニシテ爾後種々ノ學說ヲ唱フル者輩出セリ

蛋白尿ノ症狀ト神経系ノ變調トノ間タニ於テ互ヒニ關係アルカ如キ說ヲ首唱セシハ即

「クリスチソン」氏ニシテ其理由ハ尿素ノ停滯ニ因テ起ル所ノ血液ノ中毒ニ歸スルモノトナセリ加之ノミナラス同氏ノ說ニ據レハ尿色素ノ排泄モ亦タ過剩ナルカ爲メニ其病勢ヲ助クルモノナリト云フ

大家「ハンモント」氏及ヒ「リチャルドソン」氏ハ真正ノ原因トナルヘキモノハ尿素ノ停滯ナリト云フ

爾後「フレリツチ」氏ハ炭酸安謨尼亞ノ學說ヲ提出セリ而シテ此說ニ據リテ數多ノ學士輩ハ其實跡ヲ證明セリ今マ其說ヲ確實ナラシメント欲セハ靜脈中ニ尿素ヲ注入スルモ敢テ障礙ヲ起サ、ルナリ是レニ反シテ炭酸「アンモニヤ」ヲ注射スルキハ忽チニシテ搐掣ヲ發スルノミナラス尿血病患者ノ血中ニ於テモ亦タ之レヲ檢出スヘシ是レニ依テ之レヲ顧レハ真正ノ毒物トナルヘキ元質ハ炭酸「アンモニヤ」ニ外ナラサルヲ知ルヘシ

「フレリツチ」氏ノ學說ト反對ノ論ヲ主張シテ攻撃スルモノアリト雖モ頗フル薄弱ニシテ妄リニ勝利ヲ得ント欲スルモ能ハサルノミナラス終ニ敗滅ニ歸セリ其說ニ曰ク安謨尼亞ハ人身ニアリテ固有スル所ノ一成分ニシテ試ミニ腎臟ヲ截除シタル動物ノ血液ヲ檢スルモ尚ホ「アンモニヤ」ノ増加スルヲ見ルヲナシト

「トレーツ」氏ノ如キハ數多ノ實驗ニ因テ以テ「フレリツチ」氏ノ學說ヲ維持センヲ勉メタリト雖モ未タ充分ニ之レヲ解釋スルヲ能ハサルナリ

「トレーツ」氏ノ說ニ據レハ主要ノ毒物ハ炭酸「アンモニヤ」ナリト雖モ之レヲ發生スルハ腸管ノ粘膜ヨリ排泄シタル尿素ノ分解ニ因テ炭酸「アンモニヤ」ヲ構生シ終ニ血中ニ蔓延スルカ爲メニ起ルモノナリト云フ

「スチヨツテン」氏曰ク尿血症ハ組織ノ新生繁殖機ニ因テ生スル所ノ産物ニシテ所謂越

幾斯分、肉汁素、變性肉汁素ノ如キモノニ基因スルモノナリ而シテ此諸元質ノ退却變化ヲ起スルハ即チ尿素トナルモノナリ今マ之レカ停滯ヲ起スルハ必ラス中毒ノ症狀ヲ發スヘシト雖モ特リ尿血症ニ限局シテ他ノ症狀ヲ發セサルノ理ニ至テハ未タ之レヲ詳カニスルヲ能ハサルナリ

「トロウベ」氏ノ說ニ曰ク尿血症ハ必ラス尿素ノ中毒ニ因ルモノニシテ腦ノ水腫ヲ發スルカ爲メニ現ハル、所ノ症候ニ過キサルモノナリ故ニ血中ニ水分ヲ含有スルコト多量ナルヲ以テ腦内ノ毛細管ヨリ漿液ノ滲潤ヲ起シ終ニ腦水腫ヲ誘發スヘシ
尿管ノ周圍ニアル所ノ淋巴腔ニ水液ノ貯溜スルコト多量ナルハ頭蓋内ノ尿管ニ於テ血壓ヲ加ヒ之レカ爲メニ腦貧血ヲ起スルハ終ニ摘擧ヲ發セサルヲ得ス
多少腦内ニ貧血症狀ヲ呈スルハ固ヨリ論ヲ俟タス加之ノミナラス是レカ爲メニ毒物ノ作用ヲシテ勢力ヲ扶クルモノナリ

最モ信ヲ置クニ足ルヘキ學說ハ「フェルトツ」氏及ヒ「リツタル」氏カ首唱セシ所ニシテ血中ニ尿中ノ剝篤亞斯塩類ノ停滯スルカ爲メニ起ルモノトナセリ試ニ靜脈ニ剝篤亞斯塩類ヲ注入スルハ必ラス尿血症ニ於テ現ハル、所ト異ナラサル神經系ノ變徵及其他ノ諸症候ヲ現出スヘシ

剝篤亞斯塩類ニ基因スルノ說ハ固ヨリ其證據ナキニアラスト雖モ特リ此塩類ニノミ關スルニアラス總テ尿中ニアリテ毒性ヲ有スル所ノ諸成分ノ停滯ヲ起スルハ尿血症ノ如キ症狀ヲ呈スヘシ故ニ尿血症ヲ發スルハ必ラス一成分ニノミ限局スルコトナク諸種ノ毒性ヲ有スル尿成分ノ停滯ニ因テ起ルモノト見做サ、ルヘカラス

徵候

尿血症ハ急性及ヒ慢性ノ二種アリ
急性症ハ俄然尿液ノ減少スルコト甚タシキ徵候ヲ現出スル所ノ腎臟諸病ニ於テ頓發スルモノナリ

慢性症ハ慢性腎臟質間炎ノ如ク尿中ノ固形分ヲシテ漸々減少セシムル所ノ慢性病ニ於テ現ハル、モノトス

急性尿血症ハ俄然劇烈ナル頭痛眩暈視力變常ヲ以テ發シ顔面其他ノ諸筋ニ痙攣ヲ起シ尋テ癲癇狀ノ全身摘擧ヲ將來スヘシ

摘擧ハ數分時若シクハ數時間毎ニ反復シ其發作間歇時ニアリテハ昏睡ノ狀ヲ呈シ終ニ死ヲ致シ或ヒハ腎臟ノ機能ヲ整復シ又タハ代償ノ排泄ヲ起スニアラサレハ依然トシテ感覺閉止ノ症狀ヲ現出スルコトアリ

症ニヨリテハ感覺鈍麻スルコトナクシテ摘擧ヲ發スルコトアリ或ヒハ癲癇狀ニアラス

シテ牙關緊急ノ症狀ヲ現ハスヲアリ
 急性症ニ於テ搐掣ヲ發スルヲアリ當初患者精神恍惚トシテ人事ヲ省セサルモノ終ニ昏
 睡ノ狀ニ陥リ顔面蒼白色トナリ瞳孔散大シテ強劇ナル光線ニアラサレハ反動ヲ起ス
 ナク脈搏緩徐ニシテ呼吸頗フル淺ク且ツ不正トナリ所謂「チェーンストーク」氏ノ呼吸
 トナリ或ハ鼾聲ニ類スルヲアリ全身ノ諸筋悉トク弛緩スト雖氏局處ノ麻痺ヲ起コス
 ナシ既ニ此期ヲ過クルハ患者稍々勢力ヲ増スヲアリ精神鈍麻シタルカ如ク一般ノ感
 受力及ヒ五官共ニ其力ヲ減シ數分時若シクハ數時間持續スルノ後再ヒ昏睡ノ狀ヲ呈シ
 又々暫時ニシテ輕快シ終ニ死ニ至ルモノナリ
 症ニヨリテハ搐掣ノ發作ヲ將來シ或ヒハ譫語ヲ發スルヲアリ
 急性尿血症ニ於テ極メテ稀有ノ症狀ヲ呈スルヲアリ患者常ニ低聲獨語シ且頭痛視力
 變常、人事不正、感覺遲鈍及ヒ思力衰耗ヲ將來ス其他呼吸系ニ於テ毫モ變狀ヲ起ス
 ナキモ劇烈ナル呼吸困難ノ症狀ヲ起シ聲音粗厲トナリ吸氣ニ吹性ヲ帶ヒ終ニ昏睡ニ因テ
 斃ル
 慢性尿血症ハ病初消食不良、惡心、嘔吐ノ如キ胃症ヲ以テ起リ他ニ徵知スヘキ原因ヲ檢
 出スルヲ能ハサルモノナリ

爾後胃症ト共ニ頭痛眩暈及ヒ視力鈍麻ヲ發スヘシ
 頭痛ハ頗フル劇烈ナルノミナラス頑固ニシテ容易ニ制止シ難ク屢々前頭痛ヲ發シ尋テ
 捲帙シタルカ如キ感覺ヲ起スヘシ
 病初網膜ニ變狀ヲ現ハスモノニシテ吾人ハ之レヲ蛋白尿、網膜炎ト稱スル所ノモノナリ
 故ニ尿液ヲ檢スルニ先タチテ眼科醫ノ爲メニ發見セラル、鮮ナカラサルナリ
 患者嗜眠ヲ發シ當初ニアリテハ日晡ニ至レハ直チニ寢ニ就キ暫クニシテ半睡半醒ノ間
 ニアリテ最モ感動スヘキ事物ニ遭遇スルモ顧ミサルニ至ル
 五官ノ機能悉トク鈍麻スト雖氏殊ニ視力ヲ侵カスト最モ甚タシク半視症及ヒ重視症ノ
 如キハ常ニ現ハル、所ノ變調ナリ
 病機増進スルニ從テ惡心嘔吐共ニ増進スルノミナラス頭痛モ亦タ益々強劇トナリ視力
 愈々曇暗トナリ夜間ニ於テ筋掣肉潤ヲ起シ屢々顔面諸筋ノ痙攣ヲ發スヘ
 既ニ此機ニ達スルハ現然急性症ノ條下ニ載スル所ノ諸徵候ヲ呈スヘシ
經過時期及轉歸
 尿血症ニ於テ現ハル、所ノ病機増進ノ度ハ專ラ腎臟ニ於ケル
 變狀ノ輕重ニ関スルモノナリ
 急性武雷驚病ノ危篤ナルモノニアリテ劇烈ナル尿血症ヲ發スルノ時期ハ三日乃至五日

ノ間ニアリ頗フル急劇ナルモノニ於テハ二三日ニシテ不幸ニ陥ルモノトス
 慢性症ハ數週若シクハ數月ニ渉ルヲアリ
 急性武雷篤病ニ於テハ豫メ尿血症ノ轉歸ヲ取ルヘキヤ否ヤヲ斷定スルヲ能ハサルナリ
 何ントナレハ最モ恐ルヘキ症狀ヲ發スルモノト雖モ治術ノ宜キヲ得ルハ忍テ健態ニ
 復スルモノアルヲ以テナリ斯ノ如キ例証ハ程紅熱患者及ヒ妊婦ヲ侵カス所ノ蛋白尿症
 ニ於テ實驗スルヲ鮮ナカラサルナリ

慢性腎臟質間炎腎臟粉質病其他危篤ナル諸症ニ於テ尿血症ヲ發スルハ其轉歸不幸ナ
 ルモノ多シ故ニ尿血症ノ慢性ナルモノハ急性ニ比スレハ一層危險ナルモノトス

診 断

診断ニ臨ンテ第一ニ檢スヘキモノハ泌尿ノ症狀ナリ故ニ分泌ニ障碍ナキ
 ヤ否ヤ又タ腎臟ノ組織ニ變狀ヲ起ス所ノ徵候タル蛋白質若シクハ形體的ノ成分ヲ尿中
 ニ含有スルヤ否ヤヲ審ラカニセサルヘカラス
 尿中ニ蛋白及ヒ圓糖ヲ含有セサルモノニアリテハ尿液ヲ分析シテ尿中固形分ノ減量ナ
 キヤ否ヤヲ檢出スヘシ

尿血症ニ於テ起ル所ノ腦症ニ二級ノ要点アルヲ知ラサルヘカラス是レ即チ運動麻
 痺ノ症狀及ヒ熱症ヲ發セサルニアリ若シ此二症候ヲ呈スルハ腦膜炎、腦出血及ヒ腦

髓炎ニ因テ来ルモノト見做サ、ルヘカラス

阿片、莨菪、斯篤利幾尼涅其他ノ麻醉薬ニ因スルモノハ患者ノ病歴及ヒ尿液ノ性状ヲ審
 査スルハ容易ニ尿血症ト鑑別スルヲ得ヘシ

何症タルヲ問ハス摘掣或ヒハ感覺遲鈍ノ症狀ヲ頻發シテ其原因ヲ探知スルコト能ハサ
 ルノミナラス尿液ヲ蓄ヒサルハ直チニ導尿管ヲ用フヘシ

麻醉薬ニ因テ感覺閉止シタルモノニ於テ患者ノ尿液ヲ取り他ノ動物ノ皮下ニ注射スル
 其ハ其毒物ノ本性ヲ鑑定スルヲ得ルコトアリ

治 則

尿血症ハ腎臟ヨリ分泌スヘキ排泄物ヲシテ血中ニ停滯セシムルカ爲メニ
 起ル所ノ疾患ナルヲ以テ其排泄ノ代償ヲ促カスコト最モ緊要ナリ

排泄機能ハ皮膚及ヒ腸管ヨリ其多量ヲ起スヲ得ヘシ故ニ蒸氣浴法ヲ施コシ又ハ「ピ
 ロカルピン」ヲ皮下ニ注射スルハ大ニ皮膚ノ作用ヲ振起スルモノナリ

心臟ノ虛弱ナルモノニアリテハ最モ細心シテ「ピロカルピン」ヲ用ヒサルヘカラス或ヒ
 ハ氣管支ノ粘液多量ニシテ呼吸筋ノ作用微弱ナルモノモ亦タ危險ナリトス

毫モ嫌忌スヘキ症狀ナキハ必ラス良驗アルモノナリ
 腎臟ノ排泄閉止スルカ爲メニ腸胃粘膜ヨリ尿素及ヒ其分解物タル炭酸「アンモニヤ」ヲ

排泄スルキハ其良能ヲ妨クルコトナキノミナラス下瀼ヲ投シテ血中ヨリ排泄物ヲ驅逐スルコトヲ勉ムヘシ此時ニアリテハ後方葯刺巴散、剝葛比林及ヒ甘汞ノ如キモノヲ投スヘシ

腎臟ノ作用ヲ催進スルカ爲メニ塩類ノ利水劑ニ實多利斯浸ヲ伍用スルキハ良蹟ヲ見ルコトアリ

摘製ヲ發スルキハ速カニ鎮靜スルノ策ヲ運ラスヘシ此時ニ於テ「コロ、ホルム」ヲ嗅引セシムルキハ必ラス奇効ヲ奏スルノミナラス其分量ニ注意スルキハ決シテ危險ヲ致スノ恐レアルコトナシ

「ルーミス」氏ノ說ニ從カヒ莫爾比涅ヲ皮下ニ注射スルキハ少シク大膽ナルカ如シト雖モ屢々良驗アルモノナリ同氏ノ說ニ據レハ大人ニアリテハ莫爾比涅ヲ注射スルニ一回ノ量半瓜(〇.〇三)がラムニシテ時宜ニヨリ二三回反復スルモ妨ケナシト云フ

予ハ「コロ、ホルム」ノ嗅引法ヲ反復シタルモノニ於テ莫爾比涅ヲ用フルキハ大ヒニ効驗アルモノヲ實見セリ又タ急性尿血症ニアリテハ飲クヘカラサルモノナリ

莫爾比涅ハ尿血症ニ因スル所ノ腦脈管ノ症狀ニ反動ヲ起サシメ腦水腫ヲ防キ再ヒ腎臟ノ分泌ヲ整復スルノ効力ヲ有スルモノナリ

釋義

腎臟充血ニ二種アリ一ハ動脈血ニ起ルモノニシテ之レヲ腎性充血ト稱シ一ハ靜脈血ニアルモノニシテ之レヲ虚性充血ト云フ
爰ニ論スル所ノモノハ專ラ腎性充血ナリ

原因

腎性充血ハ尿液ト共ニ排泄スヘキ刺戟性ノ物質ニ因テ起ルモノナリ
骨液ユキイ「キユベパ」「イユカリプトル」ノ如キ揮發油或ヒハ龍腦ヲ含有スル所ノ諸般ノ藥劑ヲ内服スルキハ其排泄ニ臨ンテ腎臟ヲ通過スルカ爲メニ炎症ヲ誘起スヘシ殊ニ其力ノ最モ強劇ナルモノハ「テレピン」油及ヒ芫菁ノ二品ニシテ他ノ藥劑ニ比スレハ急性ノ充血ヲ發スルコト最モ多シトス

芥子泥モ亦タ同一ノ症狀ヲ發スヘシ是レ即チ芥子中ニ含有スル所ノ揮發油ヲシテ血中ニ吸收セシメ更ニ之レヲ腎臟ヨリ排泄スルノ際ニ起ルモノナリ
巨大ナル火傷表皮ノ大部ヲ侵カス所ノ反對刺戟及ヒ末梢神經ノ損傷モ亦タ腎臟ノ細動脈管ニ於テ反射的ノ麻痺ヲ誘起スルコトアリ

○腎臟腎性充血

名原 アクチーウ コンセツション オフ キドニース
ACTIVE CONGESTION OF KIDNEYS.

腎臟充血トハ腎臟ニ供給スル所ノ血量ノ増加スルヲ云フナリ

徵候

腎臟部ニ於テ多少疼痛ヲ感シ或ヒハ偶々急劇ナル銳痛ヲ發スルヲアリ而シテ其疼痛ハ輸尿管ノ經路ニ沿フテ膀胱ニ達シ終ニ膀胱ニ刺衝ヲ起シ延ヒテ股部ニ感傳シ又タ陰莖及ヒ陰囊ニ波及スヘシ

患者常ニ利尿ノ感覺頻リニシテ頗フル稠厚ナル尿ヲ利シ或ヒハ排尿ノ全量ニ至テハ健體ニ異ナラスト雖ヒ一齊ニ快利スルヲナク頻々少量ヲ洩ラスニ過キサリナリ

尿中ニ血液ヲ混スルヲアリ或ヒハ少量ノ赤血球ニ過キサリアリ或ヒハ唯々纖維素及ヒ圓球ニ過キサリアリ其他腎臟上皮細胞及ヒ蛋白質ヲ混スルヲアリ

本症ヲ誘起スル所ノ原因ヲ除却スルヲナク依然トシテ持續スルキハ腎臟充血ノ症狀ヨリシテ終ニ炎症ノ轉歸ヲ取ルコトアリ故ニ予カ親驗セシ一患者ノ如キハ當初「コパイバ」ヲ多服セシメタルカ故ニ充血ヲ起シ尚ホ之レヲ連用セシカ終ニ慢性武雷篤氏病ヲ發セリ

充血ヲ誘起スル所ノ原因ヲ除却スルキハ二三日ニシテ刺衝機ヲ退消セシメ健態ニ復スルモノ多シ故ニ最モ輕微ノ症ニアリテハ刺衝ヲ起スヘキ原因ヲ除却シテ「レモナーデ」或ヒハ「ウヰシー」泉ノ如キモノヲ多服セシメ尿液ヲ稀釋セシムルヲ以テ足レリトス膀胱ニ刺戟ヲ起スコト甚タシク從テ疼痛劇甚ナルキハ毎四時ニ龍腦二三瓜ヲ投スルキ

ハ輕快スヘシ或ヒハ莫爾比混十二分ノ一瓜(〇〇一五)ヲ皮下ニ注射シ又タハ六分ノ一瓜(〇〇一)乃至四分ノ一瓜(〇〇一五)ヲ内服セシムルキハ直チニ鎮靜スヘシ

腎臟虛性充血

名原 *Passive Congestion of Kidneys*

原因

腎臟虛性充血ハ靜脈ノ溢血ニ因テ起ルモノナリ而シテ其溢血ヲ誘起スル所ノ重要ナル原因ハ僧帽瓣乳ノ壅塞及ヒ反流症、肺臟ノ擁塞性諸症、三尖瓣乳ノ壅塞及反流症、腎臟靜脈ノ上部ニ位スル上行大靜脈ノ壓迫及ヒ腎靜脈ノ栓塞是レナリ

病理的解剖

尿管ノ膨滿スルヲ甚タシキヲ以テ腎臟ノ容積ヲ増加シ之レヲ截斷スルキハ多量ノ血液ヲ流出スヘシ

靜脈ノ怒脹スルカ爲メ器械的ノ滲出作用ヲ起シ腎臟ノ外觀自ツカラ濕潤ナルノミナラス容易ニ囊體ヲ檢出スルヲ得ヘシ

腎臟ノ「ハーレーシマ」質ハ暗青色ヲ呈シ濕潤且滑澤ナルモノトス又タ「マルビキ」氏小球体ハ腫脹若シクハ積血ヲ起サスト雖ヒ變縮シタル細尿管ノ尿管ハ緊張スルヲ見ル肉眼ヲ以テ腎臟ノ表面ニ分布スル所ノ星芒狀ノ尿管ヲ檢スルキハ筋鞘ノ間隙ニ分布ス

ル所ノ靜脈ノ接口枝ニ達スルヲ見ルヘシ又直尿管ノ尿管ハ暗赤色ノ紋理狀ヲ呈スヘシ慢性ニ陥ルキハ靜脈血ノ供給過剩スルカ爲メニ重要ナル榮養上ノ變狀ヲ將來スルモノナリ故ニ結締組織ノ成形機亢盛シテ以テ腎臟全体ノ容積緻密及ヒ重量共ニ増加スルモノナリ

徵候

腎臟虛性充血ニアリテハ中樞機ノ變調ニ因テ陰蔽セラ、カ故ニ全ク腎臟ノ變狀ヲ檢出スルコト能ハサルモノ鮮ナカラス

既ニ水腫ヲ發スルキハ尿液ノ分泌ニ注目スヘシト雖モ其時期ニ達セサルキハ腎臟ノ疾患ヲ徵知スヘキ前駁症ヲ呈セサルモノトス

靜脈ニ溢血ヲ起シ靜脈系ニ於テ血壓ヲ増加スルノミナラス動脈系ニ於テ血壓ノ減少スルカ爲メニ泌尿ノ機能ヲ障碍スヘシ

尿量減少シテ性状混濁シ酸性ノ反應ヲ呈ス今マ尿液ヲ取り靜置スルキハ多量ノ尿酸塩ヲ沈澱シ尿液モ亦タ濃厚トナルヘシ

異重ハ尿液ノ減少スルニ從テ逆比例ヲ以テ増加スヘシ而シテ通常「一〇二五」乃至「一〇三五」ノ間タニアリ然リト雖モ固形分、尿酸味ニ尿素ノ如キハ百分ノ五以上ニ達スルコトアルヲ以テ其異重モ亦タ高キモノナリ

既ニ此期ニ達スルキハ尿成分ニ於テ重要ナル變狀ヲ起スヘシ即チ多少ノ蛋白質ヲ含有スルニアリ而レモ多量ヲ見ルコト稀レナリ

今マ濃厚ナル尿液ヲ取り試験管ニ注入シ文火ニ接スルキハ忽チ清澄トナリ唯タ少量ノ微細ナル粉末ヲ混スルノミ而レモ更ニ熱度ヲ加フルキハ漸々蛋白質ノ凝結ヲ起シ再ヒ混濁シテ牛乳ノ狀ヲ呈スヘシ

尿酸鹽類ハ熱ヲ加ヒ未タ蛋白ノ凝結ヲ起サ、ルノ時ニ悉ク溶解スルモノナリ

顯微鏡ヲ以テ檢スルキハ尿中ニ現ハル、所ノ病的諸元質ハ少量ノ赤血球、管狀上皮及ヒ脫軟ナル透明ノ圓塊ヨリ成ルヲ見ルヘシ又タ蛋白質ノ量ハ百分ノ一ヲ超過スルコト稀レナリ

經過時期及轉歸

心臟及ヒ肺臟ノ壅塞症ニ於テ腎臟充血ヲ誘發スルキハ專ラ本病タル心肺ノ治癒ニ関スルモノトス

心臟病ニ於テ代償機能ヲ營爲スルキハ動脈ノ血壓ヲ復シ靜脈系ノ血壓ヲ減シ順ツテ靜脈ノ充血及ヒ動脈ノ局處貧血モ亦タ整役スヘシ故ニ尿中ノ水分ヲシテ健態ノ量トナシ蛋白質ノ消失ヲ致スヘシ

心臟ノ疾患持久シテ治セサルキハ腎臟ノ症狀益々増惡シ蛋白ノ量ヲ増加シ暫時ニシテ

尿ノ異重ヲ減スヘシ

腎臟虚性充血ニアリテハ腦症ヲ發スルコトナシ何ントナレハ細尿管ノ上皮ヲ侵カスコトナク排除スヘキ成分ヲ除却スルノ機能ヲ營爲スルヲ健態ニ異ナラサルヲ以テナリ死因ハ併發症或ヒハ頑固ナル水腫ヲ發シ終ニ虚脱ニ陥ルカ爲メニ起ルモノナリ

治則

虚性充血ノ治法ハ專ラ本病ノ治癒ヲ促カスニアリ其藥劑ハ實多利斯幾尼涅、鐵劑、水銀下劑ヲ投シ傍ラ温浴、蒸氣浴ヲ命シ又タ「ピロカルピン」及ヒ利尿劑ヲ與フヘシ

又タ腎臟ノ症狀ハ心臟ノ機能ヲ整復スルノ治法ニ因テ快癒スルコト鮮ナカラス故ニ前章心臟病ノ條下ニ於テ記載シタル治法ヲ斟酌シテ之レヲ應用スヘシ

釋義

○急性腎臟實質炎

名原 ACUTE PARENCHYMATOUS NEPHRITIS.

テ重要ノ正徴ハ尿中ニ蛋白質ヲ含有スルニアリ

數多ノ著述家ハ急性腎臟實質炎ヲ以テ武雷氏病ノ初期トナセリ而シテ腎臟白色ニノ巨大トナルモノナリ故ニ英國ノ著述家ハ巨、大、滑、澤、腎、ト稱セリ又「ジョンソン」氏ハ之レヲ急性剝脫表皮腎ト名ツケタリ

「チャアコツト」氏カ創メテ腎臟實質炎ノ名義ヲ冠セシメタリト雖氏同氏ノ説ニ據レハ吾人ハ未タ正確ナル字義ヲ解釋スルヲ能ハスト云ヘリ

「バアテルス」氏ハ急性腎臟實質炎ト稱スルヲ以テ適當ノ字義トナセリ

原因

諸種ノ腎臟炎中此症ニ罹ルモノハ成年ノ人ニ比スレハ少年ニ於テ最モ多キヲ見ル而レモ幼兒ニアリテハ更ニ稀有ナリトス

本症ハ專ラ少壯ノ時ヨリシテ中年ニ達スルノ間ニアリ又タ此期ヲ過クルキハ大ヒニ其數ヲ減スルト雖氏必ラス發セサルモノト斷定スルコト能ハサルナリ

實際上ノ經驗未タ多カラスト雖氏遺傳ハ其發生ノ感動ヲ有スルモノ、如シ體質モ亦タ重要ナル一原因ヲ爲スモノニ似タリ故ニ皮膚蒼白色ニテシ毛髮少ナク筋肉

豐滿スルモ強實ナラサルカ如キハ特ニ腎臓炎ニ罹リ易キモノナリ
 莖菁「テレピン」油「コパイバ」ノ如キ腎臓ノ腎性充血ヲ誘起スル所ノ刺激物モ亦タ持長
 スルモハ終ニ本症ヲ發スルヲアリ
 猩紅熱ハ最も多ク見ル所ノ一原因タリ然リト雖モ流行ノ性ヲ有セサルノミナラス其症
 狀ノ輕重ニ関セサルカ如シ故ニ最も輕微ナル流行時ニ際シ輕症ノ猩紅熱ニ罹ル時ト雖
 モ腎臓炎ノ併發スルコトアリ
 惡性ノ流行時ニアリテハ最も恐ルヘキ腎臓炎ヲ誘起スルコトアリ
 猩紅熱ニ罹ルモハ必ラスシモ腎臓炎ヲ發スルモノニアラス間マ其侵襲ヲ免カル、モノ
 アルハ體質ニ於テ感受性ヲ有セサルモノアルカ或ヒハ腎臓ノ造構ニ於テ特異ノ素質ヲ
 有セサルヘカラス
 腎扶埵利亞ニ於テ腎臓炎ヲ誘起スルモノ、如キモ亦タ同一ノ理由アルモノトスルモ敢
 テ妨ケナキニ似タリ然リト雖モ腎扶埵利亞ニアリテハ全身ヲ毒スルノ輕重ト腎臓病ヲ
 併發スルトニ因テ自ツカラ關係ヲ有スルモノ、如シ
 「オイルテル」氏ノ說ニ據レハ腎臓病ヲ誘起スルハ「バクテリア」族ノ腎臓ニ轉移シテ以
 テ繁殖機能ヲ逞シウスルニ因ルモノトナセリ

腎扶埵利亞ニアリテハ猩紅熱ニ比スレハ尿中ニ蛋白質ヲ含有スルヲ多ク且腎臓ノ組織
 ニ於テ變微ヲ呈セサルヲ多シ
 同一ノ病機ヲ發スル所ノ疾患ニ於テ急性腎臓實質炎ヲ誘起スルヲアリ假令ヘハ腸埵扶
 斯丹毒及ヒ惡性膿疱疹ノ如キ特異ノ傳染毒ノ吸收及ヒ發育ニ因スル諸症ニ罹ルモハ其
 毒物ノ腎臓ヨリ排泄セントスルニ當テ炎症ヲ發スルモノ、如キハ最もモ明亮ナル例證
 トス
 皮膚ト腎臓トハ生理的官能ニ於テ互ヒニ親密ナル關係ヲ有スルモノトス故ニ一方ニ於
 テ其作用ヲ怠ルヲアルモハ他ノ一方ニ於テ其代償ヲ營ムモノナリ加之ナラス病理的ノ
 關係ニ於テモ亦タ生理的官能ト同一ノ結果ヲ見ルヘシ
 是故ニ皮膚溫暖ニシテ發汗ノ狀ヲ呈スルモノ俄然寒冷ニ暴露スルモハ急性腎臓炎ヲ誘
 發スルヲアリ是レ即チ劇カニ皮膚ノ分泌ヲ歇止スルカ爲メニ腎臓ノ作用ヲ増加セシム
 ルヲ以テ尿管ノ膨大ヲ起シ急性充血トナリ終ニ炎症ヲ誘發スルモノナリ
 妊娠ハ急性腎臓實質炎ノ一原因トナルヲアリ而シテ多クハ第一ノ分娩時ニ來ルモノト
 ス殊ニ弱子ヲ産スルモノニ於テ之レヲ見ルヲ多シ又タ患者ノ體質ノ如何ニ因ラサルモ
 ノ、如シ故ニ強壯ナルモノモ羸瘦セルモノモ多血質ノモノモ皆ナ侵カサル、モノナリ

又タ第一ノ分娩時ノミナラス次回ニモ亦タ之レヲ發スルコトアリ或ヒハ又タ爾後妊娠ノ有無ニ関セズ胎后病トナリテ永遠治セサルモノ鮮ナカラス
 妊娠ニ因テ本症ヲ誘起スルノ理ハ未タ明亮ニ解釋スルコト能ハスト雖モ實際上ノ統計ニ於テ妊娠百五十回中本症ヲ發スルモノ僅カニ一人ノ比例ナルヲ以テ思考スルモハ患者ノ體質若シクハ腎臟ノ組織ニ於テ稟生妊娠ニ因テ刺衝ヲ起スヘキ造構ヲ有スルモノト見做スカ如キハ殆ント真理ニ近キカ如シ

病理的解剖

急性腎臟實質炎ニ於テ現ハル、所ノ組織ノ變狀ハ一定セサルモノトス然リト雖モ氏爰ニ讀者ノ了解ニ便ナラシメンカ爲メニ最モ現著ナル症狀ヲ記載スヘシ前章釋義ノ條下ニ記シタル如ク英國ノ著述家ノ論スル所ハ最モ明亮ナルヲ以テ再ヒ是レヲ詳説スヘシ即チ腎臟ノ容積增大シテ蒼白色ヲ呈シ且滑澤トナルモノナリ而シテ其増大スルコト甚タシキニ至テハ重量及ヒ容積共ニ健態ニ比スレハ殆ント二倍ニ達スルコトアリ

皮質ハ蒼白色ニシテ貧血ノ症ヲ呈シ或ヒハ灰白色ニシテ指觸スレハ小囊体ノ破壊ニ因テ腎臟ノ萎縮シタルモノニ於テ見ルカ如ク突隆面ヲ有セサルヲ以テ滑澤ナルノミナラス其組織モ亦タ柔軟トナルモノナリ

皮質ニ於ケル充血ハ頗フル輕微ナルモノニシテ唯タ處々ニ深赤色ノ血斑或ヒハ紫斑狀ノ溢血ヲ見ルノミ而レモ圓錐体ハ深部ニ至ルマテ甚タシク充血シテ帶藍赤色トナリ或ヒハ鮮紅色ヲ呈スヘシ

症ニヨリテハ「パーテル」氏カ記載シタルモノ、如ク皮質ニ於テ蒼白色ヲ呈セス却テ充血甚タシキカ爲メニ帶褐赤色トナルコトアリ或ヒハ其中間ニ位スルカ如キモノアリ

「チャルコツト」氏ノ說ニ據レハ本症ニ於テ現ハル、所ノ顯微鏡上ノ變狀ハ必ラス縮シタル細尿管ニ限局スルモノナリト云フ而シテ其部ノ上皮ニ於テ腫脹ヲ起シ曇暗トナルヲ見ルヘシ今マ上皮ノ曇暗トナリタルモノヲ取り精密ニ檢スルモハ微細ナル顆粒狀体ノ沈澱ニ因スルモノナリ又タ其多數ナルモノニアリテハ上皮細胞ノ緊脹ニ依テ殆ント細尿管ノ内容ヲ閉鎖スルニ至ル或ヒハ纖維素ノ栓塞ヲ以テ細尿管ノ末端ヲ阻塞スルコトアリ

細尿管ノ固有膜ニ變狀ヲ起コシ之レカ爲メニ縮縮シタル細尿管モ亦タ膨大シテ恰カモ靜脈瘤ノ如キ形狀トナルコトアリ

被患ノ腎臟ヲ取り内服ヲ以テ視ルモハ限界性若シクハ彌蔓性ノ脂肪變質ノ狀ヲ呈スヘシ是レ即チ細尿管ノ少數若シクハ多數ニ於テ脂肪變質ヲ發スルニ因ルモノナリ

腎臟ニ於テ黄色ヲ呈シ一局部ヲ限リテ顆粒狀ヲ呈スルトキハ「ギヨソソ」氏ハ之レヲ顆粒狀脂肪腎ト稱シ全部ヲ侵カスキハ之レヲ大脂肪腎ト號ス
本症ノ正徵タル腎臟ノ増大ヲ起シ滑澤トナルモノニ於テ萎縮性ノ變狀ヲ發スルヤ否ヤノ說ニ至テハ諸家ノ論スル所未タ一定セサルカ如シ
「チャールコット」氏ノ說ニ據レハ稀レニハ脂化シタル上皮ノ溶崩及ヒ消失ニ因テ萎縮症ヲ發シ尋テ細尿管ノ虛説ヲ起スコトアリト云フ

徵候

程紅熱、實扶埒利亞其他ノ熱性病ニ罹リ其經過中腎臟實質炎ヲ發スルモノニアリテハ諸症候共ニ一様ナラサルモノトス
單純ナル腎臟實質炎ニ於テハ當初發病ノ方法ニ様アルカ如シ一ハ突然劇熱ヲ以テ起リ腰部ニ苦痛ヲ發スルモノニシテ一ハ徐發シテ症候ノ不明ナルモノトス
第一種即チ頓發性ノモノハ多ク感冒ヨリ來ルモノトス當初患者身體温煖ニシテ發汗シタルモノ俄カニ冷水中ニ投シ又タハ濕地ニ横卧シ未タ十二時間乃至二十四時ヲ經サルニ惡寒、戰慄ヲ發シ尋テ劇熱及ヒ頭痛ヲ發シ腰部ニモ亦タ疼痛ヲ感シ延ヒテ諸關節ニ感傳シ惡心、嘔吐及ヒ食思欲乏ヲ將來ス
發病ノ初徵ニ於テ緩急ノ差アリト雖モ腎臟ノ疾患ニ就テ注意スヘキモノハ尿液ノ性状

ニ於テ現ハル 所ノ變狀ヲ檢出スルニアリ
症ニヨリテハ泌尿機ニ閉スル所ノ初徵ヲ呈シ膀胱ニ劇甚ナル刺衝ヲ起シ尿通頻數トナリ頗フル叔瀦シテ少量ノ尿液ヲ漏ラシ或ヒハ血尿ヲ滴出スルヲアリ而レモ其症候ハ持久スルヲナキノミナラス稀有ノ變徵ナリ
通常尿量ニ於テ變狀ヲ起スル多シ故ニ大人ニアリテ健態ノ尿量二十四時間ニ於テ大抵四十汚(一、二〇〇)ガラムナリト雖トモ本症ニ罹ルトキハ僅カニ二十汚(六〇〇)ガラム乃至十汚(三〇〇)ガラムトナリ甚タシキハ五汚(一五〇)ガラムニ過キサルトアリ
尿量ニ於テ斯ノ如キ減少ヲ見ルハ同時ニ尿中ニ重要ナル新成分ヲ現出スヘシ全身ノ抑壓ヲ起スコト甚タシキモノニアリテハ最モ恐ルヘキ症候ヲ呈シ二三日ヲ經サルニ憔悴斃ル、トアリ
病初尿中ニ血液ヲ混スルヲ鮮ナカラス而シテ血量ノ多少ニ因テ其色澤ヲ異ニスルモノナリ故ニ少シク褐色ヲ呈スルニ過キサルトアリ或ヒハ之レニ稍々赤色ヲ混スルモノアリ或ヒハ純粹ノ鮮紅色ナルモノアリ或ヒハ帶褐深赤色ナルモノアリ
今ヤ尿液ヲ取リ靜置スルハ尿酸塩ノ一分ハ沈澱ヲ起シ之レト共ニ諸種ノ病的發生物殊ニ血球ノ破壊シタルモノ及ヒ健全ナルモノヲ混スルヲ多シ

尿素ノ量ハ健態ニ比スレハ減少スルヲ甚クシク尿酸ニ於テ異状ヲ呈セスト雖モ塩類ハ頗フル少量トナルモノナリ故ニ尿中ニ含有スル固形分ノ全量ハ健體ヨリ減少スルヲ常トス

尿液ハ酸性ノ反應ヲ呈シ異重ハ高クシテ屢々「一〇三〇」ニ達スヘシ而レモ比例上水液ノ減少スルヲ過度ナルニ因ルモノニシテ塩類ノ増加スルカ爲メニ此結果ヲ來タスモノニアラサルノミナラス健態ニ比スレハ却テ減少スルモノナリ

病機益々増進スルモハ水分ノ増加スルニ順テ異重益々低ク而レモ比例上固形分ノ増息ヲ致スノミナラス尿素モ亦タ之レニ準スヘシ

異重ノ變化ハ「一〇三〇」ヨリ「一〇〇五」ノ間ニ達スルヲアリ

異重減少シ或ハ水液ノ増加スルモハ酸性モ亦タ從テ減スルカ故ニ之レヲ試檢スルモハ弱酸性或ハ中性ノ反應ヲ呈スヘシ

尿液ニ於テ最モ現著ナル正徴トスヘキモノハ蛋白質ヲ混スルニアリ而レトモ其量一定スルコトナク少ナキハ唯々其痕跡ヲ現ハスニ過キスト雖トモ多キハ百分ノ三ヲ含有スヘシ

病初ニアリテハ蛋白質ヲ含有セサルヲアリト雖モ暫時ニシテ必ラス現出スヘシ

蛋白質及ヒ血球ノ外尿管ノ圍墻、血塊及ヒ透明ニシテ蒼白色ノ硝子狀圍墻ヲ見ルヘシ或ハハ偶々上皮細胞ヲ含有スルコトアリ

硝子狀圍墻ハ通常少量ナルモノナリ而レモ病機増進スルモハ夥多ノ巨大ナル硝子狀圍墻及ヒ顆粒狀圍墻ヲ檢出スヘシ

又尿液ノ沈渣中ニハ細尿管ヨリ剝脱シタル上皮細胞及ヒ夥多ノ顆粒狀體ヲ含有スヘシ

蹠關節及ヒ足部ニ浮腫ヲ發スルニ至テ始メテ尿量ノ減少ヲ檢出シ終ニ尿性ノ變状ヲ疑フモノ多ク此期ニ達セサルモノニアリテハ等閑ニ看過スルモノ鮮ナカラサルナリ

腎臟ノ機能ニ依テ分泌スル所ノ水液ノ量ヲ減シ順テ血液ノ性状及ヒ吸收ノ量ヲ變スルカ爲メニ蜂巢織内ニ浮腫ヲ起シ患者起立スルモハ水液沈降シテ脛部及ヒ足蹠ニ達スヘシ又夕横臥スルモハ腰部及ヒ脛部ニ蓄積スヘシ而シテ同時ニ眼瞼ニモ亦タ浮腫ヲ發スルコトアリ

顔面稍々腫脹シテ蒼白色ヲ呈シ鼻淚廣潤トナリ大ヒニ面貌ヲ變シ眼瞼ノ腫脹ヲ起スモ之レヲ檢出スルコト能ハサルニ至ル是レ局處ノ初起ニ於テ現ハル、所ノ症状ナリ故ニ滲潤ノ蔓延スルニ從テ全身ノ皮下蜂巢織内ニ充滿シ胸膜及ヒ腹膜ノ如キ巨大ナル漿液膜内ニ浸淫シテ緊張セシムルニ至ルモノナリ

健体ニアリテハ腎臟ヨリ分泌スヘキ老廢物ヲシテ血中ニ停滯セシムルヲ以テ實ニ恐ルヘキ惡徵ヲ呈スルニ至ルモノナリ

神経系ヲ毒害スルキハ摘掣ヲ發シ而シテ其輕重一様ナラス故ニ唯々顔面諸筋ノ攣縮ヲ起スニ過キサルヲアリ或ヒハ前膊ノ諸伸筋ニ限局スルコトアリ又タ劇症ニアリテハ全身ノ摘掣ヲ起シ感覺閉止スルヲアリ或ヒハ諸隨意筋ノ間代摘掣ヲ發スルヲアリ食思歛乏シテ多クハ惡心嘔吐ヲ發シ偶マ下痢ヲ起シテ苦シムコトアリ

血液及ヒ蛋白質ヲ消失スルカ爲メニ老廢物ノ停滯ニ因テ血液ヲ毒害シ忽チニシテ全身ノ營養ヲ減殺スルコト甚タシキモノナリ

網膜ニ貧血ヲ起シ或ハ蛋白尿網膜炎ヲ發スルカ爲メニ視力ヲ損害スヘシ

經過時期及轉歸

頓發性ニ來ル所ノモノニアリテハ頗フル急劇ナルモノニシテ

劇熱ヲ發シ尋テ尿通頻數トナリ腎臟ノ症候ヲ現出スヘシ

熱症ハ二三日餘ニ渉ルモノ鮮ナク全身ノ抑壓甚タシキハ一週日ヲ經サルニ隔世ノ人トナルコトアリ

普通ノ症ニアリテハ諸症候ノ増進スルコト緩徐ニシテ尿ノ分泌量ヲ減スルコト甚タシキモノナリ故ニ小便ノ収瀆持久スルキハ水腫ノ症狀モ亦タ順テ増劇スヘシ

尿量ノ減スルヲ急劇ナルキハ浮腫ヲ發スルモ亦タ速カナルモノトス故ニ未タ一週日ヲ經サルニ危篤ナル全身水腫ヲ將來スルヲ鮮ナカラス

蜂窠織及ヒ諸腔内ニ水液ノ充満スルキハ腎臟ノ機能ヲ營爲スルノ度ニ依テ本症ノ輕重ヲ定ムルモノナリ故ニ縱令ヒ代償ノ排泄ヲ起シ一時ノ輕快ヲ得ルモ腎臟ノ機能ヲ整復スルヲ能ハサルキハ全治シタルモノト見做スヲ能ハサルナリ

急性腎臟炎ハ他ノ諸症ニ比スレハ危險ニ陥ルモノ少數ナリ故ニ統計上回復ノ轉歸ヲ取ルモノ頗フル多數ヲ有スルモノナリ

程紅熱患者ニ於テ本症ヲ發スルキハ專ラ程紅熱ノ經過ニ因テ異ナルノミナラス其時期ヲ遷延スヘシ

死亡ハ摘掣ニ基因スルモノアリ或ヒハ貧血持久スルカ爲メニ虚脱シテ斃ル、モノアリ或ヒハ食物ノ停滯ヲ起シ且同化機能ヲ妨クル所ノ腸胃症ニ因テ死スルヲアリ

偶々數週日間水腫嘔吐下痢及ヒ間代痙攣ヲ發スルノ後回復ノ機ヲ起スヲアリ而シテ治愈ニ趣クハ頗フル緩慢ナルモノトス故ニ全ク健態ニ復スルニハ三月以上ノ時日ヲ費ヤスモノ多シ

妊娠ニ發スル急性腎臟實質炎

此症ニアリテハ其經過及ヒ轉歸ニ於テ特異ナルヲ以

テ他症ト區別シテ論セサルヘカラサル所ノ要點アリ
 本症ハ通常二種ノ原因ニ依テ起ルモノナリ一ハ妊娠ノ爲メニ血液ノ成分ニ於テ缺乏ヲ
 誘起スルニアリ一ハ子宮ノ膨大ニ因テ腎靜脈ヲ壓スルカ爲メニ虚性充血ヲ起スニアリ
 「バアテル」氏ノ說ニ據レハ腎靜脈ハ壓迫ヲ受クルモ之レヲ防禦スルノ位置ヲ有スルカ
 故ニ縱令ヒ妊娠スルモ蛋白尿ヲ誘起スルモノ鮮ナシト雖モ特リ壓迫ノミナラス他ノ原
 因ヲ有スルキハ終ニ本症ヲ發スルニ至ル
 本症ハ特異ノ素因ニ依テ来ルアルカ如シ何ントナレハ偶マ急性腎臟實質炎ト同一ノ
 症狀ヲ呈シ終ニ慢性症ニ轉化スルモノニ於テ妊娠ヲ除クノ外他ニ原因ト見做スヘキモ
 ノヲ檢出スルコト能ハサルヲ以テナリ
 妊娠ノ初期二三月ニシテ腎臟ノ變状ヲ發スルコトアリ假令ヘハ視力變常、水腫及ヒ墮胎ヲ
 起シ或ヒハ視力變常及ヒ水腫ニ尋テ癭癭ヲ發スルコトアルカ如シ
 普通現ハル、所ノ病初ノ徵候ハ顔面及ヒ關節浮腫ヲ發シ尿道頻數ナリト雖モ予カ實驗
 セシモノニ於テハ視力變常殊ニ半視眼、重視又タハ視力遲鈍ヲ以テ起ルモノ頗フル多シ
 又タ頑固ナル癭癭ヲ以テ来ルコトアリ
 症ニヨリテハ消化系ノ變調ヲ除クノ外毫モ他ノ徵候ヲ呈セサルモノアリ故ニ妊娠ノ初

期ニアリテハ間マ之レヲ等閑ニ付スルコトアリ或ヒハ頑固ナル頭痛及ヒ眩暈ヲ發スル
 コトアリ
 偶マ身体健全ノ狀ヲ呈スルモノニ於テ突然搐搦ノ發作ヲ將来シ始メテ其初徵ヲ檢出ス
 ルコトアリ尿中ニハ多量ノ蛋白ヲ含有スト雖モ劇甚ナル浮腫ヲ起スモノ少ナシ
 本症ニ於テ最モ重要ナル症候ハ急劇ナル尿血症ヲ發スルニアリ而シテ搐搦ヲ發スルモ
 ノアリ或ヒハ精神錯亂ヲ起スモノアリテ一定セサルヲ常トス
 蛋白尿患者ニ於テ大數ノ比例ヲ取ルニ急劇狀ノ症候ヲ發スルモノ殆ント四分ノ一二居
 ル而シテ其症候ヲ發スルモノニ於テ斃ル、モノ三分ノ一ナリト云フ
 吸収ヲ起シ或ヒハ排泄ノ爲メニ俄然諸症候ノ減退スルコトアリト雖モ多クハ慢性ノ症
 狀ニ陥リ爾後妊娠ニ因テ増劇シ終ニ斃ル、モノナリ
治 則 腎臟ハ常ニ刺衝ノ狀ヲ呈スルカ故ニ諸般ノ衝動劑ハ皆ナ悉トク禁セサル
 ヘカラス故ニ治術ヲ施サント欲スルキハ先ツ腎臟ヲシテ靜止休養セシムルカ爲メニ代
 償機能ヲ振起スルノ策ヲ運ラサ、ルヘカラス其法他ナシ皮膚及ヒ腸粘膜ノ作用ヲ活潑
 ナラシムルニアリ
 諸症候ノ急劇ナルハ「ピロカルピン」(大人ノ量十二分ノ一、五〇〇〇五、五)ヲ注射シ

或ヒハ蒸氣浴及ヒ温罨法ヲ施コシ皮膚ノ機能ヲ催進スヘシ
 新約兒克府ノ大家「バアタル」氏ハ心臟ノ抑壓ヲ起スコトアルカ故ニ「ピロカルピン」ヲ
 用フルキハ最モ細心セサルヘカラサルコトヲ論セリ
 水瀉下痢ヲ多服セシムルキハ良驗ヲ現ハスヲアリ
 胃ノ刺衝甚タシキモ腎臟ノ症候危篤ナラサルキハ少量ノ甘草(六分ノ一)ガラム(一)ヲ反復ス
 ルヲ良トス
 急性尿血症ヲ誘發スルキハ「エラトリウム」巴豆油又タハ藤黃ノ如キ峻下痢ヲ投シ
 爾後水瀉下痢ヲ多服セシムヘシ
 急劇ナル療法ヲ要セサルモノニアリテハ後方「ヤーラツパ」散ヲ最良トス而シテ之レヲ
 投スルニハ毎日早晨ニ頓服セシムルキハ爾後他ノ藥劑ヲ與フルニ當テ大ヒニ其効力ヲ
 扶クルモノトス
 腎臟ノ充血ヲ退消セシメ細尿管ノ阻塞ヲ除却スルニハ稀釋飲料ヲ多服セシムヘシ最モ
 重要ナル稀釋飲料ハ牛乳及ヒ酒石英ノ稀釋水ナリ
 胃ノ刺衝ヲ起スキハ牛乳ニ四分ノ一乃至三分ノ一ノ石灰水ヲ加フヘシ
 寶芝多利斯浸ニ酒石英ノ稀釋水ヲ伍用スルモ可ナリ

胃中ニ於テ寶芝多利斯ヲ受容スルヲ能ハサルキハ背部或ヒハ腹部ニ於テ巴布劑トナシ
 テ貼用スルキハ奇効ヲ奏スヘシ
 痙攣ヲ發スルモノニアリテハ最モ有効ナル治法ヲ撰マサルヘカラス故ニ患者稟生多血
 質ニシテ皮下靜脈膨滿シテ結膜モ充血ヲ起スキハ刺絡ニ因テ放血スルキハ忽チ頓挫ス
 ルヲアリ又タ暴劇ナル症候ヲ發スルモノニアリテハ「コロ、ホルム」ノ呼吸法ヲ稱用ス
 ルモノアリト雖モ新約克府ノ醫士「ルーミス」氏ノ法ニ從ヒテ速カニ莫爾比涅ノ皮下注
 射ヲ施スヘシ而シテ其大量ヲ用フルキハ必ラス尿血症ノ痙攣ヲ制止スヘシ故ニ當初莫
 爾比涅半(〇・〇三)ガラム(一)ヲ注射シ時宜ニヨリ二三時間毎ニ反復シテ全量ニ(〇・一)ニ
 達スルキハ後用ヲ止ムヘシ
 同氏ノ說ニ據レハ當初大量ヲ用フルモ効驗ナキハ敢テ恐ル、一ナク之レヲ反復シテ其
 効力ヲ現ハスニ至ルヘシト云フ
 温浴ヲ命シ且ツ勉メテ有力ナル下痢ヲ服用セシメサルヘカラス又タ格魯刺兒ヲ内服セ
 シムルキハ偉効ヲ奏スヘシ而シテ胃ニ耐エサルキハ直腸ヨリ注入スルモ可ナリ
 大量ノ臭素加里ニ格魯刺兒ヲ加ヒ或ヒハ單味ヲ取り内服ニ供シ或ヒハ直腸ヨリ注入ス
 ルモノアリ

尿血症ノ中毒ニ基因スル所ノ産婦ノ精神錯亂ヲ起スモノニアリテハ亦タ本症ノ治法ニ
準據スヘシ

原因

○慢性腎臟實質炎

名原 クロニツクハーレンシマトーム ニツフリチス
CHRONIC PARENCHYMATOUS NEPHRITIS.

慢性腎臟實質炎ハ急性症ニ繼發スルモノ極メテ鮮ナシトス

本症ハ多ク少年ノモノヲ侵カシ易ク四十歳以上ノ人ニ至テハ最モ稀レナリ

微毒、慢性泥沼毒、化膿遷延、慢性酒精中毒、慢性水銀中毒及ヒ諸般ノ鑛屬性中毒ノ如キ
永遠生カヲ抑壓スル所ノ原因ハ皆ナ本症ヲ誘起スヘシ

病理的解剖

諸種ノ腎臟病中特ニ此症ニ罹ルルハ所謂腎臟增大シテ蒼白色ヲ呈シ

且滑澤トナルヲ最モ著ルシキモノナリ

腎臟ハ兩側共ニ侵カサル、トアリ或ヒハ一側ニ限ルトアリ

嚢体ハ久シク緊張セラル、カ爲メニ菲薄トナリ之レヲ截斷スルルハ容易ニ剝離スヘシ
皮質ハ蒼白色ニシテ稍々黄色ヲ呈シ且貧血ヲ起スヘシト雖モ圓錐体ハ尿管ノ膨滿スル
ト甚タシク暗赤色ヲ呈ス故ニ腎臟ノ容積ヲ増大スルハ専ラ皮質ノ變厚ニ由テ来ルモノ
ナリ

徵候

ニ萎縮症ヲ發スヘシ

腎臟ノ變狀最モ甚タシキハ細尿管ノ間隙ニアル所ノ結締織増殖シ尋テ収縮ヲ起シ終

腎臟諸病中此症ヲ發スルルハ病初ノ徵候ヲ以テ判斷スルヲ能ハサルヲ最

細尿管ノ上皮ハ急性症ノ如ク腫脹ヲ起スノミナラス重要ナル變狀ヲ現ハスモノナリ即
チ其一分ハ剝脫シテ消滅シ一分ハ細胞内ニ脂肪ヲ含蓄シ終ニ脂肪變質ヲ起スヘシ故ニ
細尿管ノ内部ニハ上皮ノ破壊ニ因テ生スル所ノ老廢物ヲ以テ充填シ多クハ脂肪球ヨリ
成リ或ヒハ巨大ナル圓塊ヲ以テ阻塞セラル、カ如キコトアリ

細尿管ノ間隙ニアル所ノ結締組織ニ於テ成形機亢盛ヲ起シ白血球ノ移殖及ヒ繁殖變形
ヲ現出シ又脂變ヲ發シ滲出液ヲ生スルハ靜脈ノ壓迫ニ基因スルモノトス

麻兒比安氏小球体及ヒ動脈管共ニ侵カサル、トアリ「バアテル」氏ノ說ニ據レハ慢性膿
腺ヲ起ス所ノ患者ニ於テ粉質變性ヲ起スコトアリト云フ而レモ「リンドフリークス」氏
ノ如キハ頗フル稀有ノ變症ト見做ナセリ

數多ノ細尿管ヲ侵カスルハ永遠全ク其機能ヲ營ムコト能ハサルニ至ルカ如キハ實際上
疑フヘカラサル所ナリ然リト雖モ腎臟ヲ侵カス所ノ部位廣大ナルモノニアリテハ回復
ヲ起スコトアリ

モ多シトス

病初稍々体力ノ減殺ヲ覺エ輕微ノ操作ヲ試ムルモ疲勞シ易ク精神鬱屈シテ食思ヲ失フニ過キス尋テ貧血ノ症狀ヲ呈シ顔面蒼白色トナリ或ヒハ土色ヲ帶ヒ眼瞼及ヒ踝關節ニ浮腫ヲ起シ始メテ腎臟病ノ真症ヲ徵スヘシ

既ニ此期ニ迫マルルキハ水液ノ貯溜スルヲ願フル迅速ニシテ幾干モナク全身悉トク腫脹スルニ至ル

蜂窠組織陰莖及ヒ陰囊共ニ緊滿スルヲ甚タシク爾後全身諸部ノ腔内悉トク膨滿シテ終ニ肺水腫或ヒハ心臟麻痺ニ因テ斃ル、トアリ

本症ニ基因スル所ノ水腫ハ他ノ腎臟諸症ニ比スレハ最モ多數ヲ占ムルモノナリ

水液ノ増加スルニ順テ尿量ノ減少スルハ理ノ將サニ然ルヘキ所ナリト雖モ末期ニ比スレハ當初未タ腎臟ノ疾患ヲ徵知スルヲ能ハサルノ時ニ於テ尿量ノ減スルヲ最モ著ルシキモノナリ

本症ノ極期ニ達スルキハ一晝夜間ニ排泄スル所ノ尿量頗フル減少シテ四汚(三〇〇〇ガラム)ヲ超ユルヲナシ而レモ水液ノ量ヲ變スルカ爲メニ甚タシキ波動ヲ起スモノナリ尿色曇濁シテ透明ナラス而シテ其量ノ減スルニ從テ益々増劇スヘシ

尿液ヲ取り之レヲ冷却スルキハ尿酸塩類、上皮圓錐ノ爲メニ稠厚トナルヘシ

尿中ノ沈澱物頗フル多クシテ尿酸塩類、尿酸、圓錐、白血球及ヒ顆粒狀老廢物ヨリ成ル

病初ニアリテハ圓錐ノ形狀蒼白色ノ軟弱ナル硝子様ノ圓筒ニ類シ處々ニ脂肪球或ヒハ顆粒体ヲ以テ斑點ヲ生シ狭小ニシテ長キモノアリ或ヒハ彎曲シテ短カキモノアリ而シテ病機増進スルニ從テ圓錐ニ變狀ヲ起コシ顆粒体及ヒ脂肪益々増加シ狭小ナルモノヲシテ移轉セシムルモノナリ

尿液ノ異重ハ排泄量ノ變スルニ從テ増減アルモノトス通常「一〇三五」ニ至ルト雖モ排泄頗フル少量ナルキハ「一〇四〇」ニ達スルヲアリ

原因ノ何タルヲ問ハス尿液ノ排泄ニ於テ其量ヲ増加スルヲ若ルシキキハ必ラス是レニ順テ異重ヲ減シテ健態ノ度ヲ保ツヲ能ハサルモノトス

常ニ蛋白質ヲ含有スト雖モ其量多カラズ而シテ其増減ニ因テ異重ノ變化ヲ起スヘシ又尿素ノ如キモ同一ノ理ニ因テ増減スト雖モ多クハ健態ニ比スレハ少量ナリトス尿酸ハ尿素ノ減スルニ順テ増加スルモノナリ

水液ノ蓄積スルヲ甚タシク殆ント其極度ニ達スルキハ特リ皮下蜂窠組織及ヒ諸腔内ニノミ限局セサルモノトス故ニ粘膜炎ノ如キモ亦タ均シク侵カサル、モノナリ

病初ノ微候ニ於テ聲音啞嘶シテ調節ヲ失シ又タ喉頭ノ浮腫ニ因テ危險ナル喉頭狹窄ヲ發スルヲアリ

極期ニ達スルキハ必ラス肺臟ニ多少ノ浮腫ヲ起シ漸々水液ノ貯溜スルカ爲メニ斃ル、
アリ

腸胃粘膜ニモ亦タ浮腫ヲ生シ上皮細胞腫大シテ軟化及ヒ變質ヲ起シ尋テ大量ノ頽廢物ヲ流泄スヘシ終ニ漿液狀ノ液ヲ吐逆シ又タ腸管ヨリ大量ノ漿液ヲ排泄スルカ爲メニ虚脱ニ陥ルノミナラス消化及ヒ同化機能共ニ障礙セラル、ヲ以テ全身抑壓ノ極度ニ達スヘシ

外膜モ亦タ侵襲ヲ被ムルヲ多ク上皮細胞軟化シテ剝脱シ表皮ニアリテハ處々ニ裂溝ヲ生シ之レヲ抑壓スレハ水液ノ滴出ヲ起スヘシ而シテ真皮ニ刺衝ヲ起シ劇痛ヲ發スルヲ鮮ナカラス殊ニ陰囊ノ緊張スルヲ非常ナルモノニアリテハ服部ヲ壓迫スルカ爲メニ刺衝ヲ起スヲ頗フル多シトス

貧血ノ極度ニ達スルハ諸般ノ感動ニ基因スルモノナリ假令ヘハ消化機能、同化機能、血液ノ性分及ヒ呼吸機能共ニ衰耗スルカ如キモノ皆十是レカ原因トナルモノナリ
水腫ノ爲メニ全身補ヤ膨滿スト雖ヒ瘦削シテ衰弱スルヲ最モ甚タシトス

脈搏微細ニシテ壓止シ易ク且頻數トナルヲ常トス

病初健全ナル人ヲ侵カシ俄然脈搏緩徐ニシテ強實トナリ心臓ノ音響頗フル銳敏ニシテ高調トナリ病機増進スレハ始メテ諸般ノ變徵ヲ呈シ脈搏ノ症狀モ亦タ本徵ヲ呈シ心臓ノ音響モ之レニ順テ幽微トナルモノナリ

肺臟ニ浮腫ヲ起スキハ呼吸促進シ又タ肋膜腔及ヒ心囊内ニ多量ノ滲出物ヲ生スルキハ呼吸益々困難トナリ患者横卧スルコト能ハス將サニ窒息セントスルモノ、如シ

尿血症ハ急性症ニ於テ見ルカ如ク屢々繼發スル所ノ變徵ニアラサルナリ而レハ黑内障筋攣肉潤及ヒ全身若シクハ局處ノ搐掣ヲ發スヘシ

經過時期及轉歸

病初ノ微候曖昧タルモノニアリテハ水腫ノ諸症狀ヲ呈スルノ時ニ至ラサレハ本症ノ正徵ヲ認ムルコト能ハサルモノナリ

偶マ暴劇ナル微候ヲ以テ起ルコトアリ此時ニアリテハ身体ノ浮腫ヲ起スコト最モ急劇ナルモノ多シ

一局處ニ浮腫ヲ檢出スルキハ暫時ニシテ全身ノ水腫ヲ發スルニ至ル而シテ是レカ爲メニ緊滿ノ極度ニ達スルキハ生命ノ旦夕ニ迫リタルヲ知ルヘシ

水腫ヲ發スルキハ必ラスシモ一時ニ頓發スルモノニアラス未タ浮腫ノ症候ヲ呈セサル

ニ當テ數月間蛋白尿ヲ發スルコトアリ斯ノ如キ症ニアリテハ診斷ノ誤謬ヲ來メスコト鮮ナカラサルナリ
 佳良ナルモノニアリテハ水腫ノ症狀劇甚ナラス腎臟ノ作用ヲ歇止スルコトナク藥劑ノ効力ニ應シテ輕快スヘシ
 水腫ノ症狀益々甚タシク腎臟ノ作用衰耗シテ排尿頗フル少量ナルカ如キハ不良ノ轉歸ヲ取ルモノ多シ故ニ如何ノ藥劑ヲ投スルモ其作用ヲ整復スルコト能ハサルナリ
 現然水腫ノ症狀ヲ呈シ尿量増息シ滲出物ノ量ヲ減スルルハ一年以上ニシテ快復スルコトアリ而レハ全然健態ニ復スルモノ頗フル鮮ナシトス
 水腫消退シテ漸々快復ニ趣クモノト雖モ多クハ尿中ニ蛋白及ヒ圓塊ヲ混スルモノナリ斯ノ如キ症ニアリテハ全治スルコト少ナク漸々筋肉胞滿シテ惡液ノ症ヲ減シ体力モ亦タ大ヒニ回復スト雖モ再ヒ水液ノ貯溜ヲ起スコト鮮ナカラサルナリ
 尿中ニ蛋白ヲ混スルコト頗フル頑固ニシテ容易ニ消失セサルハ水腫ノ消退ヲ見ルモ尚ホ健態ニ復スルコト能ハサルノミナラス身體益々瘦削シテ蒼身症及ヒ貧血症ヲ誘起スヘシ
 死因ハ併發症即チ急性漿膜炎又タハ肺炎ノ爲メニ斃レ或ヒハ衰弱虛脱ニ因リ或ヒハ尿

血症ノ爲メニ昏睡ニ陥ルコトアリ

診斷

諸症候頓發スルルハ熱症ヲ呈シ尿中ニ血液及ヒ圓塊ヲ混シ背部ニ疼痛ヲ發シ病勢急劇ナリ

緩慢ナル症ニアリテハ熱發ナク尿中ニ血液或ヒハ上皮細胞ヲ含有スルコト少量ノ蛋白ヲ混シ異重高クシテ「一〇三〇」以上トナリ病勢緩慢ナリ
 腎臟ノ萎縮スルモノニ於テハ尿性稀薄ニシテ異重低ク蠟樣ノ圓塊ヲ混スヘシ
 慢性腎臟實質炎ニアリテハ尿性稠厚ニシテ異重高ク夥多ノ巨大ナル顆粒狀圓塊及ヒ上皮細胞ヲ含有シ廣潤ナル部ニ水腫ヲ發スヘシト雖モ萎縮シタルモノニアリテハ水腫ノ症狀輕微ナリトス

豫后

頗フル危篤ノ症狀ヲ呈スルモノト雖モ豫后ノ不良ナルモノ少ナシトス故ニ甚タシキ水腫ヲ發スルモノニシテ回復シタルモノ鮮ナカラス加之ノミナラス滲出物消退シテ後數月間尿中ニ蛋白ヲ混スルモノト雖モ恢復スルコトアリ
 諸症ノ急劇ナルルハ水液ノ貯溜スルモノ亦タ迅カナルモノニシテ腎臟ノ機能活潑ナルモノニアリテハ豫后極メテ佳良ナリ
 病症ノ時期短少ニシテ尿性健態ヲ失スルコト甚シカラス又タ蛋白ノ量少ナキハ必ラス

豫后ノ善良ナルモノト見做スヘシ

微毒泥沼毒或ヒハ鉛毒ニ因スル惡液質ノ如キ原因ニ於テ治癒ノ望ミアルモノハ原因療法ヲ專ラトシ漸々其變狀ノ輕快スルニ順テ本症ノ病勢モ亦タ輕減スヘシ

治則

常ニ温暖ニシテ大氣ノ乾燥スルノミナラス一定シテ變換セサル時候ハ本

症ノ經過及ヒ轉歸ニ於テ最モ好結果ヲ與フルモノナリ故ニ時候ノ順和ナルヲ以テ最第一ノ治則ト見做スヘシ

若シ適當ナル時候ヲ得ルヲ能ハサルハ人エヲ以テ勉メテ病室内ヲ保護シ患者ノ意ニ適スルヲ良トス故ニ病室ヲ清潔ニシテ「フランケツト」ヲ敷キ又タ之レヲ被ラシムヘシ空氣ヲ温暖ナラシメ又タ「ピロカルピン」ヲ投シテ發汗ヲ促スヘシ

水液ノ蓄積過度ナルハ多量ノ下劑ヲ與フヘシト雖モ腸胃ノ刺衝充盛スルヲアルハ持長スルヲ能ハサルモノトス

發汗劑ヲ除クノ外他ニ施スヘキモノハ利尿劑ナリ而レモ水液牛乳又タ酒石英「レモナード」ノ如キ腎臟ノ血壓ヲ増加セサルモノニアラサレハ投スルヲ能ハサルナリ

學說上ニ於テハ腎臟多利斯ヲ投スルヲ能ハサルカ如シト雖モ排尿ヲ自在ナラシムルカ爲メニ最モ飲クヘカラサルヲ鮮ナカラス

腎臟多利斯ニ醋酸劑篤亞斯或ヒハ酒石英ヲ配伍スルハ共同シテ偉効ヲ奏スヘシ

諸腔内ノ膨滿スルヲ甚タシク順ツテ呼吸蓋々困難ナルハ吸入器アシスビレーターヲ以テ貯溜液ヲ排泄

シテ充分ニ輕快ヲ覺ユルニ至ルヘシト雖モ必ラスシモ腔内ヲシテ全ク空虚ナラシムルヲ要セサルナリ

呼吸困難ヲ將來スルハ專ラ腹水ニ因テ上方ニ壓排スルカ爲メニ起スルモノナリ故ニ多クハ腹膜腔内ノ液ヲ排泄スルヲ以テ足レリトス

陰莖及ヒ陰囊ノ緊滿スルヲ甚タシキハ皮膚ヲ穿刺セサルヘカラスト雖モ皮膚ノ剝脫ヲ起スヲアルヲ以テ最モ戒心セサルヘカラス

皮膚ヲ穿刺スルニハ通常ノ縫針ヲ用フルモノアリト雖モ「サウセイ」氏ノ套管針ハ尖銳ニシテ微細ナルヲ以テ人皆ナ之レヲ稱用セリ

手術ヲ以テ液体ヲ排除スルノ後ハ貧血症ヲ整復スルカ爲メニ鐵劑ヲ投スヘシ或ヒハ利尿劑ニ鐵劑ヲ伍用スルモ可ナリ

水腫ノ退消スルモ尚ホ腎臟病ノ症候ヲ存スルハ必ラス尿中ニ蛋白質ヲ含有スルカ故ニ治法ニ於テモ體質ノ消耗ヲ防キ其原因ヲ除却スルノ策ヲ怠ルヘカラス而レモ其回復ノ効ヲ奏スルハ最モ稀レナリ

予ハ注意シテ芫菁幾丁五滴一日三四宛ヲ投シ若シ効驗アルハ數月間持長スルモ妨ケナシ
近來新藥「メタニリン」ヲ稱用スルモノ多シト雖トモテカ實驗上未タ確効ヲ見サルナリ又タ現今魯國ヨリ輸入スル所ノ新藥「ブラツタ、オリータリス」(即チ油蝨)ヲ用フルモノ多シ

釋義

○腎臟質間炎 名原 インタルステ、アルニカリチス
INTERSTITIAL NEPHRITIS.

腎臟質間炎ハ慢性武雷篤氏病ノ一種ナリ

本症ノ字義ニ於テ種々ノ異名ヲ應用セリ假令ハハ纖維狀腎臟硬結症、萎縮腎又ハ顆粒腎等ト稱スルモノアリト雖トモトモト部位及ヒ性狀ヲ區別スルニハ腎臟質間炎及ヒ腎臟硬結症ノ二名ヲ正當トス何トナレハ當初結締組織ニ炎症ヲ發シ尋テ新生元質ノ収縮及ヒ壓迫ニ因テ萎縮症ヲ發スルヲ以テナリ

病原論

本症ハ肝臟ノ硬結症ノ如ク中年ノ人ヲ侵カス最モ多シ而レト「ギツキンソン」氏ノ説ニ據レハ五十歳前後ノ人ヲ襲フ最モ多ク二十年以上ノ人ニアリテハ頗フル稀レナリ

又タ同氏ノ統計ヲ見ルニ男子ハ婦人ニ比スレハ大抵二倍ニ居ルモノ、如シ而シテ獨逸國ノ著述家殊ニ「バアテル」氏ノ説ニ於テハ男子ニ多キヲ殆ント四倍以上ノ比例ナリト云フ

衣食住ノ景況ニ於テハ如何ナル生活ヲ營ムモノト雖トモト其侵襲ヲ被ムラサルモノナシ故ニ本症ノ發生ニ於テ敢テ關係ヲ有セサルモノ、如シ

痛風ハ重要ナル一原因トナルモノニ似タリ「ギツキンソン」氏ノ説ニ據レハ腎臟質間炎ニ因テ斃レタル患者六十九名中痛風ヲ誘發シタルモノ十六人ヲ檢出セリト云フ

痛風ハ鉛毒ニ暴露スル所ノ人ヲ侵カス一頗フル多シトス而シテ斯ノ如キ症狀ヲ發シタルモノニ於テ顆粒腎即チ痛風腎ヲ發スルモノ多キハ實ニ想像ノ外ニ出ツルモノ、如シ

「ギツキンソン」氏曰ク「シント、ジョーシ」病院ニ於テ療養セシ鉛毒患者四十二人中諸般ノ原因ニ依テ斃ル、モノ多シト雖トモト顆粒腎ニ基因セシモノ二十六名ノ多數ヲ得タリ

ト鉛毒ハ本症ノ原因ニ於テ第一位ヲ占ムルモノトス又タ他ノ鑛屬ニ因スル所ノ慢性中毒モ亦タ其發生ニ於テ幾分ノ感動ヲ有スルアルハ殆ント信據スルニ足ルモノナリ

千八百八十年七月ノ刊行ニ係ル所ノ米國學藝雜誌ヲ見ルニ有名ナル大家「ダ、コス」タ「ロングストレス」ノ二氏カ武雷篤氏病ニ於ケル神經節中樞機ノ症狀ト題シ最モ重

要ナル論説ヲ掲載セリ今マニ氏ノ論スル所ニ據レハ腎臟神經節ニ於テ變質ヲ現出セリト云フ

腎臟神經節ニ脂肪變質及ヒ萎縮症ヲ起シ結締組織ニハ成形機亢盛トナリ新生元質モ亦タ同一ノ變狀ヲ呈スヘシ故ニ同雜誌ノ記者ノ説ニ於テモ亦タ此諸症狀ヲ以テ腎臟病ノ原因ニ於テ關係ヲ有スルモノト思考スルカ如シ

予ハ數年米ノ實驗ニ於テ淋疾患者ノ治法ニ於テ「バルサム」其他油類ヲ用ヒ腎臟ニ障礙ヲ起コシ之レカ爲メニ腎臟質間炎ヲ誘發スルヲアルヲ信認セリ

近來「レーバルメーステル」及ヒ「バアテル」氏ハ淋疾ト腎臟トハ互ヒニ關係ヲ有スルモノトナセリ而レニ氏ノ説ニ於テハ膀胱ニ炎症ヲ起シ尋テ腎臟ニ蔓延スルモノト見做スニ過キサルナリ

病理的解剖

病機増進シタルモノニアリテハ多ク左右ノ腎臟共ヒ大ヒニ其容積ヲ減シ平素五六汚(一五〇〇〇乃)ナルモノ僅カニ二三汚(六〇〇〇乃)トナルヲアリ或ヒハ減量斯ノ如ク甚シカラサルヲアリ

通常左右共ニ同一ノ變狀ヲ呈スト雖ニ偶マ一方ニ於テ偏勝スルヲアリ囊體肥厚シテ不透明トナリ互ヒニ癒着スルヲアリ

腎臟ノ外面顆粒狀ヲ呈ス是レ即チ皮下ノ囊體突出スルヲ多ク粟粒大ナリト雖ニ多少差異ナキヲ得ス而シテ其突出面ハ灰白色ニシテ尿管ヲ有セスト雖ニ其間隙ノ陷没面ニ於テハ夥多ノ尿管ヲ有セリ

表面ニ於テ大小一様ナラサル囊狀體ヲ現出シ透明無色ナルアリ或ヒハ少シク黃色ヲ帶フルモノアリ之レヲ截斷スレハ腎臟ノ組織柔軟ニシテ彈力ヲ有ス

皮質モ亦タ萎縮症ノ爲メニ菲薄トナリ僅カ一二歩ニ過キサルナリ

外觀暗褐色又ハ帶褐赤色トナリ或ヒハ帶黃灰白色トナルヲアリ斯ノ如キ差異ヲ生スルノ理ハ腎臟ニ供給スル血液ノ少量ニ由ルモノナリ

顯微鏡ヲ以テ檢スルニハ「マルビキ」氏休及ヒ尿管ノ周圍又タハ囊體ノ下部ニアル所ノ結締組織ハ皆十悉トク肥厚スルヲ以テ尿管ノ壓排セラル、⁷甚タシク殆ント織糸ノ如キニ至ルヲアリ

偶マ處々ニ健全ナル尿管ヲ存シ上皮ノ如キモ變狀ヲ呈セサルヲアリト雖ニ其間隙ニアリテハ專ラ纖維組織ヨリ成リ唯タ消耗シタル尿管ノ遺殘ヲ存スルニ過キス

「マルビキ」氏体ハ尿管ノ消耗ニ因テ互ヒニ聚合シテ樹枝狀トナリ基底面ハ纖維狀結締織ヨリ成ルヘシ故ニ尿管ヲ離斷スルトキハ水液貯溜シテ囊狀ヲ呈スルコトアリ

然リト雖氏内部ニアル所ノ囊腫ハ多クハ阻害シタル細尿管ヨリ生スルモノナリ
本症ニ於テハ必ラス腎臓ノ全体ニ其變状ヲ發スルモノニアラス偶マ一局部ニ限ルア
リ故ニ一部ニアリテハ収縮シテ顆粒体ヲ呈スト雖氏他ノ部位ニアリテハ健態ト異ナラ
サルアリ

重要ナル疾患ノ部位ハ腎門ニアリ其他ノ部ハ唯タ斑点ヲ現出スルニ過キサレモノ多シ
腎臓ニ於テ硬結ヲ生スルノ不同ナルハ部位ニヨリテ病機侵襲ノ度ヲ異ニスルカ爲メナ
リ又タ病理的變状ヲ發スルハ必ラスシモ腎臓ニ限局セサルナリ

心臟ノ左側ニ肥大症ヲ發シ尋テ全身諸部ノ細動脈管ノ筋纖維ニ肥大ヲ起スヘシ

網膜ニ於テハ視力板ノ萎縮スルカ爲メニ一種ノ炎症ヲ發スヘシ之レヲ蛋白尿網膜炎ト
稱ス

尿管ニ於ケル變状ハ腦出血ノ重要ナル原因トナルヲ鮮ナカラス

徵候

本症ニ於テ病機増進スルノ頗フル緩慢ニシテ僅微ノ變状ヲ發スルカ故ニ
本症ノ正徵ヲ證明スルニ至ルキハ既ニ病症ノ末期ニ迫リタルモノト知ルヘシ
或ヒハ毫モ腎臓ニ限局スルカ如キ症候ヲ呈セサルアリ

患者俄然腦出血ニ因テ斃レ死体ヲ剖見スルニ當テ始メテ顆粒状ノ萎縮腎ヲ檢出スルコ

トアリ或ヒハ又タ局處若シクハ全身ノ摘掣ヲ發作スルアリ此時ニ當テ尿液ヲ檢スル
キハ蛋白質ヲ含有スヘシ

症ニヨリテハ頭痛及ヒ嘔血ヲ起シ消化不良、酸敗及ヒ風氣ヲ醸モシ其他ノ胃症ヲ發スル
アリ或ハ排泄頻數ニシテ夜間ニアリテハ屢々臥床ヲ離レテ安靜ヲ求ムルモノアリ或ヒ
ハ呼吸困難ヲ起シ頗フル喘息ニ類シ其輕快ヲ得ント欲シテ階段ヲ登リ或ヒハ劇甚ナル
操作ヲ試ムルモノアリ又タハ心悸動及ヒ喘息状ノ咳嗽ヲ發シ夜間ニ於テ安眠セント欲
シテ頭部及ヒ胸部ヲ高擧スルモ其効ナキヲ歎スヘシ

又タ特殊ナル症ニ於テハ頭痛、眩暈及ヒ視力變常ヲ將來シ毫モ其原因ヲ徵知スヘキ症候
ヲ呈セサルコトアリ此時ニアリテハ尿液ヲ檢シ蛋白質ヲ發見シテ始メテ其疑惑ヲ決ス
ヘシ

病初ノ徵候數多ニシテ一定セスト雖氏普通現ハルノ所ノ一症候ハ殊ニ夜間ニ於テ利尿
頻數トナルニアリ

最モ多數ニシテ摸範症ト見做スヘキモノニアリテハ尿液帶白色ニシテ異重最モ低ク其
量頗フル大ナリ或ヒハ稍々黃色ヲ帶ヒ又タハ無色ニノ弱酸性或ヒハ中性ノ反應ヲ呈シ
異重ハ「一〇〇三」ヨリ「一〇一〇」ノ間ニアリ

健康ナル大人ニ於テ一晝夜間排泄スル所ノ尿量平均四十汚(一、二〇〇〇〇)ナリト雖モ此症ニ惟ルハ「ガロン」(我カ二分)以上ニ達スルヲアリ
 微然尿量ノ減少スルヲ非常ナルモノハ必ラス腎臟ニ巨害ヲ起シタル前徵ニシテ尿血症ヲ發スルノ恐レアリ

尿中ニハ規則トシテ必ラス多少ノ蛋白質ヲ含有スト雖モ數日間其痕跡ヲモ見サルヲアリ或ヒハ本症ノ經過中之レヲ現出スルヲ僅々數日ニ過キサルヲアリ是故ニ屢々尿液ヲ檢シ若シ疑ハシキモノニアリテハ時期ヲ隔ツルモ之レヲ檢査スヘシ

蛋白質ハ多量ヲ含有スルヲ鮮ナシ味ニ病初腎臟ノ變狀甚タシカラサル時ニアリテハ頗フル少量ニシテ僅カニ混濁スルニ過キサルヲ以テ最モ細心シテ檢査セサレハ之レヲ發見スルヲ能ハサルナリ

蛋白質ノ量ハ食物ノ種類、生活ノ景況及ヒ尿液ノ排泄量ニ因テ異ナルモノトス
 尿中ノ固形分殊ニ尿素ノ減少スルヲ最モ著ルシク尿酸モ亦タ少量トナリ塩類モ亦タ之

レニ準スルヲ常トス是故ニ尿液ノ性状透明ニシテ清水ト異ナルヲナク沈澱物最モ少ナシトス

尿中ニハ面結晶ノ尿酸石灰、上皮細胞反ヒ硝子狀圓嚙ヲ含有スルヲアリ

尿液ノ沈澱中硝子狀圓嚙ハ最モ貴重ナル一成分タリ

圓嚙ハ其量少ナキヲ以テ之レヲ檢出セント欲セハ大量ノ尿液ヲ取り折出セシメサルヘカラス而シテ其色灰白透明ニシテ容易ニ其外膜ヲ見ルヲ能ハサルノミナラス偶々癒着シタル顆粒体及ヒ脂肪球ヲ除クノ外造構ヲ有セサルモノトス

此硝子狀圓嚙ハ腎臟實質炎ノ尿中ニ現ハル、所ノ帶黄灰白色ニシテ光線ヲ反射スルカヲ有スル所ノ圓嚙ト鑑別セサルヘカラス

病初ニアリテハ食思及ヒ消化共ニ健全ニシテ全身ノ榮養ヲ損害スルヲナシ而シテ早期ニ現ハル、所ノ徵候ハ煩渴引飲スルニアリ

食時ニ際シ飲料ヲ食ボルヲ甚タシク又タ其間隙ニ於テモ水ヲ飲ムヲ夥タシタ始終水液ノ身体ヲ通過スルヲ恰カモ河流ノ如キヲ覺フヘシ

暫時ニシテ食後苦悶ヲ起シ上腹部ニ疼痛ヲ覺エ上圍ニ際シ鼓脹風氣ヲ醸スヘシ
 病機増進スルニ從テ酸敗、嗜雜及ヒ抑壓性ノ惡心ヲ發シ又頭痛ヲ懣エテ常時歇ムヲナ

キニ至ル而シテ体重ノ減少ヲ起シ皮膚乾燥シテ汚垢ヲ生シ帶黄灰白色ニシテ屍体ニ類シ毛鬚モ亦タ枯槁シテ活機ヲ失シタルカ如シ

生力虚脱シテ瓊少ノ操作ヲ試ムルモ呼吸ニ煩勞ヲ覺ユヘシ是レ即チ一ハ身体ノ衰耗ニ

因リ一ハ心臟ノ變狀ヲ發スルカ爲メニ起ルモノナリ
心臟左側ノ諸腔ニ肥大症ヲ發シ其筋層ノ肥厚スルカ爲メニ全身諸部ノ細動脈ニ緊縮ヲ起シ張力ヲ増加スルヲ非常ナルモノアリ故ニ撓骨動脈ノ搏動頗フル強劇ニシテ張力ヲ有スヘシ

尿管中膜ノ筋纖維ノ肥厚スルヲ見ル又其原因ニ就テ種々ノ説ヲ唱フルモノアリト雖モ實際上現出スル所ナルヲ以テ人皆ナ疑ハサルカ如シ今マ其理由ヲ解釋スルニ當初細動脈管ノ張力ノ異常ナルカ爲メニ血液ノ循環ヲ阻塞スルニアリテ特リ左室ノ肥大ヲ誘起スルノミニアラサルナリ然リト雖モ末期ニ至ルキハ肥大シタル筋組織ニ變狀ヲ起シ即チ脂化スルカ爲メニ心動微弱ニシテ心音不明トナリ血行モ亦タ幽微トナル此症ニアリテハ水腫ヲ發セサルモノ多シ何ントナレハ浮腫ハ特リ腎臟ニ因テ來ルモノニアラスシテ諸般ノ併發症ノ爲メニ誘起セラル、ヲ以テナリ

泌尿機ニ障害ヲ起シ血中ヨリ尿成分ヲ泌別スルヲ能ハサルキハ水腫ヲ發スヘシト雖モ必ラス尿血症ノ症狀ニ因テ斃ル、モノトス
心臟瓣膜病殊ニ僧帽瓣ノ疾患ヲ發スルキハ踝關節及ヒ顔面ニ浮腫ヲ起スモノトス
肋膜炎或ヒハ肝臟病ニアリテハ胸水或ヒハ腹水ヲ誘起スヘシ

水腫ヲ發スルモ頗フル輕微ニシテ未タ死ヲ致スニ足ラサルモノニシテ唯タ僅カニ顔面及ヒ四肢ニ浮腫ヲ起スニ過キサルノ時ト雖モ俄然肺水腫ヲ發シテ斃ル、トアリ
本症ノ末期ニ迫マルキハ尿血症ノ徵候ヲ呈スヘシ既ニ前期ニ於テ發シタル惡心ノ症狀益々増劇シテ突然嘔吐ヲ發シテ制止スルヲナキノミナラス屢々反復スヘシ

嘔吐ハ必ラスシモ胃中ニ食物ノ停滯スルカ爲メニ發スルモノニアラス早晨ニ於テ胃ノ空虚ナル時ト雖モ亦タ之レヲ發スヘシ故ニ屢々苦煩性ノ嘔吐ヲ發スルノ後ニ至ルキハ異重最モ低ク弱酸性ノ反應ヲ呈スル所ノ水液ニ少量ノ粘液ヲ混シタルモノヲ吐逆スルニ過キサルナリ

下痢モ亦タ漸次増劇シテ末期ニ至ルキハ殆ント制止スヘカラサルモノトス而シテ大便ノ性状稀薄ニシテ多量ナリ終ニハ殆ント水様トナリ少量ノ粘液ヲ混シ其氣頗フル輕微ニシテ殆ント糞臭ヲ帯ヒサルカ如ク不時ニ排泄シテ豫知スルヲ能ハサルニ至ル尿液中ニ含有スル所ノ固形分ノ量益々減スルカ故ニ其大半ハ嘔吐及ヒ下痢ヲ以テ代償ヲ營ムモノナリ

排泄物ノ増加スルニ順テ虚脱益々甚タシク終ニ尿血症ノ徵候ヲ呈スヘシ此時ニ達スルキハ頭痛眩暈益々増劇シ精神遲鈍トナリ昏睡狀ニ陥リ他人若シクハ外物ノ耳目ニ觸ル

モ感覺スルヲナク患者常ニ椅子ヲ擁シテ假睡シ夜間ニアリテハ睡眠中ニ卒覺スルヲ多ク又タ筋搦肉潤シ或ヒハ呼吸困難ノ爲メニ俄然跳躍スルヲアリ末期ニ迎ルキハ調節不正ナル摘製及ヒ隨意筋若シクハ顔面或ヒハ四肢ノ諸筋ニ痙攣ヲ起シ或ヒハ全身ノ摘製ヲ發スルヲアリ

患者ヲシテ充分ニ醒覺セシムルハ精神全ク識力ヲ有スヘシト雖ヒ暫時之レヲ放置スルハ忽チ感覺閉止ノ狀ヲ呈シ或ヒハ精神錯亂及ヒ強劇ナル苦悶ヲ起シ或ヒハ摘製狀ノ發作ヲ將來シ其間歇時ニアリテハ知覺ヲ失スルモノアリ

腎臟質間炎ニ於テ病初ノ徵候ハ多ク視力衰耗、重視眼、半視眼其他ノ視力變常ヲ發スヘシ故ニ前章ニ述フル如ク斯ノ如キ症候ヲ檢出スルモノニアリテハ當初眼科醫ノ診斷ニ因テ始メテ本病ヲ認ムルヲ鮮ナカラス

病初檢眼鏡ヲ以テ窺フハ網膜ノ視點ニ於テ腫脹ヲ起シ靜脈怒張シテ隆起スト雖ヒ細動脈管ハ差少スヘシ又タ網膜ニ於テ大小一様ナラサル白色ノ斑點ヲ現出シ脈管ノ徑路ニ沿フテ出血性滲漏ヲ起スト雖ヒ多クハ視點ノ周圍及ヒ黃斑ノ近傍ニ現出スヘシ

倫敦ノ大家「デー、クリホルド、アルバット」氏カ著ハセシ眼科書中本症ノ條下ヲ見ルニ兩眼ヲ侵襲スト雖ヒ左右共ニ同一ナルモノニアラスシテ必ラス輕重ノ差アルモノトナ

セリ

本症ノ經過中斯ノ如キ變狀ヲ起シ持久スルハ網膜ニ變化ヲ呈セシテ失明スル所ノ奇症ヲ發作スルヲアリ

他ニ頑固ナル疾患ヲ有セサルモノニ於テ筋搦肉潤若シクハ摘製ヲ發スルカ如ク網膜ニ變狀ヲ呈セシテ全ク視力ヲ失フヲアリ

經過時期及轉歸

腎臟質間炎ハ頗フル緩慢ナル疾患ニシテ病初尿利頻數ノ徵候

ヲ現出シテヨリ諸官能ノ衰耗ヲ將來スルノ時ニ至ルマテ數年ヲ要スルモノ多シ

前章ニ記シタルカ如ク急劇ナル病初ノ徵候ヲ發スルモノニアリテハ隱然腎臟ニ疾患ヲ醸モシ毫モ其機能ヲ妨クルヲナク暴劇ナル症狀ヲ發スルニ至ルマテ變調ヲ現ハサ、ル

モノナリ故ニ患者偶マ市街ヲ逍遙スルニ當テ突然暴劇ナル摘製ヲ發シ二三時間ニノ昏睡狀ニ陥リテ死スルヲアリ是レ恐ラクハ數月若シクハ數年前ヨリ隱然病患ヲ醸成シテ以テ頓發ノ狀ヲ呈スルモノナラン

是故ニ本症ノ時期ハ之レヲ明言スルヲ頗フル困難ナリトス

轉歸ハ多ク尿血症ヲ發シ摘製及昏睡ヲ將來シテ終ニ鬼籍ニ登ル或ヒハ脈管ノ變狀及ヒ心臟肥大症ニ因テ腦出血ヲ起シ是レカ爲メニ死スルモノ鮮ナカラス

又排泄スヘキ老廢物ヲ血中ニ吸收シ遂ニ漿膜ノ炎症殊ニ心囊炎及ヒ心内膜炎ヲ發シテ
斃ル、モノアリ
偶マ粘膜炎ヨリ出血シ或ヒハ暴劇ナル嘔吐及ヒ下痢ニ因テ虚脱ヲ起コシ終ニ再々起
タサルヲアリ

診 断

既ニ蛋白尿ノ發現ヲ微知スルキハ本症ノ診斷ニ於テ困難ヲ起コスナシ
排尿ノ量頗フル多ク尿色稀薄ニシテ異重低ク蛋白ノ量少ナク硝子狀圓塊ヲ含ミ心臟及
ヒ細動脈管ノ肥大ヲ起スハ之レニ反シテ尿量減少シテ尿色濃稠トナリ異重高ク蛋白
質及ヒ顆粒狀圓塊ヲ含有スルコト頗フル多ク順ツテ水液ノ蓄積スルヲ最トモ迅速ニシ
テ全身ニ波及スルモノトハ腎壞ノ差アルヲ知ルヘシ是レ即チ本症ト腎臟實質炎ト臨床
實驗ニ於テ異ナル所ノ要点ナリ

病理上ノ検査ニ於テハ本症ニ罹ルキハ腎臟ノ容積ヲ減シ靱軟ニシテ顆粒狀ヲ呈シ實質
炎ニアリテハ容積ヲ増加シ泥軟蒼白色ニシテ滑澤トナルヲ以テ自ツカラ明了ナリ

治 則

腎臟實質炎ニ罹リ既ニ固有ノ分泌機ヲ破壞スルキハ再ヒ回復スルヲ能ハ
サルヲ以テ吾人ハ勉メテ病初ノ變狀ヲ制止スルノ策ヲ運サ、ルヘカラス
微毒又ハ鉛毒其他ノ鑛屬ノ中毒ニ因スルモノハ適宜ノ療法ヲ施コスハ之レヲ治スル

コトアリ故ニ大量ノ沃度加里ヲ持長スルキハ意外ノ好結果ヲ見ルヘシ

予ハ屢々沃度ノ塩類ヲ持久シテ病機ヲ挫折セシメタリ又タ或ル人ハ少量ノ腐蝕格魯兒
(二十分ノ一 $\frac{1}{10}$ 〇)ヲ連用シテ治効ヲ奏スルコトアリト云フ而レモ吾人ハ之レヲ保証
スルコト能ハサルナリ

予カ見ヲ以テスルキハ格魯兒金ノ少量ヲ單用シ或ヒハ格魯兒曹達ヲ伍シテ持長セシム
ルキハ必ラス良効ヲ奏スヘシ又タ砒石劑ヲ投スルモ可ナリ故ニ肝臟ノ硬結症ノ如ク本
症ニアリテモ砒石ヲ服セシムルキハ必ラス病機増進ノ度ヲ遲退セシムルノ理ナリ而シ
テ之レヲ處スルニ當テハ胃ニ於テ鎮靜ノ効ヲ奏シ食思及ヒ消化ヲ催進セシムルカ爲メ
ニ注意シテ少量ヲ投セサルヘカラス

微毒ノ病歴ヲ有スルモノニアリテハ結締組織ノ成形機充盛ヲ防クノ目的ヲ以テ沃度加
里ニ昇汞ヲ配伍スヘシ又鉛毒ニ基因スルモノハ沃度加里ヲ單用スルヲ以テ足レリトス
原因ノ不明ナルモノニ於テハ格魯兒金ニ砒石ヲ加フヘシ

酸敗及ヒ風氣ヲ醸モシ食後疼痛ヲ懣フルモノニアリテハ食後ニ稀塩酸ヲ與フヘシ
本症ニ於テ病勢ヲ増劇セシムル所ノ原因ハ尿酸ナルヲ以テ之レヲ構成スルノ機ヲシテ
減衰セシムルノ策ヲ必要トス

鐵酸ハ食物ノ酸性發酵ヲ制止シ食思ヲ進メ消化ヲ健運スルノ効カヲ有スルカ故ニ含窒物ヲシテ同化作用ヲ起サシムヘシ
貧血ノ症狀ヲ呈スルハ鐵劑ヲ投スヘシト雖其効カヲ現ハスコト著ルシカラサルモノトス而レモ最モ緊要ナル鐵劑ハ格魯爾鐵丁酸鐵酸「アンモニヤ」水及ヒ錯酸ヨリ成ル所ノ醋酸鐵丁酸ナリ

鉄劑ヲ多服セシメ又タハ持長スルカ爲メニ頭痛及ヒ胃症ヲ發スルハ後服ヲ歇メサルヘカラス故ニ病初ヨリ注意シテ少量ヲ投スヘシ

尿血症ノ徵候ヲ呈スルハ其治法ニ臨ンテ最モ注意セサルヘカラス未タ胃腸ヲ害セサルハ内服藥ヲ以テ是レリトス而レモ頗フル劇烈ニシテ制止スヘカラサル嘔吐及ヒ下痢ヲ發スルハ尿血症ノ一徵ナルヲ以テ其治法頗フル困難ナリ

尿血症ヲ發スルモノニアリテハ「エラトリウム」巴豆油及ヒ後方葯劑巴散ノ如キ有力ナル下痢ヲ投シ腸管ノ排泄ヲ促カスコト最モ緊要ナリ

嘔吐及ヒ下痢ヲ發スルハ下痢ヲ禁止シ專ラ蒸氣浴温浴及ヒ「ピロカルピン」注ノ皮下射法ヲ施コシテ發汗ヲ促カスヘシ

患者ノ体力未タ衰耗セサルモノニ於テ腎臟ノ危險症ヲ發スルハ下痢ヲ投シ兼テ温

浴法或ヒハ「ピロカルピン」ノ皮下注射法ヲ施コスハ偉効ヲ奏スヘシ

尿血症ニ因テ摘製及ヒ神經症ヲ發スルハ排泄ヲ催進スルヲ以テ緊要トス而レモ諸症候ノ危急ニ迫マルハ「硝酸」アミール「コロ、ホルム」及ヒ依的兒ノ吸引法ヲ用フヘシ

新約兒克府ノ大家「ルーミス」氏ハ尿血症ノ摘製ヲ發スルモノニアリテハ大量ノ莫爾比涅ヲ皮下ニ注射スルハ必ラス良蹟ヲ脩ムヘシト云ヘリ而レモ格魯爾兒（内服又タハ直腸注射）ノ効カニ及ハサルヲアリ

初期ヨリ滋養法ニ注意スルヲ最モ緊要ナリ而シテ食物ハ復雜ナラサルヲ良トス故ニ牛乳鶏卵及ヒ少量ノ鮮肉ヲ與ヒ下痢ヲ發セサルハ果物ヲ投スルモ可ナリ或ヒハ專ラ牛乳ノミヲ與ヒ他ノ食物ヲ禁スルハ必ラス良驗アリト雖モ患者是レニ耐エサルモノ多シ酒精葡萄酒殊ニ麥酒ノ如キハ嚴ニ之レヲ禁セサルヘカラス

衣服ハ專ラ温暖ナルモノヲ撰ヒ日中ハ「フランネル」ヲ襪衣トナシ夜間ニアリテハ「フランクツト」ヲ以テ身体ヲ被包スヘシ

時候ハ常ニ温暖ニシテ乾燥シ寒暑ノ劇變ナキ地ヲトシテ住居セシムヘシ

近世「スパークス」及ヒ「ブルース」ノ二大家カ實驗セシ蛋白質ノ排泄ニ於テ食物ト身体ノ動靜トニ関スル成績ヲ見ルニ牛乳及ヒ非含窒物ヲ食セシムルハ蛋白質ノ量ヲ減ス

ルノ頗フル多ク而シテ身体ヲ安靜ナラシムルハ亦タ蛋白質ノ排泄ヲ減スルモノナリト云フ

釋義

○腎臟粉質變性 アミロイド ジスイー ス オフ キドニー
AMYLOID DISEASE OF KIDNEY.
粉質病ナル文字ハ澱粉樣質ノ沈着ニ基因スル所ノ正徴ヲ有スル疾患ヲ斥ス腎臟ヲ侵カスハ其形狀頗フル豚脂及ヒ膿質ニ類似スルヲ以テ豚脂腎又タハ膿樣腎ノ異名アリ

原因

大家「デツキンソン」氏ハ本症ヲ區別スルカ爲メニ清良機浸潤ト稱セリ
主要ノ原因ハ化膿ニシテ殊ニ經久膿腫スルモノ、骨質ノ海綿体ヲ侵蝕スルモノ或ヒハ皮膚及ヒ粘膜ヲ癩フ所ノ潰瘍ヲ以テ最トス
膿腫多量ニシテ持久スルモノハ重要ノ原因ヲ爲スト雖モ骨質ヲ侵カスノミニシテ他ノ組織ニ波及セサルハ敢テ其力ヲ有セサルナリ
獨リ膿腫ヲ以テ澱粉樣質ノ沈着ヲ誘起スルニ足ルヘキ感動ヲ有スルモノニアラス必ラス稟生特異ノ體質ヲ有スルヲ以テ偶マ化膿ヲ起スハ之レカ爲メニ本症ヲ發スルモノ、如シ故ニ實際粉質變性ヲ起スモノハ少數ニ過キサルナリ

慢性泥沼毒ノ感染シタルモノニ於テ本症ヲ發スルモノ多キカ如シト雖モ黴毒、瘰癧、結核殊ニ癌腫ノ如キ惡液ノ素質アルモノハ一層有力ナル感動ヲ起スモノナリ
今日ノ學問ニ於テハ諸種ノ惡液質ト粉質症トノ關係ヲ説明スルノ能ハスト雖モ惡液質ニ加フルニ多少ノ經久膿腫ヲ起スハ必ラス本症ヲ誘起スルノ明亮ナルカ如シ
「バアテル」氏ノ說ニ據レハ腸管ノ粘膜ヲ侵カス所ノ潰瘍ハ他ノ粘膜面ニ發スルモノニ比スレハ粉質病ヲ誘發スルノ多シト云フ加之ノミナラス化膿ノ中心ハ此特異性ヲ有スルカ爲メニ空氣ト交通セサルヘカラスト云フ
澱粉樣質ノ沈着スルハ必ラス一機關ニノミ限局スルモノニアラス肝臟、脾臟、腸管、副腎、淋巴腺、甲狀腺及ヒ腎臟ノ如キ皆ナ之レヲ發スヘシ

病理的解剖

澱粉樣質ナル文字ハ元ト大家「ワルシユウ」氏カ首唱セシ所ニシテ沃度ヲ以テ試験シタル反應ニ因テ命シタルカ如シト雖モ其造構ニ至テハ澱粉ニ類スルノ最モ少ナキモノトス
「デツキンソン」ノ學說ハ此粉澱粉樣質ハ膿汁トナリ身体ヨリ排泄シタル纖維素ニ其含有スル所ノ亞爾加里塩ヲ脱却シタルモノニ過キスト云フ千八百八十年二月及ヒ三月ニ於テ發見シタル倫敦「ランセツト」ト題スル醫事新聞ニ掲載セル「ギョージ、バッド」君カ

試験セシ成績ヲ見ルニ全ク「デツキンソン」氏ノ説ヲ非難セリ
 今マ「バツド」氏ノ實驗説ヲ述フレハ此症ニ罹リタル機関ノ細胞体ハ漸々半透明ノ沈着
 物ヲ以テ緊満ヲ起シ直チニ細胞間ノ空隙ニモ亦タ同一ノ沈着ヲ起スヘシ
 健体ノ血中ニ其特異ノ性状ニ於テ澱粉様質ト異ナラサル所ノ物質ヲ含有スルノ頗フル
 多量ナリ「シーゲン」氏ハ之レヲ「デアーストロボデキストリン」(榮養不全ナル
 澱粉ノ義ナリ)ト稱セリ
 是故ニ豚脂變性(即チ粉質變性)ヲ發スルハ此「デアーストロボデキストリン」ナルモノ不
 溶解物トナリ血中ニ沈澱ヲ起シ終ニ組織内ニ沈着スルニ因スルモノト見做スヘシ
 此物質ハ澱粉様質ノ如ク沃度ヲ以テ試験スレハ反應ヲ呈スルノミナラス其他ノ性状共
 ニ異ナラサルヲ以テ此説ニ左祖スルモノ多シ
 腎臟ニ於テ澱粉様質ノ沈着ヲ起スノ廣大ナルキハ腎臟ノ容積及ヒ重量共ニ健態ニ比ス
 レハ増加スルノミナラス其組織モ亦タ甚タ緻密ナルモノトス
 囊体頗フル菲薄トナリ容易ニ剝離シ易ク腎臟ノ外面灰白色ニシテ光澤ヲ有シ恰カモ磨
 拭シタルカ如シ
 皮質ノ部ハ廣大ナリト雖モ蒼白色ニシテ貧血狀ヲ呈シ之レニ反シテ圓錐体ハ暗赤色ト
 トナリ充血シタルモノ、如シ

顯微鏡ヲ以テ檢スルニ腎臟ニ於テ現ハル、所ノ變狀ハ尿管ノ徑路ニ沿フテ現ハル、モ
 ノナリ而シテ當初「グロメリー」氏体ノ尿管叢ニ於テ處々ニ遊離点ヲ生シ尋イテ尿管ノ
 全長ニ蔓延スヘシ
 病機増進スルニ從テ輸出入ノ兩尿管及直尿管ニ達シ終ニ腎臟上皮ヲ侵カシ甚タシキハ
 細尿管内ニアル所ノ圓嚢ニ至ルマテ粉質ノ沈着ヲ見ルヘシ
 被患ノ腎臟ヲ取り之レヲ截斷シテ薄片トナシ白色ナル陶器ニ入レ沃度ト沃度加里トヲ
 溶解シタル液ヲ注クキハ健康ナル組織ハ黄色ヲ呈スト雖モ變質シタル部ハ帶褐赤色ノ
 樹枝狀線ヲ畫出シ或ハ斑点ヲ現出スヘシ特リ腎臟ノミナラス身体中何ノ機関タルヲ問
 ハス同一ノ疾患ヲ被ムルコト鮮ナカラス故ニ副腎肝、臟脾臟及ヒ腸管ノ如キモノ皆ナ
 同一ノ變狀ヲ發スルコトアリ
 當初一機関ニ於テ粉質ノ沈着ヲ發スルキハ其固有ノ組織ハ壓迫ヲ被ムルカ爲メ終ニ萎
 縮性ノ變質ヲ起スヘシ
 腎臟ニ粉質變性ヲ發スルキハ同時ニ腎臟質間炎殊ニ腎臟實質炎ヲ併發スルコトアリ
 又タ腎臟質間炎ノ經過中粉質變性ヲ誘起スルカ如キハ常ニ見ル所ナリ故ニ豚脂腎即チ
 粉質腎ニアリテハ腎臟ノ形狀増大シテ滑澤トナルコトナク多少顆粒狀ヲ呈シ且収縮ス

ルモノナリ

腎臟粉質變性ニ於テ慢性肺潰瘍及ヒ化膿性ノ空洞、腸潰瘍、骨質及ヒ關節諸病、粘膜炎ノ徵毒又ハ癩癰性ノ膿瘍ヲ併發スルコトアリ

徵候

慢性ノ消耗病ノ經過中ニ腎臟ノ粉質症ヲ發スルキハ既發ノ症候ニ因テ陰蔽セラル、ヲ以テ其初徵ヲ檢出スルコト能ハサルモノトス

經久ノ醜膿又タハ腎臟ノ外他ノ臟器ニモ亦タ粉質症ヲ發スルキハ貧血ノ症狀最モ著ルシク一級ノ規則トシテ尿量ヲ増加スヘシ殊ニ腎臟質間炎ヲ併發スルキハ頗フル多量トナルヘシ又タ腎臟質間炎ヲ併發スルキハ却テ減少スルコトアリ

特發性ノ腎臟粉質症ニアリテハ尿量増加シテ稀薄水様ヲ呈シ異重低クシテ「一〇〇六」トナルコト多ク甚タシキハ「一〇〇二」ニ達スルコトアリ

腎臟質間炎ヲ併發スルキハ異重高クシテ「一〇三〇」トナルコトアリ或ヒハ俄然尿量ヲ減スルコトアリ

尿量増加スルキハ尿素及ヒ他ノ固形分ハ減少スルモノナリ是レニ反シテ尿量ノ減スルキハ尿素及ヒ固形分ノ増加スルヲ常トス

尿素ノ排泄量ニ増減アルハ二般ノ原因ニ歸スルモノナリ一ハ肝臟ノ機能ニ因リ一ハ腎

臟ニ於ケル疾患ノ廣狹ニ関スルモノナリ

蛋白質ハ常ニ現出スルモノナリ而シテ始メテ腎臟ニ病機ヲ發シ未タ時ヲ經サルキハ毫モ蛋白質ヲ見サルコトアリ縱令ヒ之レヲ含有スルモ其量ノ頗フル僅小ニシテ尿色ヲシテ稍々混濁ヲ生セシムルニ過キサルナリ然レモ既ニ蛋白ヲ現出スルキハ永遠尿液中ニ含有シテ末期ニ至ラサレハ消滅セサルモノトス

尿中ニ含有スル所ノ他ノ成分頗フル少量ナルヲ以テ尿中ノ沈渣モ亦タ少量ニシテ唯タ二三ノ圓塊ヲ檢出セント欲スルモ多量ノ尿液ヲ貯ヒサルヘカラス

此症ニアリテハ硝子様圓塊ヲ生スルモノトス其性狀透明ニシテ同種蓄殖ノ稀少ナル圓塊ナルヲ以テ充分ナル光線ニ因テ照見セサレハ檢出スルコト能ハサルナリ

腎臟質間炎ヲ併發スルキハ巨大ナル顆粒狀圓塊、血球及ヒ腎臟上皮ヲ現出スルコト頗フル多量ナルヲ見ルヘシ而シテ其圓塊ハ粉質變性ヲ起スルキハ稍々黄色ヲ呈シ光線ヲ反射スルノ力最モ熾カンナリ

多少局處ニ浮腫ヲ發スヘシト雖モ全身水腫ヲ誘起スルモノ殆ント稀ナリ而シテ浮腫ハ多ク下肢ニ發シ易ク又タ腹水ヲ發スルヲアリト雖モ他部ニアリテハ其比例ヲ見セサルモノナリ是レ恐ラクハ全身ノ病機ニ依テ肝臟ニ波及シ肝門ニアル所ノ淋巴腺ノ腫脹

スルカ爲メニ門脈ヲ壓迫スルニ因ルナランカ
病機増進スルキハ全身ノ衰弱及ヒ貧血ノ症狀益々増劇シ皮膚蒼白ニシテ土色ヲ帶ヒ眼
險ニ色素ノ沈着スルヲ見ルヘシ

發汗淋漓トシテ流ル、カ如ク之レニ加フルニ頑固ノ下痢ヲ發シテ制止スルヲ難ク忽チ
ニシテ生カノ虚脱ヲ致スヘシ

俄然嘔吐ヲ發スルヲアリ而レテ下痢ノ如ク頻發シテ持久スルヲ鮮ナシ

經過時期及轉歸

腎臟粉質變性症ハ必ラス緩慢ナル經過ヲ取ル所ノ疾患ナリト

雖モ其運命ハ專ラ併發病ノ變狀及ヒ増進ノ度ニ関スルモノナリ

病初ノ微候曖昧タルモノニアリテハ尿液ノ排泄量ヲ増加スルカ爲メニ腎臟ノ症狀如何
ヲ注意スルニ當テ始メテ其疾患ヲ認ムルモノ多シ

本症ノ時期ハ是レカ原因トナル所ノ醗膿性ノ疾患ニ據テ判斷スヘシト雖モ既ニ現然粉
質變性ノ症徴ヲ發スルキハ二三月ニシテ死ヲ致スモノ多シ而シテ偶々數年ニ渉ルヲア
ルカ如キハ素ヨリ例外ニ屬ス

澱粉様變質症ニアリテハ腎臟ノ收縮ヲ起シ或ヒハ俄然腎臟實質炎ヲ發スルニアラサレ
ハ嘔吐、下痢、黒内障眼及ヒ局處又タハ全身ノ摘掣ノ如キ尿血症ノ症狀ヲ發セサルモノ

ナリ

偶々腦出血ニ因テ斃ル、ヲアリ

本症ニ於テハ心臟及ヒ細動脈管ノ肥大症ヲ發スルヲナシ

轉歸ハ屢々肺炎、肋膜炎又タハ化膿性腹膜炎ノ如キ急性炎症ニ陥ルヲアリ

時期ハ諸般ノ急性炎ヲ發スルキハ之レカ爲メニ大ヒニ變換セラル、モノナリ

多クハ經久醗膿及ヒ蛋白質ノ消失ニ依リ殊ニ暴劇ナル下痢ヲ發スルキハ虚脱ニ因テ斃
ルヘシ

又タ他ノ臟器ニ疾患ヲ起スカ爲メニ其轉歸ヲ異ニスルヲ多シ

回復ノ有無ハ專ラ併發症ノ如何ニ関スヘシ

如何ノ治法ヲ施コスモ腎臟ヲ侵カス所ノ澱粉質ノ浸潤ヲ制止シ或ヒハ其沈着ヲ减退セ
シムヘキ術ナキヲ以テ單純ナル粉質病ト雖モ回復ノ轉歸ヲ取ルモノト保証スルヲ能ハ
サルナリ是故ニ回復ノ治験ヲ報告スルモノアリト雖モ斯ノ如キ例証ハ診斷上ノ正確ナ
ラサルモノト見做サ、ルヘカラス

診 断

腎臟粉質變性ハ腎臟實質炎及ヒ腎臟實質間炎ト區別セサルヘカラス

本症ノ診斷ニ際シテハ患者ノ病歴ヲ審查セサルヘカラス殊ニ化膿ト豚脂變性トハ常ニ

親密ナル關係ヲ有スルモノトス

腎臟實質炎ニ於テハ尿量減少シテ稠厚トナリ異重高キモノナリ而シテ尿素顆粒狀圓塊
體、細尿管上皮及ヒ赤血球ヲ含有スル所ノ沈渣ヲ生スルヲ頗フル多量ナリ

粉質病ニアリテハ尿量頗フル多ク稀薄ニシテ異重低ク少量ノ沈渣中ニ硝子狀圓塊及ヒ
偶發ノ蠟樣圓塊ヲ含有スト雖ヒ毫モ血球ヲ檢出スルヲナシ

腎臟實質炎ニ於テハ水腫ヲ發スルヲ早ク且蔓延シ易シト雖ヒ粉質症ニアリテハ滲出物
少量ニノ下肢及ヒ腹膜腔ニ限局ス

腎臟粉質症ニアリテハ其病歴ニ因テ慢性腎臟炎ト區別セサルヘカラス其他醃膿持久ヲ
併發シ又タ肝臟脾臟及ヒ腸管ニモ亦タ同一ノ變狀ヲ呈スルキハ容易ニ診斷スヘシ

慢性腎臟實質炎ニ於テハ經過中早晚尿血症ノ徵候ヲ呈スヘシト雖ヒ腎臟粉質症ニアリ
テハ其時期ノ如何ヲ問ハス尿血症ノ徵候ヲ呈セサルモノトス

治則

既ニ澱粉樣質ノ沈着ヲ生スルキハ其變狀ヲ制止スルノ治法ニ至テハ疑團
ナキヲ得ス故ニ須ラク醃膿ヲ起スヘキ原因ヲ撲滅スルノ策ヲ以テ最第一トスルノミナ
ラス變性シタル纖維素ヲシテ沈着セシメサラントテ勉ムヘシ

微毒ト醃膿トヲ併發スルトキハ殊ニ本症ノ發生ヲ促カスモノ、如シ故ニ細心注意シテ

驅微法ヲ施サ、ルヘカラス又タ何症タルヲ問ハス微毒ノ履歴アルキハ沃度加里ヲ持長
セサルヘカラス

「デツキンソン」氏ハ學說上ノ主義ニ基ツキ醃汁ニ含蓄シテ之レト共ニ排泄スル所ノ亞
爾加里塩ノ缺乏ヲ補給スルカ爲メニ剝篤亞斯及ヒ曾達ノ塩類ヲ内服セシムルヲ稱贊
セリ

全身ノ衰弱及ヒ貧血ヲ整復スルカ爲メニ鐵劑、肝油及ヒ滋養易化ノ食物ヲ攝ラシムヘ
シ又タ同氏ハ尿中ニ含有シテ費耗スル所ノ物質ヲ補給センカ爲メニ多量ノ牛乳及ヒ鶏
卵ヲ與ヘサルヘカラス

虚脱性ノ下痢ハ百方治術ヲ試ムルモ効驗ナキモノナリ而レヒ予カ經驗ニ於テ最モ有効
ナルモノハ一日三四回「ホーレル」氏水三滴ニ阿片丁幾五滴乃至十滴ヲ伍用スルニアリ

釋義

○腎盂炎及腎臟腎盂炎

名原 PYELITIS & PYELONEPHRITIS.

腎盂炎トハ腎盂ヲ襲フ所ノ炎症ヲ云ヒ腎臟腎盂炎トハ腎盂炎ヲ發シ同時

ニ腎ノ化膿性炎症ヲ誘起スルモノヲ云フナリ

此二症ハ屢々併發スル所ノ疾患ナルヲ以テ其症候ノ如キハ殆ント同一ナルモノトス故ニ從テ之レヲ反復スルヲ恐ル、カ爲メニ爰ニ二症ヲ合論セリ

原因

腎盂炎ヲ發スルノ最モ多キ原因ハ當初膀胱ヲ侵カシ輸尿管ヲ經テ終ニ腎盂ニ蔓延スルニアリ而シテ膀胱加多兒ハ尿液ノ停滯ニ因テ尿液ノ分解性刺激ヲ誘起スルカ爲メニ發スルモノナリ

膀胱ヨリ尿液ノ排泄スルヲ妨クル所ノ障礙アルハ尿液ノ分解ヲ起シ尿性分ニ「アンモニヤ」ヲ生シ之レカ爲メニ粘膜炎ニ腎性加多兒症ヲ發スルモノトス

排尿ヲ妨クル所ノ障礙ハ專ラ尿道ノ癢痕狹窄、攝護腺腫大、子宮轉移症、妊娠及ヒ骨盤内ニ發生スル腫瘤ノ如キモノナリ

淋疾其他ノ原因ニ依テ膀胱粘膜炎ヲ發スルハ尿液ノ酸酵ヲ起コシ終ニ本症ノ原因トナルヲアリ

腎盂内ニ生スル所ノ尿石或ヒハ異物モ亦タ粘膜炎ヲ刺激スルカ爲メニ直接ニ加多兒症

ヲ誘起スヘシ

尿液ノ分解ヲ起シ順ツテ腎盂ニ加多兒症ノ蔓延スルハ截癱症ニ基因スルコトアリ是レ即チ膀胱ニ麻痺ヲ起シ尿液停滯シテ以テ腐敗酸酵ヲ發スルニ依ルモノナリ

「コバイバ」「テレピン」油及ヒ芫菁ノ如キ刺激性ノ利尿劑ヲ投スルハ泌尿機關ヲ通過スルノ際腎盂ノ粘膜炎ヲ刺激スヘシ

尿液ノ分解スルハ多ク小動物及ヒ細菌ノ寄生スルヲ見ルヘシ而シテ尿素ノ分解ヲ起スハ炭酸「アンモニヤ」ニ變性スヘシ又タ磷酸「アンモニヤ」加麻屈涅夫亞ヨリ成

ル所ノ結晶体ヲ構成スルコト頗フル多量ナリ其他發炎シタル粘膜炎ヨリ多量ノ磷酸石灰ヲ斥出スヘシ

腎盂炎ハ膿血症、毒熱及ヒ發疹熱病ノ如キ諸般ノ傳染病ニ併發スルコトアリ又タ近傍ニ發スル所ノ炎症ノ蔓延ニ因テ起ルコトアリ

病理的解剖

病初ノ變狀ハ普通ノ加多兒症ニ因テ來ルモノナリ故ニ舊發ノモノニアリテハ粘膜炎及ヒ粘膜炎下組織共ニ肥厚シ尿管膨脹シテ腫瘤狀ヲナシ上皮ハ細胞元質ノ繁殖増生ヲ起スヘシ

膀胱ニ於テ病機ヲ發スルハ現然其徵候ヲ呈スヘシ而シテ輸尿管モ亦タ同一ノ變狀ヲ

被ムルコトアリ或ヒハ健全ナルコトアリ
腎盂炎ヲ發シテ若干ノ時期ヲ經ルキハ一側若シクハ兩側ノ腎臟ニ於テ化膿ヲ起スコトアリ
腎臟ハ多少増大シテ充血ヲ起シ其色深赤トナリ處々ニ帶黃白色ニシテ木栓狀ノ斑点ヲ現出スヘシ而シテ皮質ノ部ヨリ圓錐體ノ尖端ニ達スヘシ
被患ノ部ヲ截斷スルキハ處々ニ化膿点ヲ現出シ囊質ハ多少緻密トナリ化膿点ニ密接スヘシ
細尿管ノ間隙ニアル所ノ化膿点ニ浴フテ漸々膿ヲ膿起スモノナリ故ニ化膿点互ニ連合スルキハ巨大ナル膿瘍ヲ構生スヘシ
腎臟固有ノ元質ハ離開シテ崩壞シ終ニ消失スヘシ而シテ圓錐體ヨリ化膿蔓延スルキハ皮質部ヲ破壞シ終ニ腎盂ノ遺殘物ニ因テ中隔ヲ構生シ内ニ不正ナル壁ヲ有スル所ノ含膿囊腫ノ外皆ナ悉トク崩破シテ痕跡ヲ止メサルニ至ル
腎臟モ亦タ化膿性炎症ヲ發スルキハ發炎シタル膀胱ヨリ移住スル所ノ微菌族ノ發生ヲ見ルヘシ
強度ノ顯微鏡ヲ以テ照檢スルキハ細尿管内ニ互ヒニ平行シテ生活スル所ノ微菌ヲ檢出

スヘシ内眼ヲ以テ見ルキハ光線ヲ反射スルカ最モ強キ微細ノ球狀顆粒體ニ過キス少時間ヲ隔テ、再ヒ之レヲ檢スルキハ細尿管ノ間隙ニモ亦タ膿球ト共ニ同一ノ顆粒體ヲ現出スヘシ
細尿管上皮ハ當初脂肪變質ヲ起シテ曇暗顆粒狀ヲ呈スト雖ヒ暫時ニシテ破壞シ終ニ細尿管ノ内面悉トク樹枝狀ノ纖維及ヒ植物細粒ヲ以テ充填スヘシ
大家「クレプス」氏ノ說ニ據レハ化膿ヲ起ス所ノ炎症ハ微菌ノ爲メニ誘起セラル、モノナリト云フ

徵候

常ニ現ハル、所ノ腎盂炎或ヒハ腎盂腎臟炎ハ多ク慢性膀胱炎「アンモニヤ」尿及ヒ此二症ニ因テ起ル所ノ全身症狀ヲ併發スルモノナリ
腎盂ニ結石ヲ發生スルカ爲メニ起ル所ノ腎盂炎ニアリテハ特異ナル症候ヲ呈スルモノトス故ニ此症ノ論說ハ尿石症ノ條下ニ詳載スヘシ
爰ニ記スル所ノ腎臟炎、ニ於テハ多少膀胱ニ刺戟ヲ起シ尿量ハ健態ニ比スレハ稍ヤ多量ナルモノトス
尿液ハ中性或ヒハ亞爾加里性ノ反應ヲ呈シ之レヲ靜置スルキハ牛乳ノ狀ヲナシ白色若シクハ帶黃白色ナル多量ノ沈渣ヲ生スヘシ

沈澱ノ上層ハ透明白色ニシテ之レヲ振蕩スレハ忽チ混濁スヘシ而シテ器底ニ沈澱スル所ノ下層ノ部ハ稍々緻密ニシテ重量多ク同種繁殖性ノ凝塊トナリ器底ニ膠着スヘシ又タ之レヲ剝離スレハ粘膠ナルコト恰カモ樹脂ノ如シ

尿液中ニ多少ノ蛋白質ヲ現出スヘシト雖モ膿汁ニ固有スル所ノ比例ヨリ多カラス

顯微鏡ヲ以テ窺フキハ多ク磷酸「アンモニヤ」加麻屈涅夫亞ノ巨大ナル結晶体ヨリ成リ内ニ粘液及ヒ膿球ヲ現出スヘシト雖モ腎盂ヨリ上皮細胞ヲ生スルナシ

内膀胱ニ貯溜スル尿液ノ分解ニ基因スル腎盂炎ニアリテハ腎臟ニ関スル所ノ病的元質ヲ檢出スルノ頗フル困難ナリ

前ニ載スル所ノ小球体及ヒ結晶体ノ外尿中ニ無數ノ細菌ヲ含有スヘシ

患者假肋骨ノ下部ニ於テ常ニ不安ヲ覺エ輸尿管ノ徑路ヲ沿フテ下方ニ感傳シ尋イテ膀胱ヨリ起ル所ノ苦悶ヲ慰フヘシ

生力減衰シテ全体ノ筋肉消耗シ多少熱症ヲ發スルキハ日晡ニ増進シテ早晨ニ至リ退消スルモノナリ

腎盂腎臟炎ヲ發シ腎臟ニ化膿ヲ起ストキハ發熱ノ症狀頗フル腸埜扶斯ニ類スルヲ以テ之レト誤認スルコトアリ其症狀タルヤ腦症ニ於テハ喃々獨語シテ筋搐肉潤シ又タ尿血

症ニ因テ感覺閉止スルカ如ク而シテ化膿ノ爲メニ敗血症狀ノ發熱下痢及ヒ虚脱ヲ發スヘシ

又症ニヨリテハ膿血症ノ症狀ヲ發スルモノアリ

間歇時不整ニシテ時々寒戰ヲ發シ尋テ劇熱ヲ誘起シ華氏百四五度或ヒハ百六度ニ達シ而ル後脱汗スルヲ常トス面貌慘憺トシテ土色ヲ帯ヒ顔面ノ皮膚ニ皸癩ヲ生スヘシ生力ノ虚脱スルノ最モ甚タシク脈搏幽微ニシテ疾數ナリ

熱發ノ際ニアリテハ大抵多少譫語ヲ發シ暴瀉及ヒ食思欲乏ヲ來タシ之レカ爲メニ体力ノ消耗スルノ益々甚タシトス

諸關節ニ膿腫ヲ繼發スルヲアリ或ヒハ筋間中隔ニ發スルキハ衰弱最モ迅カナリ

諸般ノ障碍ニ因テ尿ノ排泄ヲ妨ケ又タ尿液ノ分解ヲ起ス所ノ普通ノ腎盂炎又タハ腎臟腎盂炎ノ外ニ屢々輕微ナル諸症ヲ發スルヲアリ

芫菁及ヒ「テレピン」油ノ如キ腎臟刺戟藥ヲ用ヒ或ヒハ身體温煖ニシテ發汗ノ狀ヲ呈シタルモ俄然寒冷ニ暴觸スルカ如キハ單純ナル原發性ノ急性腎盂炎ヲ發スヘシ此時ニアリテハ多少腎臟部ニ疼痛ヲ發シ尋テ輸尿管ノ徑路ヲ逐フテ傳振シ日晡ニ至ルキハ輕微ノ熱症ヲ發スヘシ

尿量増加シテ酸性ノ反應ヲ呈シ靜置スルキハ尿酸塩膿球及ヒ偶發ノ血球其他腎盂ヨリ剝脱スル所ノ上皮ヨリ構生シタル沈渣ヲ生スヘシ
腎盂炎ハ又タ少兒ヲ侵襲スルヲアリ此時ニアリテハ當初戰慄ヲ發シ尋テ熱症ヲ發シ且腰部ニ疼痛ヲ惹フヘシ
疼痛ハ頗フル銳敏ニシテ輸尿管ニ沿フテ膀胱ニ放射スルカ如シ故ニ殆ント腎臟疼痛ニ類スルヲアリ

健態ニ比スレハ尿量減少シテ少量ノ膿質及ヒ腎臟ノ上皮細胞ヲ含有ス

經過時期及轉歸

單純ナル腎盂炎ハ一週日乃至二週日ニシテ回復ノ轉歸ヲ取ルモノ多シ

小兒ヲ侵カスモノ又タハ腸珥扶斯、暮熱或ヒハ其他ノ疾患ノ經過中ニ發スル所ノ腎盂炎ニアリテハ其本病ト轉歸ヲ同フスルモノ多シ
化膿性腎盂炎及ヒ腎臟腎盂炎ハ其經過一様ナラス故ニ數月ニシテ終ルモノアリ或ハ數年ヲ經ルモ尚ホ治セサルヲアリ
腎臟ニ化膿ヲ起スキハ病機増進ノ度極メテ急劇ナルモノトス
尿血症狀ヲ發スルキハ其時期數週ニ渉ルト雖モ到底死ヲ免レサルナリ

治則

輕症ニアリテハ尿液ヲ稀釋セシムルキハ輕快ヲ覺ユヘシ

尿酸性ナルキハ杓檸檬酸劑、篤亞斯水ヲ多服セシムヘシ

腎盂炎ニ於テ「アンモニヤ」尿ヲ併發スルキハ安息香酸ヲ投スルヲ最モ必要ナリ

沒食子酸ハ腎臟ヲ通過スルモ尚ホ其性能ヲ變セサルヲ以テ局處ニ効ヲ奏スヘシ

「イウカリプトル」或ヒハ「イウカリプトル」流動越幾斯ヲ持長スルトキハ良蹟ヲ見ルコトアリ

「テレピン」油「コパイバ」及ヒ「キユベバ」ハ粘膜ノ性狀ヲ變換シ膿膿ヲ限制スルノ効力アリト雖モ之レヲ投スルニ當テハ少量ヲ用ヒサルヘカラス

非常ノ体温ヲ減退シ体力ヲ維持シ無子テ膿膿ヲ制止スルニハ幾尼涅ヲ服セシムルヲ最モ緊要タリ又タ適宜ノ滋養法ニ注意シテ体力ヲ保持スルヲ怠ルヘカラサルナリ

○ 腎 臟 結 石

名 原 ニフロリチアシス
NEPHROLITHIASIS.

釋 義

腎臟結石ハ核質トナルヘキ物体アリテ其周圍ニ尿中ノ物質沈澱シテ以テ
構生スル所ノ凝塊ナリ

原 因

結石症ハ老幼ヲ問ハス皆ナ之レヲ發スヘシ而シテ五年以上ノ小兒及ヒ五
歳乃至十五歳ノ少年ヲ侵カスヲ頗フル多シ
男子ハ婦人ニ比スレハ本症ニ罹ルヲ遙カニ多數ヲ有セリ
坐業ヲ營ムモノ及ヒ含窒素性ノ食物ヲ食ホルモノ、如キハ尿酸ノ發生ヲ促カスヘシ
地方ニヨリテ特ニ本症ヲ發スルモノ多キカ如シ是レ恐ラクハ飲水中ニ石灰ヲ含有スル
コト多量ナルニ因ルナランカ而レトモ今日ニ至ルマテ未タ其實蹟ヲ詳明スルコト能ハ
サルナリ

病 理 論

又タ血族ニヨリテ特異ノ感受性ヲ有スルモノ、如シ故ニ一種族ニアリテハ屢々本症ニ
罹ルモノアリト雖氏他ノ家族ニアリテハ同一ノ生活ヲ營ムモ絶エテ侵カサル、ナシ
英國ノ醫士「ワシデ」キ、カ「タル」「オルド」「ペール」等ノ諸大家ハ屢々
試験シテ尿液中ノ結石ヲ生スヘキ成分ヲ沈降セシムルニハ粘液ノ必要タルコトヲ發見
セリ

結石ノ大小一様ナラス極メテ微細ナルモノニ至テハ顯微鏡ヲ藉ルニアラサレハ檢出ス
ルコト能ハスト雖氏巨大ナルモノハ殆ント腎盂内ニ充満スヘシ

「ペール」氏ノ說ニ據レハ尿液中ニ微細ナル結石ヲ照見スルキハ腎盂内ニ一層巨大ナル
同一ノ結石ヲ含有スルノ徵証トスルニ足レリト云フ

同一ノ患ニシテ細大不同ナル數多ノ結石ヲ生スルコトアリ

小兒及ヒ老人殊ニ痛風ノ素質アルモノニ於テ腎臟圓錐體ノ直尿管内ニ尿酸梗塞又ハ磷
酸加炭酸石灰ノ重役塩ヨリ成ル所ノ梗塞ヲ生スルコトアリ

尿液中ニ含有スル所ノ尿酸ハ其量僅微ナリト雖氏溶解ノ力甚タ微弱ナルヲ以テ他ノ成
分ニ比スレハ尿酸ノ結石ヲ生スルコト最モ多シ

「オールド」氏曰ク尿酸ハ蛋白及ヒ粘液ノ如キ膠樣液ノ存スルカ爲メニ其結晶スルニ當
テ球狀トナルモノナリト而メ「カータル」氏ノ說ニ曰ク當初粘液ノ一小塊ヲ生メ結石ノ
核ヲ構成シ其周圍ニ結晶ヲ起スモノナリト而シテ其結石ハ中心ヨリ漸次層積シテ成ル
ト雖氏全ク尿酸ノ一成分ヨリ構成スルアリ或ヒハ尿酸ト磷酸石灰ト交互ニ層積スルコ
トアリ

磷酸石灰ハ諸般ノ變狀ヲ起スノ性アリト雖氏粘液ノ爲メニ圓形ヲナシ終ニ八面方形ト

ナルモノ多シ
 尿酸石ハ滑澤硬固ニシテ帶赤灰白色或ヒハ帶褐赤色ヲ呈シ異重ハ「一、五〇〇」ナリ
 磷酸石灰石ノ純粹ナルモノハ頗フル鮮ナク其質堅剛ニシテ暗褐色ヲ呈シ外面粗糙ナリ
 又タ純粹ナルモノニ比スレハ尿酸ノ核ヲ有シ周圍ニ磷酸石灰ノ層積シタルモノヲ見ル
 コト極メテ多シトス
 酸化「シスチン」ノ結石ハ磷酸石灰ニ比スレハ一層稀有ナルモノトス其質柔軟ニシテ曇
 黄色或ヒハ琥珀色ヲ呈ス
 磷酸石ハ尿酸石ニ次ク所ノモノニシテ屢々目撃スルコトアリ其質鬆粗ニシテ灰白色又
 タハ白色ニシテ光輝ヲ有シ偶々滑澤ナルコトアリ而シテ其成分ハ磷酸石灰及ヒ磷酸麻
 屈涅夫亞加「アンモニヤ」ヨリ構成シ其核ハ尿酸石ヨリ成ルコト多シ
 抑々磷酸石ヲ生スルハ當初腎盂内ニ尿酸石ヲ生シ持久スルノ際偶々尿液ノ亞爾加里性
 トナルキニ當テ磷酸鹽類ノ沈着ヲ起スモノナリ
 尿石ハ一側ノ腎臟ニ發スルモノ多シト雖モ偶々兩側共ニ生スルコトアリ
 予カ實驗シタル患者ニ於テハ左腎ニ發スルモノ三分ノ二ニ居レリ
 結石ニ基因スル所ノ轉歸ハ其部位ニ依テ異ナルモノトス

細尿管ニ發シテ之レヲ梗塞スルキハ腎臟炎ヲ誘起スヘシ
 腎盂ニ生スルキハ腎盂炎ヲ發スヘシ
 痛風質ノ患者ニアリテハ尿酸結石ヲ生スルコト多ク其沈着ノ部位ハ圓錐体及ヒ皮質ニア
 リ而シテ腎臟實質炎及ヒ質間炎ヲ誘起シ易ク終ニ顆粒腎トナルモノトス
 既ニ腎臟腎盂炎ノ極期ニ達スルキハ病機増進シテ腎臟ノ實質ニ蔓延スヘシ
 腎盂炎ヲ發スルキハ粘膜炎ニ充血ヲ起ス一甚タシク粘液膿贅殖シタル上皮細胞及ヒ幼
 稚細胞ヨリ成ル所ノ帶黄色濃稠ノ膿狀ヲ生スヘシ
 結石巨大ナラサルキハ尿液ト共ニ膀胱ニ流出スヘシ此際ニ際シ所謂腎臟痛ノ症候ヲ
 發現スルモノナリ
 數多ノ結石ヲ生シ續々腎臟ヨリ流出スルキハ輸尿管ノ一部ニ停滯シテ其部ノ膨大ヲ起
 シ炎症ヲ發スルモノニアリテハ輸尿管ノ壁質ヲ肥厚スヘシ
 炎症ニ因テ細尿管ヲ閉鎖スルコトアリ或ヒハ結石ノ梗塞ニ因テ輸尿管ヲ閉鎖スルコトアリ
 二症共ニ腎盂内ニ含蓄液ノ停滯ヲ起シ腎臟固有ノ組織ニ萎縮症ヲ發シ暫時ニシテ液体
 ヲ以テ充満スル所ノ膜狀ノ囊体ト結石トヲ遣スコトアリ
 惡性膿ヲ含有スルキハ巨大ナル膿腫ヲ發生シ終ニ外部ニ排泄ノ通路ヲ求メ腰部ニ侵淫

徵候

シ降下シテ「ポーバルド」氏勸帶ノ下ニ漏出シ或ヒハ結腸ニ侵入スルヲアリ

結石ハ數年間依然トシテ腎盂ニ停滯スルヲアリト雖ヒ斯ノ如キ症ニアリテハ幸ヒニシテ他ノ障礙ヲ被ラサルモノナリ

通常現ハル、所ノモノニアリテハ明亮ナル症候ヲ起シ是レニ依テ危篤ナル結果ヲ將來スヘシ

結石ノ輸尿管ヲ通過スルニハ頗フル急劇ナル症狀ヲ發スヘシ普通ノ症ニアリテハ然レバ腎臟痛ノ發作ヲ將來スヘシ其症狀タルヤ發作前毫モ變症ナク突然腰部ニ劇痛ヲ惹キテ輸尿管ノ徑路ヲ沿フテ鼠蹊部ニ感傳シ又タ肩胛骨及ヒ腹部ニ向テ放射スルカ如キ感覺ヲ起スヘシ

患側ノ睾丸ニ疼痛ヲ發シ收縮シテ外腹輪ニ近接シ龜頭ニ多少疼痛ヲ發シ或ヒハ劇痛ヲ感スルヲアリ

疼痛ノ暴劇ナルモノニ至テハ平素最モ耐力ニ富メル人ト雖ヒ苦悶ニ因テ啼泣呼吸シ或ヒハ顛轉反側シ或ヒハ突然室内ヲ匍匐シテ輕快ヲ求ムルモノアリ

顔面蒼白色ニシテ苦悶ノ狀ヲ呈シ皮膚皺裂ヲ生シ全身厥冷シテ冷汗ヲ流スヘシ

患側ノ股脚ヲ運轉スルヲ能ハス或ヒハ兩側共ニ運動スルヲ能ハサルモノアリ

患者卒倒スルコトアリ或ヒハ全身ノ搐擣ニ因テ感覺閉止スルコトアリ

胃ニ於テ多少患害ヲ起シ惡心ヲ發シ或ヒハ劇烈ナル嘔吐ヲ將來スルコトアリ

膀胱ニ甚タシキ刺衝ヲ起コシ利尿頻數トナルコトアリ而レヒ熱痛及ヒ緊滿ノ感覺アリ

テ數滴ノ尿液ヲ排泄スルニ過キス

尿性混濁シテ多クハ血液ヲ含ムト雖ヒ偶マ健態ト異ナラサルコトアリ是レ恐ラクハ一側ノ輸尿管ヲ侵蝕シテ患側ヨリ排泄スルコトナク只タ健側ヨリ來ルコトアルニ因ルモノ、如シ

尿中ニ血液ヲ混シテ曇濁スルノミナラス膿液ヲ含有スルコトアリ又タ兩側ノ輸尿管共ニ阻塞スルカ爲メニ尿道ヲ妨クルコトアリ而レヒ結石ヲ以テ全ク輸尿管口ヲ閉鎖スルコトナク多少其管口ノ周圍ニ沿フテ尿液ノ滴瀝スルモノナリ

利尿減少ヲ將來シ其阻塞シタル障礙ヲ除却セサルニハ昏睡ニ因テ覺ルヘシ否ラサレハ搐擣ヲ發スヘシ

發作ハ數分時若シクハ數時間ノ後結石ノ腎臟ヨリ膀胱ニ流出スルニハ俄然鎮靜スルヲ常トス

結石ノ輸尿管ニ停滯シテ排泄セサルトキハ其部ヨリ後路ハ尿液ノ蓄積ニ因テ劇烈ナル

疼痛ヲ發シテ結石ヲ壓排スルモ尚ホ尿道ヲ得サルモハ再ヒ膀胱内ニ逆流スヘシ此時ニ當リ稍々疼痛ヲ輕減シ患者モ亦タ輕快ヲ覺ユルヲ以テ直チニ卧床ニ入りテ睡眠スヘシ發作ハ卒然暴發スルコトナク多クハ徐發スルモノナリ

當初腰部ニ深在シテ稍々鈍痛ヲ覺エ偶マ蹴鞠ノ如キ遊戯ヲナシ或ヒハ嘔吐咳嗽ノ如キ暴劇ナル運動ヲナスモハ鈍痛益々増劇シ終ニ銳敏ナル劇痛トナルヘシ

病初ノ徵候ニ於テ緩劇ノ差アルニ関ハラズ發作ノ症狀ニ於テ甚タシキ輕重ノ列アルモノナリ是レ恐ラクハ結石ノ大小ニ起因スルモノナラン

結石ノ爲メニ全然梗塞ヲ生スルモハ潰瘍ヲ起シ終ニ危險ナル腹膜炎ヲ發スヘシ偶マ結石ノ流出ニ際シ輸尿管ヲ通過スルニ數日ヲ要スルコトアリ而シテ末期ニ至ルモハ輸尿管口ノ下部ニ於テ最モ狹隘ナル通路ヲ壓排スルコト暴劇ナルヲ以テ頗フル苦悶ヲ起スコト多シ

發作ノ反復スルモノニアリテハ度數ヲ増加スル毎ニ輕減スルヲ常トス而シテ其關係ハ專ラ結石ノ大小ニ因テ異ナルモノナリ

微細ナル砂石ニ至テハ毫モ苦痛ヲ起サ、ルコトアリ多クハ尿利頻數シテ僅カニ熱灼ノ感覺ヲ起スニ過サルナリ

尿道口ヲ通過スルコト能ハサル所ノ結石ト雖モ敢テ甚タシキ變狀ヲ呈スルコトナク輸尿管ヲ通過スルモノナリ

腎盂内ニ結石ノ停滞ヲ起スモハ漸々腎盂炎ヲ誘發スルモノナリ而シテ後ニ終結液膿ノ存スルカ爲メニ尿液濃稠トナリ恰カモ牛乳ノ如シ而レモ尿液ハ久シク清澄シテ瑣小ノ沈着ヲ生スルニ過キス既ニ乳白色ノ濃厚ナル尿液ヲ排泄スルノ期ニ達スルニハ頗フル時日ヲ要スルモノナリ

此時間中結石ノ成分ヲ診斷スルカ爲メニ最モ好機會ヲ得ルコトアリ即チ左ニ記スル所ノ方法ハ「ビール」氏カ證明セシ試驗ニ基因スルモノナリ

腎盂内ニ結石ヲ生スルモハ尿液ノ沈渣中ニ之レト同一ナル顯微鏡的ノ成分ヲ抽出スルヲ得ヘシ予モ亦「ビール」氏ノ實驗ヲ信認シ自ツカラ其緊要ナルコトヲ知レリ

尿中ニ混スル所ノ結石ハ肉眼ヲ以テ視ルヲ得ルモハ素ヨリ腎臟結石ノ現存ヲ徵証スヘキ明亮ナル憑據トナスニ於テ毫モ困難アルコトナシ

尿液ノ成分ヲ研究スルノ外他ニ炎症ノ諸原因ヲ有スルモノトス故ニ結石患者ハ輸尿管ヲ浴フテ上方ニ傳搬シ腰部ニ至ルマテ痛疼ヲ覺エ又タ脊椎ニ向テ感傳スルコトアリ

此時ニ於テ起ル所ノ疼痛モ亦タ壓痛ニノ體勢ヲ變スルモ輕快スルコトナク而シテ夜間ニ

至リ横卧スルキハ輕快スト雖氏漸々曉ニ達スルキハ苦悶ヲ起シ終ニ卧床ヲ離レ或ヒハ屢々体位ヲ變換スヘシ
 粘液ノ凝塊又タハ組織ノ剝片ニ因テ栓塞ヲ生シ輸尿管ヲ通過スルニ當テ屢々疼痛狀ノ發作ヲ將來スルコトアリト雖氏結石ニ基因スルモノ、如キ強劇ナル苦悶ヲ發セサルモノナリ
 輸尿管ヲ阻塞スルモ腎臟ノ分泌機ヲ障礙セサルキハ膿汁及ヒ尿液ノ蓄積ヲ起コシ終ニ腎臟水腫或ヒハ腎臟腫ヲ誘起スヘシ
 漸々膿汁ノ貯溜ヲ起シ又タ腎臟固有ノ實質ヲ破壊スルキハ肥厚シタル壁質ヲ有スル所ノ囊體ヲ構生シ注意シテ檢スルキハ腎臟ノ造構ヲ徵証スヘシ
 偶々季肋下部ヨリ下方ニ突出スル所ノ巨大ナル囊腫ヲ生スルコトアリ其性狀不整ニシテ稍々結節ヲ有スルカ如シト雖トモ多クハ滑澤ニシテ球狀ヲナスモノナリ而シテ含蓄液ノ度ニ因テ其容積ヲ異ニスヘシ故ニ時ヲ經ルニ從テ益々球形ヲナシ結節少ナキモノトス
 囊腫ノ巨大ナルモノニ至テハ偶々兒頭大ニ達スルモノアリ予モ既ニ之レヲ實見セリ
 囊體ニ侵蝕ヲ起スルキハ含蓄液流泄シテ腹膜腔ニ注入シ或ヒハ結腸又タハ胃ニ通スル所

ノ漏管ヲ作用スルコトアリ或ヒハ後方ニ排泄スルキハ腰部ニ漏管ヲ生シ或ヒハ腰部ノ纖維ニ沿フテ浸淫シ「ポーバルド」氏勒帶ノ下ニ排泄スルコトアリ而シテ其漏管ニ因テ結石ヲ排泄スルコトアリ
 輸尿管ヲ閉鎖スルキハ當初膿汁ヲ混シタル尿液ハ俄カニ清澄トナルヲ見ルヘシ
 暫時輸尿管ヲ阻塞シ清澄ナル尿ヲ排泄スルノ後再ヒ膿汁ヲ混スルコトアリ又タ阻塞ヲ破壊スルキハ俄然流洩スル所ノ膿狀ノ尿液及ヒ老廢物ノ爲メニ多少疼痛ヲ誘起スヘシ
 此時ニ於テ劇烈ナル腎臟疼痛ノ正徴ヲ現ハス所ノ發作ヲ將來スルコトアリ

經過時期及轉歸

尿石症ハ徐發スル所ノ疾患ニシテ頗フル緩慢ナル經過ヲ取ルモノナリ而レ其結果ニ至テハ一様ナラサルモノトス
 偶々輸尿管ノ破綻ヲ起コシ尋テ腹膜炎ヲ誘起シテ俄然斃ル、コトアリト雖氏斯ノ如キ症狀ヲ發スルモノハ固ヨリ破格ノモノト見做スヘシ
 病初ノ化膿ニ因テ敗血症或ヒハ膿血症ヲ起コシ或ヒハ兩側ノ輸尿管共ニ栓塞スルカ爲メニ尿血症ヲ將來スルカ如キハ皆ナ例外ノ變症ニ屬スルモノナリ
 尿液停滯スルノ後早晚輸尿管ヨリ腎砂若シクハ微細ナル凝塊ヲ排泄スルコトアリ
 尿道口ヲ通過スルコト能ハサルカ如キ巨大ナル凝塊ヲ排泄スルコト鮮ナカラス而シテ

既ニ刺戟ノ原因ヲ除却スルトキハ諸症候共ニ退消スヘシ
外部ニ尿管ヲ作りテ凝塊ヲ排泄シ腎臓ニ萎縮症ヲ發シ膿膿ヲ歇止シテ恢復ニ趣クア
リ又タ一側ノ腎臓ニ於テ兩側ノ作用ヲ代償スルモノニアリテハ終ニ全然健態ニ復スル
コトアリ

死亡ノ原因ハ虚脱ニアリ或ヒハ經久ノ膿膿ニ因テ粉質變性ヲ將來スルコトアリ又ハ膿
血症其他ノ繼發病ヲ發シテ速カニ命期ヲ奪フコトアリ

診 断

腎臓痛ハ肝痛ト誤認スルコトアリ而レモ此二症ハ劇痛ノ点及ヒ續發
症ニ因テ鑑別スルヲ得ヘシ

肝痛ニアリテハ黃疸ヲ繼發シ糞尿ノ灰白色トナルヲ見ルヘシト雖モ腎痛ニ於テハ
毫モ其變狀ヲ呈スルヲナク膀胱ニ刺戟ヲ起シ血尿ヲ泄ラスヘシ

結石ノ成分ニ於テ尿酸石ナルカ或ヒハ磷酸ナルカヲ知ラント欲セハ結石ノ夥多ナルハ
多ク尿酸ナルモノトス精密ナル診斷ヲ下タサント欲セハ化學的檢査及ヒ顯微鏡的檢査
ヲ施サ、ルヘカラス

腎盂内ニ經久膿膿ヲ起コシ尿酸ノ結石ヲ生スルハ多少磷酸質ヲ以テ被包スヘシ此時
ニアリテ往ハマ尿中ニ磷酸ノ結晶体ヲ現出スヘシ

囊腫ヲ搦生スルハ被患ノ腎臓組織ヲ現出スヘシ

一側ノ腎臓ヲ侵カシタルヲ微知スルハ尿液ノ成分ニ變狀ナク全然健態ト異ナラサルニ
アリ何ントナレハ患側ノ腎臓ハ阻塞ヲ起コシ腺汁ノ排泄スヘキ通路ナキヲ以テナリ

治 則

腎臓痛ハ最モ有力ナル鎮痛藥ヲ要スルヲ故ニ速カニ莫爾比涅ノ皮下注
射法ヲ施サ、ルヘカラス

胃ノ刺戟甚タシキハ内服藥ヲ投スルモ無効ニ屬スヘシ故ニ此時ニアリテハ大量ノ阿片
丁癸ヲ灌腸ニ供スルヲ良トス

全然快復スルニ至ルマテ依的兒ノ吸引法ヲ用フルモノナリ
患部ノ弛緩ヲ促カス爲メニ温浴ヲ命スルヲ最モ緊要ナリ

尿酸石ノ現存ヲ微知スルハ第一結石ヲ溶解セシメ之レヲ排泄スルノ策ヲ運ラサ、ル
ヘカラス其法タル劇篤亞斯及ヒ「リチウム」ノ鹽類ヲ多服セシメ尿液ヲシテ常ニ亞爾
加里性ヲ保持セシムヘシト雖モ曹達ハ之レヲ用フルヲナカレ何ントナレハ尿酸曹達ヲ
搦生スルハ容易ニ溶解セサルヲ以テナリ

最モ恰當ノ藥劑ハ毎二時ニ枸橼酸劇篤亞斯水一食匕宛ヲ連用セシムルニアリ

千八百八十年「バルレチン」氏ノ發明ニ因リ礬素加枸橼酸「マク子シヤ」及ヒ安息香酸

「リチウム」ノ二品ハ尿酸結石ヲ溶解スルノ効力アルモノトシテ稱用セリ
有名ナル「ロバート」氏ノ試驗ニ於テハ刺萬亞斯塩類ノ溶解力アルヲ証明セリ故ニ先
ツ之レヲ用ヒテ効驗ナキハ礬酸塩又タハ安息香酸鹽類ヲ試用スヘシ
痙攣狀ノ發作ヲ將來スルモノニ至テハ如何ナル治法ヲ施コスモ容易ニ靜止セサルモノ
多シ

溶解藥ハ之レヲ間歇スルコトナク持長セシメサルヘカラス

尿酸結石ヲ生シテ容易ニ治スルコトナク終ニ化膿性腎炎及ヒ亞爾加里性ノ尿液ヲ發ス
ルハハ礬酸鹽類ノ包被ヲ有スルモノト想定セサルヘカラス此時ニアリテハ尿液ヲシテ
酸性ヲ起サシムルカ爲メニ安息香酸「アンモニヤ」ヲ投スヘシ

磷酸結石ヲ生スルハハ磷酸ノ外被或ヒハ磷酸結石ヲ溶解スルマテ尿液ヲシテ酸性ヲ保
持セシメ既ニ結石ノ溶解シタル後ハ前ニ述ヘタル諸法ヲ用フヘシ

腎盂炎ノ治法ニ於テ腎臟ノ排泄ヲ促カシ局處ノ作用ヲ振起スル所ノ療法ヲ施コスヘシ
其藥劑ハ「コバイバ」「キユベバ」「サンタリユーム」「杜松子」「エリゲリン」「イウカリプト
ル」及ヒ「テレピン」油ノ如キモノヲ撰用スヘシ

腎臟ニ刺衝ヲ起スコトアルヲ以テ最モ注意シテ此藥劑ヲ投セサルヘカラス此時ニ於テ

安全ニシテ緊要ナルモノハ唯タ「イウカリプトル」ノ一品アルノミ而シテ之レヲ投スル
ニ當テハ少量ヲ持長シテ以テ漸次其効力ヲ起サシムルニアリ

又タ「イウカリプトル」ニ代用スヘキモノハ金雀花、海葱、礬筒及ヒ「パライラ」ノ如キモ
ノヲ撰用スルニアリ

腎盂炎ニアリテハ芫菁丁幾ノ少量ヲ持長スルコトアリ

飲料ニハ牛乳ヲ多服セシメ若シ嗜好スルハ午酪バダヲ與フルヲ良トス

現然囊腫ヲ檢出スルハ背部ヨリ吸入器ヲ以テ排泄スヘシ既ニ結石ニ達スルハハ排泄
孔ヲ穿テ導尿管ヲ挿入スヘシ

囊體ノ内部ハ常ニ空虚ナラシメ且清潔ヲ專ラニシ癒合ノ好機ヲ待ツヘシ

予カ親驗セシ一患者ニアリテハ背部ヨリ穿孔ヲ作り結石ヲ抽出シ排泄ヲ自由ナラレメ
タレ且經久化膿ノ爲メ終ニ虛脱ニ陥リタリ

釋義

○ 腎臟水腫 原名 HYDRONEPHROSIS.

腎臟水腫トハ尿液ノ蓄積ヲ起コシ是レカ爲メニ腎盂及ヒ腎盞ノ膨大ヲ致
タシ尋テ腎臟固有ノ組織ニ於テ増進性ノ萎縮症ヲ發スルモノヲ云フ

原因

腎臟水腫ハ先天及ヒ後天ノ二種アリ

先天症ハ腎臟ノ解剖的造構ニ於テ稟生異狀ヲ有スルカ爲メニ來ルモノナリ而シテ此症
ハ男子ニ比スレハ婦人ニ於テ見ルヲ多シ是レ恐ラクハ婦人ニアリテハ特異ノ官能ヲ有
スルニ因ルモノナラン

普通ノ原因ハ輸尿管ノ壅塞ニアリ而シテ壅塞ノ種類一様ナラス譬ヘハ結石ニ基因スル
アリ或ヒハ粘膜面ノ炎症及ヒ癒着ニ依テ起ルアリ或ヒハ淋巴腺束ノ収縮ニ因ルアリ或
ヒハ膿腫ノ壓迫ヲ被ムリ或ヒハ子宮轉位症ノ爲メニ起ルヲアルカ如シ
結石ノ梗塞ニ因テ輸尿管ヲ壅塞スルハ局處ニ於テ探知スルヲ得ヘシト雖モ偶マ結石
破碎シテ消滅スルヲアリ

病理的解剖

輸尿管ノ下部ニ壅塞ヲ起スハ上部ニ位スル所ノ輸尿管ハ過半膨大
スルヲ常トス

腎臟ヲ侵襲スル所ノ疾患ノ輕重ニ因テ貯溜液ノ多少ヲトスルニ足ルヘシ

劇症ニアリテハ腎臟固有ノ造構ヲ失シテ唯タ一個ノ巨大ナル膜狀ノ囊體ヲ存スルノミ
輸尿管緊張シテ腫脹ヲ呈シ殆ント小腸ノ容積ニ均シキ圓筒トナリ其壁モ亦タ多少肥厚
スルヲ常トス

含蓄液少量ナルハ腎盂及ヒ腎盞共ニ膨大シ乳叢體ノ扁平トナルヲ見ルヘシ
液体ノ量増加スルニ從テ益々腎臟ノ萎縮症ヲ起コシ當初髓質消滅シ尋イテ皮質モ亦タ
痕跡ヲ留メサルニ至ル

偶マ囊體ノ増大スルコト甚タシク腎盞ニ駭クヘキモノニアリテハ殆ント腹腔ノ大半ヲ占
メ之レカ爲メニ諸機關ヲ轉位セシメ且近傍ノ部ト癒着ヲ起スコトアリ

結腸モ亦タ壓排セラレテ囊體ニ密着スルコトアリ
腎臟固有ノ囊體ハ新生シタル結締組織ノ爲メニ肥厚シテ囊壁ヲ構生シ其間隙ニアル所
ノ中隔ニ因テ恰カモ小葉體ノ聚合シタルカ如シ

囊内ニ含有スル所ノ液体ハ變性シタル尿液ニシテ稀薄水様ヲナシ異重低ク亞爾加里性
ノ反應ヲ呈シ尿素尿酸及ヒ尿酸鹽類ヲ含ミ又タ血液ヲ混スルハ褐色ヲ帶ヒ膿汁ヲ混
スルハ帶黃色ニシテ腐敗具アリ

又タ液中ニ蛋白質ノ痕跡ヲ有スヘシ而シテ血液ヲ混スルハニアリテハ多量ノ蛋白質ヲ

見ルヲアリ或ヒハ偶マ多少ノ上皮細胞ヲ混スルヲアリ

含蓄液ハ多ク一側ノ腎臟ニ限局シ他ノ一側ハ膨大シテ以テ其代償ヲ營爲スルモノナリ

徵候

兩側ノ腎臟ヲ侵襲スル極メテ稀レナリ故ニ尿血症ヲ將求スルカ如キモ亦タ例外ノ變症ニ屬ス

隱然蓄積ヲ起ス多ク波動ヲ起ス所ノ囊体ヲ理出スルニ當テ始メテ之ヲ注目スヘシ而シテ囊体ノ大小ハ專ラ發育ノ時日ニ関スルモノナリ

舊發ノモノニアリテハ殆ント兒頭大ニ達スルヲアリ又タ發育スルニ從テ癒着ヲ起スハ其初起ニ當テ銳急ニシテ針ヲ以テ穿ツカ如キ疼痛ヲ感スヘシ

囊体益々膨大シテ近傍ノ臟器ヲ壓排スルニ至ルハ之レニ準シテ諸般ノ變症ヲ誘起スヘシ

結腸ヲ壓迫スルハ糞尿ノ蓄積スルコト甚タシク橫隔膜ヲ排揚スルトキハ呼吸困難ヲ將求スヘク胃ヲ壓スルハ惡心嘔吐ヲ發シ腹部大動脈ノ部ニアリテハ囊体ニ搏動ヲ感傳スヘシ

左側ノ腎臟水腫ヲ發スルモノニ在テハ囊体ノ直前ニ結腸ノ存スルコトヲ知ラサルヘカラス

予ハ或ル外科醫ニシテ囊体ニ套管針ヲ穿刺セントスルニ當テ大腸ニ穿孔シタルモノヲ實見セリ

囊体ハ通常稍々硬固ニシテ容易ニ波動ヲ起サスト雖モ強刺ニ之レヲ試ムルハ明亮ニナリ而レモ移動セサルモノトス

癒着ヲ生シテ未タ時ヲ經サルモノニアラサレハ囊体ヲ移動セシメントスルモ容易ニ其位置ヲ變セサルナリ

經過時期及轉歸

腎臟水腫ノ經過ハ頗フル緩慢ニシテ病初ノ徵候曖昧トシテ囊体ノ發育モ亦タ緩徐ナリトス而シテ末期ニ至リ囊体ノ爲メニ起ル所ノ變状モ亦タ徐發スルモノナリ

是故ニ本症ノ發育ノ期ヲ終ハルニハ數年ヲ要スヘシ

頗フル輕症ナルモノニアリテハ幸ヒニシテ治癒ニ趣クモノアルカ如キハ實ニ稀有ノ僥倖ト云フヘキノミ

偶マ輸尿管内ノ擁塞ヲ破壞シ水液ノ流泄ヲ起スコトアリト雖モ亦タ稀有ノ變症ニ過キサルナリ而レモ子宮ノ轉位症ニ因テ壓迫ヲ被ムリ水液ノ蓄積ヲ起スモノニアリテハ子宮ノ位置ヲ整復スルハ容易ニ恢復スヘシ

到底治癒ノ望ミナキモノハ終ニ不幸ニ陥ルモノナリ而シテ死因ハ諸機關ヲ壓迫スルカ爲メニ起ル所ノ併發症ニ依テ斃レ又タハ囊體ノ破綻ヲ起コシ或ヒハ腹膜ノ全面炎ヲ發スルニ據ルモノナリ

診 断

腎臟水腫ハ屢々卵巢囊腫ト誤認スルコトアリ而レトモ腎臟水腫ハ上方ヨリ發育シ囊巢囊腫ハ下方ヨリ増大スヘシ

正確ナル診斷ヲ下タサント欲セハ囊内ノ液体ヲ抽出シテ試檢スルヲ最良トス

腎臟水腫ノ液体ハ多ク稀薄水様ニシテ尿素尿酸及ヒ上皮ヲ含有ス

卵巢囊腫ノ液体ハ曇濁シテ復雜シタル顆粒狀ノ多核ヲ有スル小球體ヲ含有シ其質稍々膠質ニ類ス

腎臟水腫ハ兩側共ニ侵カサルハ腹水ト誤認スルコトアリ然リト雖モ腹水ニアリテハ體位ヲ變スルハ之レニ準シテ濁音ノ位置ヲ變スルモ腎臟水腫ニ於テハ其位置ヲ變セサルヲ以テ區別スヘシ

腹水ノ初起ニアリテハ患者仰臥スルハ下部ニ濁音ヲ呈シ腎臟水腫ニ於テハ囊腫ノ部ニ濁音ヲ放チ決シテ其位置ヲ變スルコトナシ

治 則

手術ニ臨ンテハ最モ注意シテ囊體ヲ空虚ナラシメ以テ壓迫ヲ減スヘシ

貯溜液多量ニシテ危篤ニ迫マルハ吸入器ヲ以テ液体ヲ排除スルコトアリ其他勉メテ危険ヲ避クルノ策ヲ怠ルヘカラス

○ 腎 臟 癌 腫

原 名 カルシノマ オフ キドニー
CARCINOMA OF KIDNEY.

原 因

腎臟癌腫ノ原因ニ就テハ未タ其正確ナル理由ヲ知ラサルナリ

本症ハ原發及ヒ繼發ノ二種アリ而シテ五歳以下ノ少年及ヒ老人ヲ侵カスコト多ク壯年及ヒ中年ノ人ヲ襲フコト稀レナリ

婦人ニ比スレハ男子ニ於テ發スルモノ多シトス

病理的解剖

原發性ノ癌腫ハ兩側ノ腎臟ヲ侵カスコト尠ナク又タ左側ニ比スレハ右腎ニ發スルコト多シ

繼發癌ハ近傍ノ組織ニ發シタル原發癌ノ爲メニ組織ノ連接ニ因テ來ルモノニシテ通常一側ノ腎臟ヲ襲フト雖モ全身ニ惡液質ヲ起ス所ノモノニアリテハ兩側共ニ癌腫ノ沈着ヲ被ムルコトアリ

腎臟癌腫ハ非常ノ容積ニ達スルコトアリ「リンドフリースク」氏ノ記載シタル一患者ニアリテハ縦徑十二寸横徑六寸ニシテ重量十六「ポンド」ニ至レリト云フ而シテ斯ノ如キ

容積ニ達スルニ敢テ數多ノ時日ヲ費ヤサ、リシト云フ又タ偶マ癌腫ノ沈着ヲ起スモ腎臓ノ容積ヲ變セサルヲアリ

腎臓ノ外面健態ヲ失セサルモノアリ或ヒハ不整ニシテ數多ノ小結節ヲ生スルモノアリ外面ノ健態ト異ナラサルモノニアリテハ患部ヲ截斷スレハ其面平等ニシテ白色若シクハ帶黃色ヲ呈シ結節ヲ生スルモノニ於テハ結節狀ノ凝塊ヲナシ明亮ナル分界線ヲ畫シテ健康組織トノ區域ヲ生シ或ヒハ囊體ヲ以テ被包スルモノアリ

腎臓癌腫ニアリテハ尿管増殖シテ膨滿シ壁質ノ菲薄ナルヲ以テ破綻シ易ク終ニ巨大ナル陷没面ニ血液ノ貯溜スルモノナリ

通常腎臓質間結締織ノ充血スルヲ甚タシク之レカ爲メニ有力ナル成形機亢盛ヲ起スヘシ又タ偶マ患部ノ中央ニ於テ細胞體ノ脂變ヲ起コシ惡臭ヲ帶フル所ノ遊離シタル泥軟ノ老廢物ヲ見ルヲアリ

「ワルデヤル」氏ノ說ニ據レハ癌腫ノ元質ハ細尿管ノ上皮ヨリ發生スルモノトナセリ又「リンドフリースク」氏ノ如キモ此說ヲ主張セリ

癌腫ノ種類ハ纖維素基質、細胞體及ヒ尿管ノ比例ニ於テ各々偏勝スル所アルカ爲メニ一様ナラサルモノトス

是故ニ尿管及ヒ細胞體ノ多數ナルハ癌腫ノ發育益々迅速ニシテ柔軟ナルモノトス吾人ハ之レヲ髓樣癌ト稱ス又タ纖維礎質及ヒ纖維網ノ過剩スルハ硬固ナルヲ以テ之レヲ硬癌若シクハ纖維癌ト云フ

癌腫蔓延シテ腎盂ニ波及シ又タ輸尿管ニ達スルハ管内ニ癌腫ノ凝塊ヲ以テ充滿スルコトアリ又タ腎盂内ニ血塊ヲ生シ漸次層積シテ動脈瘤ノ狀ヲ呈スルコトアリ

癌腫ノ元質ニ因テ腎臓ニ沈着ヲ起スハ凝結ヲ生シテ大靜脈ニ達シ栓塞ノ分離ヲ來タシ循環シテ肺臓ニ停滞スルコトアリ

腎臓癌腫ニ於テ近傍ノ部ニ収縮性ノ癒着ヲ生シ漸々其重量ノ増加スルニ從テ分離シテ病毒ノ轉移ヲ起スヘシ

又タ依然轉移スルコトナク益々其容積ヲ増加シテ驚クヘキモノアリ而シテ近傍ノ諸機関ヲ壓排シ甚タシキハ胸腔内及ヒ腹腔内ノ諸機ヲシテ収縮セシムルコトアリ

徵候

腎臓癌腫ハ隱然發育シテ微知スヘキ確徵ヲ呈スルコトナク知ラス識ラス頗フル廣大ナル部位ヲ侵カスコトアリ

病初ニアリテハ多少疼痛ヲ感スルコトアリト雖他ノ原因ニ依テ起ル所ノ疼痛ト異ナルコトナシ

疼痛ハ腰部ニアリテ假肋骨ノ下縁ヨリ外方ニ向ヒ脊椎ニ達スヘシ而シテ其症狀ハ鋭急ナラスシテ鈍痛ノ感覺アリテ時々癌腫ノ正徴タル穿痛ノ發作ヲ將來スヘシ
 血尿ヲ發シ其排泄ニ際シ疼痛ヲ起スヲアリ或ヒハ毫モ其感覺ナキヲアリ而シテ是レカ爲メニ腎臟ニ癌腫アルヲ疑フヲアリト雖モ血尿ヲ發スルモノハ半數ニ充タサルナリ又
 タ常時ニ血尿ヲ發スルヲナク數日數週若シクハ數月ノ間隙ヲ隔テ、來ルヲアリ或ヒハ又タ末期ニ至ルマテ血尿ヲ現ハサ、ルヲアリ
 打撲若シクハ墜落ノ如キ外傷ニ因テ腎臟出血ヲ起コシ或ヒハ血尿ヲ増劇セシムルカ如キハ稀有ノ變症ニ屬ス
 本症ニ於テ出血多量ナルカ爲メニ危篤ナル虚脱ヲ起スカ如キモ亦タ常ニ見ル所ノ症狀ニアラサルナリ
 尿色稍々混濁シテ泥水ノ如キヲアリ或ヒハ赤色若シクハ帶褐赤色ナルアリ或ヒハ又タ細大一様ナラサル血塊ヲ混スルヲアリ
 血球ハ多少鋸齒狀ヲ呈シ尿液混濁スルモニアリテハ變狀ヲ起スト雖モ尿液ノ分量多キハ血球ハ依然トシテ健態ヲ失ハサルモノトス
 血液ト尿液ト親密ニ混和スルモノニアリテハ排尿ニ際シ疼痛ヲ發スルコトナシト雖モ

輸尿管ヲ經テ巨大ナル血塊ヲ壓排スルモハ非常ノ苦痛ヲ起シ殆ント結石ヲ排泄スル時ノ如シ
 病初ニ於テ深部ニ鈍痛ノ感覺ヲ生シ或ハ絶エテ疼痛ナキヲアリト雖モ病機増進スルモハ必ラス疼痛ヲ發現スヘシ
 疼痛ハ腰部即チ腎臟ノ近傍ニ於テ深部ニ鈍痛ヲ感シ或ヒハ鋭急ナル穿痛ヲ起コシテ肋間神經ノ徑路ニ沿フテ感傳シ降下シテ膈部ニ達シ患側ノ下肢ニ至ルマテ麻痺ヲ起コシ且ツ壓重ヲ覺ユルヲアリ
 偶マ癌腫ニ基因スル淋巴腺炎ノ壓迫ニ依テ薦坐神經ニ於テ苦悶性ノ疼痛ヲ起コシ忽チニシテ關節面ノ衰耗ヲ來タスヲアリ
 普通ノ徵候ハ腎臟増大シテ腫瘍狀ヲ呈スルニアリ故ニ本症ノ患者六十四名中腹部ニ腫瘍ヲ現出セサルモノ僅カ三人ニ過キサリシト云フ大家「ロバート」氏ノ如キハ最モ輕操ナル診斷家ト雖モ大抵其腫瘍ヲ感觸スルヲ得ヘシト云ヒリ
 腫瘍ハ腰部ノ前方ニ壓排スルヲアリ而シテ漸々上方ニ發育スルモハ季肋部ニ達シ下方ニアリテハ腸骨部ニ至ルヲアリ
 小兒ニ於テ腫瘍ノ發育熾カンニシテ殆ント腹腔ノ全部ニ及ボスヲアリ

結腸ハ通常腹腔ノ前部ヲ占メ腎臟癌腫ノ實質ハ柔軟ナルヲ以テ打診上腫瘤ノ濁音或ヒハ波動ヲ起スコトナシト雖モ明亮ナル鼓脹音ヲ放ツヘシ
 深吸氣若シクハ深呼吸氣ヲ營ムモ囊腫ノ位置ヲ變スルコトナク多クハ移動セサルモノトス而レモ葉生移動腎ヲ賦有スルモノニ於テ癌腫ヲ發スルモハ移動スルコトアリ
 勉メテ腹筋ヲ弛緩セシムルモハ囊腫ノ形狀及ヒ硬軟ヲ觸診スルヲ得ヘシ通常稍々彈力ヲ有スル所ノ圓形体ニシテ滑澤ナリトス而レモ偶々緻密硬固ニシテ結節狀ヲナスコトアリ
 囊腫ノ腹腔ニ向テ發育スルモハ膨脹シタル靜脈ノ分歧ヲ現出シテ大動脈ヨリ感傳スル所ノ搏動ヲ起スコトアリ
 血尿ヲ現出セサルモハ尿液ノ分量及ヒ性狀共ニ健態ト異ナルコトナシ又タ血尿ヲ呈セサルモノニ於テ武雷篤氏病ヲ併發スルモハ俄然尿中ニ蛋白質ヲ現出スルコトアリ
 一側ノ腎臟ヲ侵カスモハ血尿ヲ發スルコトナク必ラス兩側ヲ襲フモノニ於テ發スヘシ
 結石ヲ構生スルモハ腎盂炎ニ基因スル所ノ症候ヲ併發スヘシ
 尿液中ニ破壊組織ノ分子及ヒ癌細胞ヲ檢出スルコトアリト雖モ多クハ不幸ニシテ明亮ナル癌細胞ヲ現出セサルモノトス

毫モ消化ヲ害セサルヲアリ或ヒハ食思亢盛シテ屢々飢餓ヲ起スヲアリト雖モ一級ノ規則トシテ見ルモハ食欲欲乏シテ惡心ヲ起コシ体力ノ衰耗ヲ來タスモノナリ
 病初ノ徵候ト共ニ羸瘦ヲ起シ終ニ非常ノ消削ヲ致スモノ多シ

經過、時期及轉歸

本症ニ罹ルトキハ皆悉ク同一ノ經過ヲ取ルモノニアラス

「ロバート」氏ノ說ニ據レハ小兒ニアリテハ病機増進スルヲ迅速ニシテ全日數ハ平均七月間ナリト雖モ大人ニアリテハ二年半ヲ以テ平均シタル時期トナセリ
 偶々小兒ニアリテハ數週日ニシテ終ハルヲアリ又タ大人ヲ侵カスモノニシテ十八年間ノ時日ヲ費ヤシタル例証アリ
 轉歸ハ大抵鬼籍ニ登ルモノ多シ或ヒハ偶々望外ノ好結果ヲ得ルカ如キ症候ヲ現出スルヲアリト雖モ再ヒ惡徵ヲ將來スヘシ

診 断

右腎ヲ侵カス所ノ癌腫ハ肝臟囊腫ト誤認スルヲアリ

按診スルモハ腫大シタル腎臟ト肝臟トノ間ニ小溝アルヲ以テ指突ヲ其間ニ壓推シテ以テ感觸スルヲ得ヘシ

結腸ハ常ニ腎臟ノ前部ニ地位ヲ占ムルカ故ニ打診音ヲ變スルヲ豫知セサルヘカラス故ニ腎臟部ニ於テハ鼓脹性ノ濁音ヲ發シ肝臟部ニアリテハ純粹ノ濁音ヲ放ツヘシ

脾臓ノ腫大症ニアリテハ腫瘍ノ方向及ヒ位置ニ據テ區別スルヲ得ヘシ又タ結腸ノ位置ヲ検査スルキハ腎臓ノ前面ニシテ脾臓腫大ノ後面ニアルヲ知ルヘシ而シテ腫瘍ノ形状ヲ按診スルキハ脾臓ニアリテハ邊緣圓形ニシテ尖端菲薄ナルヲ以テ振擧スルヲ得ヘシ患者ノ病歴ヲ尋問スルキハ脾臓ニアリテハ白血病或ヒハ泥沼毒ノ侵襲ヲ被ムルモノニ多ク尿液ヲ檢スルキハ腎臓癌ニ於テハ血液及ヒ癌細胞ヲ現出スヘシ
 卵巣腫ニ於テハ發生ノ位置發育ノ方法及ヒ其形状其他結腸ノ位置又タハ血尿ノ症候ニ因テ診決スルヲ得ヘシ
 盲腸又タハ下行結腸内ニ糞尿ノ蓄積シタルモノニアリテハ其形状外圍ノ境界及ヒ位置ニ因リ又ハ打診ヲ施コシ血尿ヲ現出シ「カテーテル」或ヒハ腸管ノ点滴法ニ因テ診斷スヘシ

腎臓癌腫ニ於テ搏動ヲ起スキハ動脈瘤ト誤認スルコトアリ此時ニ於テ患者ヲシテ四肢ヲ仗テ伏サシメ腹部ヲ床上ニ觸レシメサルキハ腫瘍ト大動脈ト離隔スルヲ以テ其搏動ノ消滅スルヲ見ルヘシ
 腫瘍ノ固着シタルモノニアリテハ此診斷ヲ施コスモ無効ニ屬スヘシ
 動脈瘤ト腎盂トノ間タニ微細ナル交通ヲ有スルモノニアリテハ血尿ヲ現出スルヲアル

ヲ以テ其診斷ニ際シ困難ヲ覺ユルヲ鮮ナカラス

治則

特異ノ療法ナキヲ以テ專ラ症候ニ據テ治術ヲ試ミ疼痛ヲ緩解スルノ策ヲ運ラスニ過キササルナリ

病原論

○腎臓結核

名原 チバルクロシスオフキドニー
 TUBERCULOSIS OF KIDNEY.

結核ノ沈着ヲ起スニ二種アリ一ハ瀰漫性ニシテ一ハ局發性トス

瀰漫性ニアリテハ腎臓實質内ニ灰白顆粒体ノ蔓延スルモノニシテ當初尿管鞘ヨリ發生スルモノニシテ全身病ノ一部分ト見做スヘシ

吾人カ專ラ爰ニ論セント欲スル所ノモノハ局發腎臓結核ナリ

結核質ハ當初腎臓ノ乳叢体ニ沈着シ病機蔓延スルニ順テ腎盂及ヒ腎盂ニ波及スヘシ數多ノ粟粒結核聚合シテ乾酪狀變性ヲ起コシ中央ヨリ軟化シテ之レト共ニ沈着ニ因テ侵サレタル組織ノ分解物ヲ流泄スヘシ是レ即チ結核ニ因テ空洞ヲ生スル所以ナリ腎臓ハ稍々其面積ヲ増加シテ結節狀ヲ呈シ囊質ハ肥厚シテ硬固トナリ乾酪樣沈着ヲ起シタル諸部ニ於テ各々燒点ヲ現出スヘシ

終ニハ腎臟ノ全体唯タ一個ノ囊体トナリ其壁肥厚シテ結締織中隔ノ内部ニ突出シ固有ノ腎盂ノ遺殘物ヲ有スルノミ
患者ノ大數ニ於テハ單丸及ヒ副單丸共ニ病初ノ變狀ヲ起コシ尋テ腎臟ニ蔓延スルヲ常トス或ヒハ當初膀胱ニ發シテ腎臟ニ波及スルコトアリ
腎盂、輸尿管及ヒ膀胱ニモ亦タ同一ノ乾酪樣浸潤ヲ起スヘシ

徵候

尿液ノ排泄量ヲ増加シ病機増進シタルモノニアリテハ血液及ヒ膿汁ヲ混シ亞爾加里性ノ反應ヲ呈シ又タ蛋白質ヲ現出ス
病機益々増進スルモノニアリテハ尿中ニ「アンモニヤ」ヲ含ミ亞爾加里性ニシテ膿汁及ヒ老廢物ノ爲メニ稠厚トナルヲ見ルヘシ
病機増進シテ粘膜下組織ニ達スルハ尿液中ニ彈力組織及ヒ乾酪樣物ノ小塊ヲ混スヘシ是レ即チ腎臟ニ破壞性ノ變狀ヲ誘起シタル明徵ナリ
常ニ尿利頻數トナリ多少疼痛ヲ感スルモノナリ是レ即チ膀胱粘膜ニ結核潰瘍ヲ發シ之レカ爲メニ加多兒症ヲ誘起スルニ因ルモノナラン
腰部ニ於テモ亦タ多少ノ疼痛ヲ發シ且鈍痛及ヒ疲勞ノ感覺アリテ或ヒハ發作狀ノ銳急ナル疼痛ヲ起スコトアリ

腰部ノ疼痛ヲ發スルノミナラス破壞シタル組織或ハ乾酪狀物ノ通過スルニ當テ背部ニ發作性ノ疼痛ヲ起シ輸尿管ヲ沁フテ蔓延シ利尿頻數シ且通利ニ際シ疼痛ヲ起スヘシ又タ症ニヨリテハ毫モ疼痛ヲ感セサルコトアリ
輸尿管ニ阻塞ヲ起スハ腎臟ノ容積ヲ増加シテ殆ント腫瘍狀ヲ呈スルニアリ而シテ其阻塞ヲ破壞スルハ蓄積シタル膿汁及ヒ尿液共ニ俄カニ流出シテ囊体ノ虛衰ヲ起スト雖一タヒ囊腫ヲ構生スルハ縱令ヒ其形体ヲ變スルモ全ク消滅スルコトナシ
結核潰瘍ノ蔓延スルハ腎臟固有ノ實質ヲ破壞スルカ爲メニ常ニ尿量ノ減少スルモノナリ又タ多ク兩側ノ腎臟ヲ侵カスモノニアリテハ尿素及ヒ他ノ老廢物ヲ排泄スルコト能ハサルヲ以テ尿血症ヲ將來スヘシ而レハ患者多クハ尿管及ヒ肺臟ニ於テ結核潰瘍ノ蔓延スルカ爲メニ覺ル、モノ多シ
予カ實驗セシ患者ニ於テハ偶々肺患ヲ併發スルモ劇症ニ至ラサルモノヲ見ルコトアリ
死亡ノ原因ハ虚脱或ヒハ腦症ヲ發スルニアリ

經過、時期及轉歸

本症ノ經過及ヒ時期ハ全身結核ノ有無、兩側ノ腎臟ニ於ケル疾患ノ廣狭及ヒ膀胱ヲ侵カス所ノ度ニ據テ大ヒニ異ナルモノトス
時期ハ常ニ一年餘ニ渉ルモノ鮮ナシトス而レハ偶々二三年ヲ經過スルコトアリ

膀胱ヲ侵カスヲ甚タシキハ疼痛及ヒ刺戟ヲ起コシ尿管通頻數ナルカ爲メニ睡眠ヲ妨ケ之レカ爲メニ微然生カノ虚脱ヲ將來ス
兩腎共ニ破壊セラレ、ノ部廣大ナルキハ腦出血ヲ起コシ或ヒハ昏睡及ヒ摘掣ニ因テ覺ル、モノナリ

治則

勉メテ生命ヲ長ナカラシムルノ外良策アルヲナシ故ニ專ラ生カヲ保持スルカ爲メニ大量ノ發尼涅（一日三四五氏死）ニ「イワカリプトル」ヲ伍用スヘシ
膀胱ノ刺戟ヲ鎮靜シ安眠ヲ得セシムルカ爲メニハ格魯刺兒及ヒ莫爾比涅ノ合劑ヲ坐藥トナシ或ヒハ灌腸劑ニ供スヘシ
劇烈ナル膀胱炎ヲ發シ尿中ニ「アンモニヤ」ヲ混スルキハ水揚酸及ヒ硼酸ノ稀薄ナル溶液ヲ取り膀胱点滴法ヲ行ヒ予ハ屢々俾効ヲ奏セリ

釋義

○腎臟包蟲囊腫

名原 ハイダチド オフ キドニ HYDATID OF KIDNEY.

腎臟包蟲囊腫ハ肝臟ヲ侵カスモノ、如ク狗兒絲蟲ノ未熟卵ヲ生スル所ノ

疾患ヲ云フナリ

病原論

大家「ダロイン」氏ノ說ニ據レハ腎臟ニ此寄生体ヲ現出スルハ極メテ稀レナリト云フ而シテ其囊体ハ透明ニシテ硝子様ノ數層ヨリ成リ中ニ母囊ヲ有シ囊内ニハ水様ノ液体及ヒ母囊ニ密着スル所ノ數多ノ壞胞ヲ含有ス
壞胞ノ大小一様ナラス微細ナルモノハ葡萄疔大ニ過キスト雖巨大ナルモノハ殆ント橙大ニシテ尚ホ其内ニ孫胞ヲ含有スルヲアリ
壞胞ノ増大スルニ從テ其外層ノ増殖ト共ニ卵種ノ増大ヲ起スモノトス而シテ各個ノ胞体ニハ蟲頭ヲ具ヒ且吸盤及ヒ一列ノ鉤ヲ有セリ
胞内ノ液体ハ水様ニシテ蛋白質及ヒ塩類ヲ含ミ又タ尿酸ノ結晶体、磷酸石灰、磷酸ノ三塩基類及ヒ肝脂コレステリンノ小板状体ヲ有セリ
母囊ハ尿管ニ密メル所ノ白色ニシ緻密ナル結締織ヨリ成ル所ノ外膜ヲ以テ被包セラレ、モノニシテ其膜質ハ半「ライン」乃至二三「ライン」ノ厚強ナル結締織ニシテ周圍ノ實質ニ密着スルモノ多シ

囊腫ノ微細ナルモノハ鳩卵大ニ過キスト雖巨大ナルモノハ兒頭大ニ達シ腎臟ノ實質内ニ發生シ或ヒハ囊質ト實質トノ間ニ生スルコトアリ

囊腫ノ増大スルニ從テ壓迫ヲ起コシ之レカ爲メニ近接スル所ノ腎臟ノ實質ニ萎縮症ヲ發シ終ニ腎臟ノ全体ヲ破壊スルニ至ル

偶マ腎盂ノ破綻ヲ起コスコトアリト雖尿管膜ニ侵淫スルヲ鮮ナシ是レ即チ限局性ノ癒着腹膜炎ニ基因スルモノナリ又タ近傍ノ臟器ニ癒着ヲ起コスヲアリ

偶マ囊体ニ消耗ヲ起コシ唯タ一個ノ空洞ヲ有スルニ過サルコトアリ或ヒハ穢カニ發育ノ機能ヲ止メ囊体ニ石灰變質ヲ起コシ傍ハラ脂肪ノ浸潤ヲ見ルコトアリ

患者ノ總數大凡ソ三分ノ二ニ於テハ腎盂内ニ囊体ノ破綻ヲ生シ終ニ腎盂炎ヲ發スルモノナリ

徵候

一 瘰ノ規則トシテ一側ノ腎臟ヲ限リテ寄生体ノ沈着ヲ起スハ頗フル稀レナリ而シテ寄生体ノ發育熾カンニシテ若干ノ度ニ達セサレハ敢テ患側ノ腎臟ニ於テ機能障害ヲ起サ、ルカ故ニ本症ニ罹ルモ發育ノ初徴ヲ認ムルヲ能ハサルハ當然ノ理ナリ

囊腫ノ増大スルニ當テ近傍ノ臟器ヲ轉位セシメ之レカ爲メニ炎症ヲ起シ終ニ癒着ヲ構生シ尋テ疼痛及ヒ熱症ヲ發スルニ至ル

普通現ハル、所ノ症候ハ下腹部ニ於テ滑澤ニシテ弾カヲ有スル所ノ囊腫ヲ感觸シ或ヒハ他人ノ注意ニ依テ始メテ之レヲ檢出スルコトアリ

大家「ロバート」氏ノ統計ヲ見ルニ腎臟包蟲囊腫ノ患者六十三名中囊腫ヲ現出シタルモノ十八名ニ過キサリシト云フ而シテ其容積ハ橙大ヨリ頭大ノ間ニアリ

囊腫ノ一部ニ於テハ明ラカニ波動ヲ起コシ或ヒハ幽微ナルアリ又タ他ノ部ニアリテハ毫モ波動ヲ微知スルコト能ハサルモノナリ

最モ確實ナル徵候ハ猫呻狀ノ震顫ヲ發スルニアリ而レハ不幸ニシテ此症候ヲ現出スルコト常ニ多カラサルモノトス

此震顫ハ母囊内ニ數多ノ環胞ヲ含有スル時ニアラサレハ發現セサルモノナリ何トナレハ環胞ノ彈力ニ因テ互ヒニ衝突スルニアラサレハ震顫ヲ起サ、ルヲ以テナリ

通常囊腫ノ直前ニ結腸ノ位置ヲ占ムルモノトス而レハ偶マ一方ニ偏倚スルコトアリ打診斷上ノ濁音面ハ腸管ノ位置ニ據テ大ヒニ變換セラル、コトアルヲ豫知セサルヘカラス

患者ノ大數ニ於テ腎盂内ノ囊腫ノ破綻ヲ起スカ故ニ其徵候ヲ檢出スルコト最モ緊要ナリトス

寄生体ノ斷片、鉤及ヒ脂肪球ヲ含有スル所ノ牛乳色ノ液体、胞膜其他發育層ノ剝片ノ如キモノヲ尿液ト共ニ排泄スルハ顯微鏡上ノ検査ニ據テ直チニ其正徴タル鉤ヲ現出スヘシ

腎盂内ニ囊体ノ破綻ヲ起スキハ腎臟部ニ銳痛ヲ發シ且ツ腎臟内ニ液体ノ流出スルカ如キ感覺ニ因テ微知スヘシ殊ニ患者腰側ノ打撲ヲ被ムルハ屢々斯ノ如キ變症ヲ誘起スルヲアリ

疼痛ハ輸尿管ニ沿フテ降下シ罌丸収縮シテ皮膚厥冷シ脈搏幽微トナルヲ常トス劇烈ナル腎臟痛ノ發作ヲ將來スルヲ鮮ナシト雖ヒ腰背部ニ疼痛ヲ起シ輸尿管ニ沿フテ降下スルヲ覺ユヘシ

發作ハ二三時餘ニ渉ルヲ鮮ナシト雖トモ偶マ一二日間依然トシテ退消スルコトナク數週、數月若シクハ二三年ノ時期ヲ過キテ再ヒ將來スルヲアリ

胞膜ノ膀胱ニ達スルハ腎臟痛モ亦タ歇止スト雖ヒ更ニ輸尿管ヲ通過スルノ時ニ際シ亦タ苦悶ヲ起スヘシ

強劇ナル裏急後重ヲ起シ龜頭ニ疼痛ヲ感シ胞膜ノ通過スルニ當テ劇痛ヲ發スト雖ヒ導尿管ヲ以テ膀胱ヲ空虚ナラシムルハ輕快スヘシ

腎臟内ニ唯タ一個ノ母囊ヲ生スルモノニアリテハ壞胞ノ排泄ヲ起スノ後ニ至ルハ囊体ノ萎縮及ヒ閉鎖ニ依テ諸症候モ亦タ退消スヘシ

囊内ノ含畜物ヲ排泄スルハ大ヒニ其容積ヲ減スヘシト雖ヒ再ヒ充滿スルヲ以テ屢々同一ノ症狀ヲ反復スヘシ

經過時期及轉歸

本症ノ經過ハ緩慢ニシテ其時期モ亦タ一定セサルモノトス

單一ノ囊体ヲ生スルモノニ於テ偶マ其含畜物ヲ排泄シテ終ハルモノアリト雖ヒ多クハ數回排泄ヲ將來スルモノナリ

稀レニ腹膜腔内ニ破綻スルヲアリ或ヒハ氣管支ニ破壞シ又タハ肋膜炎ヲ誘起スルアリ或ヒハ囊内ニ化膿ヲ起スヲアリ或ヒハ他ノ疾患ヲ續發スルアリ而シテ回復スルモノニ至テハ大約三分ノ二ノ比例ヲナセリ

診斷

囊腫ヲ現出シ尿液ト共ニ寄生体ヲ排泄スルハ腫瘍ノ容積ヲ減スルカ故

ニ敢テ疑惑ヲ起スヲナカルヘシ

顯微鏡ヲ以テ照見スルハ牛乳様ノ液或ヒハ斷片ノ混和スルヲ見ルヘシ

囊腫ヲ現出セサルハ腎臟痛ノ症狀ト共ニ胞膜ヲ排泄スルヲ以テ母囊ノ現存ヲトスルニ足ルモノナリ

腫瘍ヲ現出スルモ排泄ヲ將來スルコトナキモノニアリテハ腎臟水腫ト鑑別スルコト頗
フル困難ナリトス

治則

囊体ノ通過スルカ爲メニ疼痛及ヒ變状ヲ發スルキハ腎臟痛ト見做シテ
治法ヲ施サ、ルヘカラス

囊体増大スルノ勢アルキハ之ヲ挫折スルノ策ヲ運ラサ、ルヘカラス此時ニアリテハ
電氣療法ヲ稱用スト雖疝症ニヨリテハ毫モ効力ヲ現ハサ、ルコトアリ
沃度ト膽汁トハ此寄生体ニ向テ有毒ノカアルヲ以テ其合劑ヲ注入スルモ可ナリ

○ 移動腎

MOVABLE KIDNEY.

釋義

移動腎トハ腎臟ノ移動スルヲ非常ナルモノヲ云フ或ヒハ之ヲ遊走腎ト
稱スルモノアリ

原因

腎臟ハ解剖的造構ノ特殊ナルカ爲メニ異常ノ運動力ヲ有スルコトアリ
腎臟ノ前後ニ腹膜ノ翻轉スルカ爲メニ其中央ニアル所ノ腎臟ヲシテ自由ニ運動セシム
ルコトアリ

腎臟ハ天稟健態ノ位置ヲ保ツモノニ於テモ脂肪組織ノ内ニアリテ前面ニ腹膜ヲ有シ且
靱帶ヲ以テ繋着セラル、コトナキヲ以テ容易ニ其位置ヲ變スルモノナリ故ニ偶々脂肪
ノ吸収ヲ起コシ腹膜ノ弛緩スルコトアルキハ忽チ轉移シ易キモノトス
本症ハ男子ニ比スレハ婦人ニ多ク其比例ハ婦人十名ト男子二人トノ差ヲ有セリ今マ斯
ノ如キ男女ノ數ヲ異ニスルハ二般ノ原因ニ依テ起ルモノナリ婦人ニ於テ一ハ帶ヲ以テ
緊縛スルニヨリ一ハ妊娠ニヨルモノトス

妊娠スルキハ腹腔ノ緊張ヲ起スコト甚タシキヲ以テ腹膜ヲ弛緩セシメ終ニ固有ノ位置
ヲ保持スルノ力ヲ弛緩セシムヘシ
帶ヲ以テ腹部ヲ緊縛スルキハ肝臟ヲシテ下方ニ壓排セシムルヲ以テ腎臟ヲシテ前方ニ

突出セシムヘシ而レ左腎ニアリテハ稍々餘地ヲ有スルモノナリ是故ニ左側ニ比スレハ右腎ヲ侵カスコト多キモノナリ

「ロバート」氏ノ統計ヲ見ルニ患者六十五名中右側ノ移動スルモノ四十二人左腎ヲ侵カスモノ九人ニシテ兩側ニ未ルモノ十四人ナリシト云フ

或ル原因ニ依テ腎臟ノ重量ヲ増加スルハ必ラス轉位セシムヘキ傾向ヲ有スヘシ而レハ腎臟ノ増大スルハ炎症ノ爲メニ近傍ノ部位ニ癒着ヲ起コシ却テ移動ヲ防クモノ、如シ

病理的解剖

先天ノ移動腎ハ尿管或ヒハ腹膜ノ配置ヲ異ニスルカ故ニ後天症ト區別スルヲ得ヘシ

後天症ニ於テ脂肪ヲ有スルコトナク外觀稍々狭長ニシテ腹膜ト離隔スルモノナリ

移動スル距離ノ大小一様ナラスト雖トモ根基ヲ爲ス所ノ尿管ノ長徑ヨリ大ナルコトナシ常ニ腎臟周圍炎ヲ誘發スルコト多シ故ニ腎臟ノ周圍ニ舊發ノ癒着帶及ヒ滲出物ヲ現出スヘシ

轉移スル所ノ腎臟ハ再ヒ繫着ヲ生シ更ニ又々患害ヲ起サ、ルヲアリ

徵候

腎臟ノ轉位スルトキハ腸骨部ノ下縁ニ降下スルコトアリト雖モ多クハ腸

骨ノ下縁ト臍部トノ間ニ於テ感觸スルヲ得ヘシ

患者體質虛弱ニシテ羸瘦スルハ明亮ニ腎臟ノ境界ヲ按診スルヲ得ヘシ又ハ拇指ト他ノ諸指トヲ以テ撥擻スルヲ得ヘク之レヲ壓スレハ疼痛ヲ起コシ或ヒハ卒倒スヘシ

腎臟ヲ按摸シテ押壓シ固有ノ位置ヲ保タシムルカ爲メニ上後方ニ向テ移動セシムルヲ得ヘシト雖モ于テ放ツキハ忽チ降下シテ再ヒ旧位ヲ保持スルヲ能ハサルナリ

又呼吸ニ因テ腎臟ノ位置ヲ變スヘシ故ニ深呼吸ヲ營ムハ降下シ深呼吸ヲ營ムハ舉揚スルヲ常トス

打診ニハ低濁音ヲ呈セスト雖モ鼓脹性ノ濁音ヲ放ツヘシ又々健態ニ於テ腎臟ノ占居スヘキ部位ヲ打診スルハ低濁音ヲ放ツトナク空洞性ノ鼓脹音ヲ發スヘシ

移動腎ニ於テ通常現ハル、所ノ症候ハ腎臟部ニ於テ鈍痛ヲ覺エ深部ニ稍々疼痛及ヒ苦悶ヲ起コシ背部及ヒ腰部ニ向テ緊縮セララル、カ如キ感覺ヲ起コスモノナリ

平素最モ明亮ナル徵候ハ消化系ヲ侵カス所ノモノニシテ食思缺乏シテ腸管ニ秘結ヲ起コシ多量ノ風氣ヲ醸モシ同時ニ腎臟ノ移動スル毎ニ疼痛ヲ發シ且腰部ニ牽縮セララル、ヲ覺ユヘシ而レハ此諸候ヲ發スルハ發作性ニ來ルルモノニシテ間歇時ニアリテハ唯々一二ノ症候ヲ呈スルモノニシテ苦悶ノ狀モ亦タ稍々輕減スヘシ

腸管ノ變調ハ稍々霍亂ノ症狀ヲ呈シ數日若シクハ數週日間發作シテ其間歇時ニアリテハ消化ヲ害シ夥タシク風氣ヲ醸成スヘシ
又タ時々腦症ヲ發シ劇烈ナル眩暈、頭痛、惡心及ヒ嘔吐ヲ將來ス是レ恐ラクハ輸尿管ノ捻轉、尿液ノ停滯及ヒ腎臟ノ充血ニ基因スルモノナラン而ル後尿液ニ血液及ヒ膿狀ノ沈澱ヲ生シ終ニ排尿頗フル多量トナリ諸症候共ニ消退スヘシ
症ニヨリテハ腎臟ノ周圍ニ劇痛ヲ起シ患者病褥ニ呻吟シテ起ツコト能ハス且ツ熱症ヲ發シ舌上苔ヲ被ムリ頭痛ヲ覺エ尿液収縮シテ酸性トナルヘシ故ニ其症狀ハ局處膜膜炎或ヒハ癒着性炎症ノ發作ニ因テ來ルモノ、如シ

男子ニシテ右腎ノ轉位シタルモノニアリテハ頑固ナル便秘ヲ起コシ糞尿ノ形狀微細ニシテ扁平トナリ風氣ヲ醸モシ上行結腸ニ對シテ腎臟ノ轉移スルカ爲メニ其壓排ニ因テ阻塞ヲ起コスモノナリ

患者多クハ依ト昆瑛兒症ノ徵候ヲ呈シ或ヒハ精神抑壓シテ自殺セントスルモノ多シ

經過時期及轉歸

本症ノ時期ハ一様ナラス偽マ腎臟ノ移動ヲ固着セシムルヲアリト雖モ予ハ實驗上唯タ一人ヲ見シコトアルノミ
移動腎ハ健態ニ比スレハ變質性ノ疾患ニ罹リ易キモノナリ

診斷

移動腎ト誤認スヘキ腫瘤ヲ生スルコトナキヲ以テ其診斷頗フル容易ナリトス唯タ鑑別ニ際シ注意スヘキモノハ腎臟ノ形狀及ヒ容積ヲ診察スヘシ又腎臟固有ノ位置ヨリ降下シタルモノニシテ壓排スレハ故位ニ復シ且持異ノ感覺ヲ有スルモノナリ

治則

腎臟ノ轉位ニ因テ苦悶ヲ起スルハ適宜ノ網帶ヲ施コシテ固有ノ位置ニ整復セシムルコトヲ勉メサルヘカラス
患者ヲシテ仰臥シテ腹筋ヲ弛緩セシメ腎臟ノ位置ヲ整復シテ再ヒ降下スルヲ防クノ目的ヲ以テ壓迫ヲ施コシ腹部ヲ圍繞シテ網帶ヲ緊着シ以テ之レヲ保持スヘシ
常ニ食物ニ注意シ風氣ヲ醸成スヘキモノハ悉トク之レヲ禁セサルヘカラス
便秘スルハ通利ヲ促カシ常ニ糞尿ノ軟泥又タハ流動ナルヲ良トス
貧血ノ症狀ヲ呈スルハ鐵製ノ強壯劑ヲ持長セシムヘシ
常ニ尿液ノ性状ヲ注目シテ其變狀ヲ呈スルハ直チニ試驗スルヲ要ス

釋義

○腎臟周圍炎 名原 ペリニフリティス PERINEPHRITIS.
腎臟周圍炎トハ腎臟ノ周圍ニアル所ノ鬆粗結締組織ノ炎症ヲ稱スルモノナリ此病名ハ腎臟周圍炎(即チ蜂窠炎)ト同一ノ病機ト見做スヘキモノナリ又々通常化膿ノ轉歸ヲ取ルカ故ニ「トロシユ」氏ハ腎臟周圍膿腫ノ名義ヲ應用セリ

原因

大家「トロシユ」氏ノ說ニ據レハ刺傷挫傷及ヒ絞窄ハ皆ナ腎臟周圍結締組織ノ炎症ヲ誘起スヘシト云フ
尻骨盤内ノ蜂窠織炎ヲ發シ蔓延シテ腹膜下ノ結締織ニ達シ終ニ腎臟ヲ侵蝕スルコトアリ此變症ハ產褥熱ニ於テ屢々見ルノミナラス尻骨盤内ノ機關ニ手術ヲ施コスノ後ニ來ルコトアリ

直腸ニ手術ヲ施コシ又タハ膀胱ノ周圍ニ炎症ヲ起スキハ亦タ本症ヲ誘起スルコトアリ慢性腎盂炎ノ侵蝕ニ因テ腎臟周圍ノ結締織ニ波及スルコトアリ
本症ハ成年以上ノ人ニ多ク女子ニ比スレハ男子ヲ襲フコト多シ

病理的解剖

病初結締組織ニ激烈ナル充血ヲ起コシ直チニ化膿シテ血中ニ膿質ヲ混シ濃厚トナリ化膿ノ部位ヲ限局スルコトナク膿電ノ境界ニハ破壊シタル組織ノ斷片ヲ有シ益々増大シテ不正ナル膿瘍ヲ構成ス

膿汁ハ忽チニシテ黃色ニシテ同種繁殖ノ機ヲ起コシ稍々分界ノ線ヲ畫スト雖モ腹膜ノ後部ニ沿フニ蔓延スルノ勢アリ
又々多量ノ貯溜液ヲ生スルコトアリ
膿瘍ノ性状ニ據リ諸般ノ變症ヲ誘起スルモノトス故ニ腹膜内ニ破綻スルキハ腹膜全面炎ヲ將來スルコトアリ又々腰部ニ破爛ヲ起コシ終ニ体外ニ排泄口ヲ作為スルコトアリ又ハ腰筋ヲ沿フテ穿孔ヲ生シ「ポーバルド」氏勒帶ノ下部ニ破壊シ或ヒハ小滑車ノ部ニ開口スルコトアリ

徵候

普通現ハル、所ノ頑固ナル一症候ハ疼痛ナリ
疼痛ハ屢々打撲或ヒハ絞窄ニ因テ起コリ腰部ニ深在スル所ノ苦惱ニシテ患部ヲ強壓シ或ヒハ体體ヲ傾斜スルキハ益々増劇シ体勢ヲ變換スルモ輕快スルコトナシ而レモ偶々數日若シクハ數週間鎮靜スルコトアリ而シテ更ニ再ヒ發作スルトキハ一層強劇トナルモノナリ

病初ノ疼痛ト共ニ多少惡寒ヲ覺エ發熱全身違和惡心及ヒ食思欲乏ヲ起シ舌上厚苔ヲ被ムリ体温昇隆シテ華氏百三四度以上ニ達スルコトアリ
熱症ハ弛張熱ノ狀ヲ呈シ毎早晨ニ減退シ盜汗甚タシク殊ニ曉天ニ達セントスルノ時ニ

於テ最モ夥タシキモノナリ
 劇烈ナル寒戰ヲ發スルハ化膿ノ徵候ナリ爾後不整ナル惡寒ヲ起コシ尋テ劇熱及ヒ腕汗
 ヲ將來スヘシ
 体力ノ衰耗ヲ起シ食思振ハス偶マ嘔吐ヲ來タシ頑固ナル便秘ヲ將來シ最モ有力ナル下
 劑ヲ用フルニアラサレハ通利ヲ得ルコトナシ全身ノ皮膚黃色ニシテ稀々赤色ヲ帶フルハ
 化膿ニ基因スルモノナリ
 暫時ニシテ下腹部ニ腫脹ヲ起シ腰部ノ如キハ健態ニアリテハ陷没スト雖此期ニ達ス
 ルハ却テ突隆スルヲ見ルヘシ
 注意シテ按診スルハ深部ニ波動アルコトヲ檢出スヘシ
 毫モ其病機ヲ妨クルコトナク自然ノ經過ニ委スルハ終ニ腰部ニ膿汁ノ侵淫ヲ起スヘシ
 而シテ其膿汁ハ無臭ナルコトアリ或ヒハ毫モ腸管ト交通セサルモ糞其ヲ帶フルコトアリ
 膿腫ノ破壊ヲ起コシ他ニ併發症ナキハ患者忍テ恢復ノ機ヲ起コシ熱症退消シテ食思
 モ亦タ健態ニ復スヘシ
 膿汁ノ下部ニ侵淫スルハ大ヒニ病症ヲシテ遷延セシムルノミナラス疼痛甚タシク終
 ニ鼠蹠部ニ破壊スヘシ

大家「トロシユ」氏ノ說ニ曰ク腰部ニ排泄ヲ起コスハ廣大ナル氣腫ヲ生シ殆ント背部
 ノ全面ヲ侵カスコトアリト又斯ノ如キ症ニ於テ腸管ト交通スルハ腸内ノ毒素ニ因テ
 氣腫ヲ起コスコトアリ
 又タ腰部ノ排泄孔ヨリ糞尿ヲ泄ラシ幸ヒニシテ恢復ニ趨クコトアリ
 腹膜腔内ニ破綻スルハ劇症ノ腹膜炎ヲ誘起スヘシ若シ腎盂内ニ破綻スルハ穢尿
 中ニ膿汁ヲ混スルヲ以テ徵知スヘシ

經過時期及轉歸

病初ノ症狀頗フル不明ニシテ波動性ノ腫瘍ヲ檢出スルニ當テ
 始メテ之レヲ認定スルモノ多シ爾後諸症候ノ増進スルコト平等ニシテ間斷ナク原發性
 ノモノニアリテハ急劇ナル經過ヲ取ルモノ多シ
 經久化膿シテ患部ノ廣大ナルモノニ於テハ腸壁扶斯患者ノ症狀ニ類シ虚脱ニ因テ斃ル
 ヲコトアリ
 腸管ニ破綻スルハ忽チニシテ不幸ニ陥キルモノナリ偶マ結腸ト交通スルモノニアリ
 テハ恢復ニ趨クコトアリト雖其結局ニ至テハ保証スルコト能ハサルナリ
 尊熱ニ繼發スル所ノ膿腫ニアリテハ通常死亡ヲ免レサルカ如シ
 偶マ本症ニ罹ルモ化膿スルコトナク幸ヒニシテ消散ノ轉歸ヲ取ルコトアリ

本症ニ於テ腎盂炎ヲ繼發シ或ヒハ腎盂炎ヨリ本症ヲ將來シ或ヒハ腎臟ノ實質ヲ侵カス
キハ益々其症狀ノ危篤ヲ致タスモノナリ

診 断

腎臟周圍炎ハ腎臟水腫腎臟包蟲囊腫及ヒ癌腫ト鑑別セサルヘカラス
腎臟周圍炎ニアリテハ熱症及ヒ脱汗ヲ来タシ尋テ化膿ニ因スル他ノ諸徵候ヲ呈スヘシ
又腎臟水腫及ヒ包蟲囊腫ニ於テハ疼痛ヲ發スルヲナクシテ腫瘍ノ増大ヲ起スヘシ
腎臟癌腫ニアリテハ腫瘍ニ疼痛ヲ起コシ且血尿ヲ將來スヘシ

腎臟周圍炎ニ基因スル腫瘍ハ腰部ニ於テ外方ニ突出シ鼠蹠部ニアリテハ下方ニ垂ル、
モノトス而レヒ他ノ腫瘍ニアリテハ前下方ニ發育シテ腹膜腔ニ向ツテ突出スヘシ
腎盂炎ニ於テ現ハル、腫瘍ハ尿液ノ性状ニ據テ腎臟周圍炎ト區別スヘシ

治 則

病初腰部ニ水蛭ヲ貼シ尋テ氷囊ヲ用フヘシ又下劑ヲ内用セサルヘカラス
疼痛甚タシキハ莫爾比涅ヲ用ヒサルヘカラス
大量ノ幾尼涅毎四時二十^〇六^〇ガラムヲ投シテ白血球ノ移轉ヲ制止シ縱令ヒ疼痛甚タシ
カラサルモ莫爾比涅ヲ伍用スヘシ
化膿ノ徵アルキハ直チニ生カヲ保持スルノ策ヲ運ラサルヘカラス假令ヘハ酸酵飲料
滋養食類、亞爾個兒及ヒ幾尼涅ヲ以テ必須欠クヘカラサルモノトス

○ 神 經 系 諸 病 篇

○ 腦 充 血

名 原 セレブラルハイメルミヤ
CEREBRAL HYPERAEMIA.

釋 義

腦充血トハ腦内ニアル所ノ血量ノ増加スルカ爲メニ起ル疾患ヲ云フナリ
充血症ニ二種アリ一ハ動脈ニ起スルモノニシテ之レヲ實性充血ト云ヒ一ハ靜脈ニ發ス
ルモノニシテ之レヲ虚性充血ト稱ス

原 因

全身中腦ヲ除クノ外何ノ部タルヲ問ハス動脈血ノ供給ヲ減スルヲアルキ
ハ忽チ頭蓋腔内ニ多量ノ血液ヲ受容セサルヘカラス假令ヘハ腹部大動脈ノ壓迫及ヒ貴
要ナル動脈幹ノ結紮ノ如キハ最モ適例トス
又痔血ノ如ク常習血液ノ排泄ヲ閉止スルキハ同一ノ結果ヲ將來スヘシ
間歇熱ノ寒戰期ニ於テ腦充血ヲ起コシ又タハ全身ノ表皮ニ寒冷ヲ暴觸セシムルカ爲メ
ニ起コルヲアリ

經久心勞、太陽卒厥又タハ日射病、不眠病及ヒ亞爾個兒類ノ暴飲又タハ葳蕩ノ如キ麻醉
劑ヲ服用スルカ如キハ皆チ腦充血ヲ誘起スヘシ

心臟肥大症、全身脈管系ノ膨滿及ヒ多血質ノ如キモ亦タ本症ニ罹リ易キノミナラス危

除ヲ將來スルノ恐レアリ
虚性充血ハ脳腔内ヨリ血液ノ還流ヲ妨クルカ爲メニ起ルモノトス假令ハ頸部ノ腫瘍
ニ依テ頸靜脈及ヒ上行大靜脈ヲ壓排シ又タハ僧帽瓣或ヒハ三尖瓣ノ疾患ニ因テ靜脈系
ニ膨滿ヲ起スカ如キモノハ皆ナ本症ヲ誘起スヘシ
動脈管ノ膜質ニ粉質變性ヲ起コシ又タハ心臟ノ収縮力ヲ減シ或ヒハ脈管ノ彈力ヲ減ス
ルキハ亦タ同一ノ症狀ヲ發スヘシ

病理的解剖

腦内ノ血量ヲ増シ之レニ順シテ腦脊髓液ノ量ヲ減シ腦ノ實質ニ機械
的ノ壓迫ヲ被ムルノ外造構上ノ變狀ヲ呈スルヲナシ
硬腦膜ノ靜脈ニ緊張ヲ起コスト雖モ軟腦膜及ヒ脈絡膜ニ至テハ一層強劇ナリトス其他
諸竇内モ亦タ膨滿スルヲ常トス
腦ノ迴轉モ稍々扁平トナリ其壁質ノ近接スルカ爲メニ脈管ノ周圍ニアル所ノ淋巴腔モ
密接スルヲ見ルヘシ
腦質ヲ裁斷スルキハ脈管ノ破開シタル部ヨリ多量ノ血液ヲ噴出シ且夥多ノ出血点ヲ現
出スヘシ
充血持久シテ治セサルキ又タハ屢々反復スルキハ一層劇烈ナル變狀ヲ呈スヘシ

靜脈膨大シテ腫瘍狀ヲ呈スヘシ又タ健態ニアリテ自視スルコト能ハサル所ノ細脈管ト
雖モ膨脹シテ明亮トナルヲ常トス
又タ微細ナル滲漏点及ヒ毛細管ノ出血ヲ起コストアリ其舊發ナルモノニアリテハ淋巴
腔内ニ色素ノ沈着及ヒ血中ノ結晶体ヲ貽コスモノナリ
蜘蛛網膜下ノ空隙及ヒ腦室内若シクハ脈管鞘ノ周圍ニ漿液ノ滲漏ヲ起コストアリ而シ
テ舊發ノモノニアリテハ其諸腔内ノ膨大ヲ起コスモノ多シ

徵候

大家「シヤクコード」氏ノ說ニ據レハ腦充血ノ症狀ヲ三種トナセリ

第一輕症第二重症第三卒中狀是レナリ
輕症ニアリテハ病初ノ徵候緩徐ニシテ頭痛ヲ以テ起リ尋テ其正徵トスヘキハ頭痛ノ症
狀特異ニシテ壓重ヲ覺エ俄然銳敏ナル刺痛ヲ發シ身体ヲ運動シ或ヒハ急劇ナル震戰ニ
因テ増劇シ或ヒハ光線ニ觸レ音響ヲ聴取スルモ忽チ苦悶ヲ起コシ又タ知力ノ作用ヲ十
スコト難ク精神ヲ勞作セシメントスルキハ腦質ノ虚脱ヲ起コシ易ク或ヒハ耳鳴ヲ發シ
眼結膜充血ヲ起シ網膜ハ光線ニ感シ易ク眼火閃光ヲ放チ睡眠ヲ催フスモ安靜ナラス或
ヒハ魔夢ノ爲メニ醒覺シ或ヒハ眩暈ヲ起コシ筋力ヲ勞スルキハ忽チ疲憊ヲ覺エ五官其
常ヲ失シ四肢倦怠或ヒハ震戰ヲ發スヘシ

胃ニ變調ヲ起シ屢々惡心ヲ發シ且心臟ノ刺衝ヲ起スコト甚タシク輕微ノ心勞或ヒハ恐
駭ニモ忽チ心悸亢進シテ脈搏頻數トナルヘシ
重症ニアリテハ輕症ヨリ轉化シ或ヒハ前驅徵ナク俄然極機ニ達スルアリ
輕症ニ比スレハ頭痛劇烈ニシテ光線及ヒ音響ニ感觸スルキハ五官ニ刺戟ヲ起コシ精神
ノ錯誤ヲ來タシ識力失常シテ不眠症益々頑固トナリ運動機亢進シテ常ニ不安ヲ覺エ加
之ノミナラス第五對神經ニ於テ神經痛ヲ發シ四肢倦怠シテ眩暈益々甚タシク患者身体
ヲ直立スルコト能ハス諸般ノ協同作用ヲ營ムコト困難ナリ心機亢進シテ脈搏不正ニシ
テ頻數トナリ輕微ノ操作ヲ營ムモ平素ニ數倍シ頭部温煖ニシテ眼球内ノ充血一層深重
ニシテ眼瞼ニ至ルマテ腫脹ヲ起コシ胃ノ變調甚タシク精神ヲ勞スルキハ忽チ惡心及ヒ
嘔吐ヲ發コシ或ヒハ事物ニ注目スルモ亦タ然リ以上ノ諸症候ヲ呈スルキハ精神錯亂ヲ
發スルノ前徵トスルモ可ナリ或ヒハ急性炎症ヲ發スルコトアリ
精神ハ稍々錯誤シテ神識ヲ失スルカ如シト雖モ傍ハラヨリ醒覺セシムルキハ忽チ本心
ニ歸ルモノナリ而レモ尚ホ未タ熱症ヲ發セサルモノトス
一二日ニシテ諸症候ノ退消スルコトアリ或ヒハ四五日ニシテ健態ニ復スルコトアリ或ヒ
ハ依然トシテ治スルコトナク終ニ抑壓ノ症狀ニ陥ルコトアリ

精神遲鈍トナリタルモノ刺衝ヲ起コシテ活潑トナリ或ヒハ醒覺シタルモノ俄然睡眠狀
ニ陥リ或ヒハ睡眠シタルモノ譫語ヲ發スルコトアリ
大人ニ於テ劇症ノ經過中偶々摘掣ヲ發スルコトアリト雖モ多クハ小兒ニアラサレハ之レ
ヲ見ルコト鮮ナシ
卒中性ノ腦充血ニ於テハ患者俄然感覺閉止シテ普通ノ卒中症ニ於テ現ハル、カ如キ症
狀ヲ呈シ全身ノ筋力弛緩シテ排泄自在トナリ知ラス識ラス糞尿ヲ洩ラスコトアリト雖モ
反射的運動ハ尚ホ其機能ヲ失スルコトナク數分時若シクハ數時間ニシテ知覺ヲ起シ稍々
辨別スルコト得ルモ數日間全ク健態ニ復セサルモノ多シ
感覺ヲ失スルコトナク精神ノ錯誤ヲ來タスコトアリ且劇烈ナル眩暈及ヒ失語ヲ發シ或ヒハ
健忘感覺閉止四肢ノ麻痺及ヒ惡心嘔吐ノ如キ症候頓發シ數時間若シクハ數日ノ後消
退シテ毫モ其症候ヲ貽サ、ルコトアリ
虚性充血ニ基因スル所ノ症候ハ實性充血ニ依テ起ルモノニ比スレハ稍々輕微ナリトス
頭痛ヲ發スルモ急劇ナル銳痛ニアラスシテ壓重膨滿ノ感覺アリテ眼瞼腫脹スルモ結膜
ニ充血ヲ起スコトナク皮下靜脈怒脹シテ頭顱寒冷ヲ覺エ耳鳴或ヒハ聽感ノ衰耗ヲ起コシ
視力鈍麻シテ眼前ニ現ハル、所ノ物像ハ皆十浮遊スルカ如シ

識力及ヒ思考共ニ混亂シテ精神恍惚トナリ終ニ感覺閉スルモ安眠スルヲ能ハス屢々魔夢ニ驚駭シテ醒覺スルヲ多シ
 檢眼鏡ヲ以テ窺フキハ網膜靜脈ノ怒脹ヲ見ルヘシ又多少視力板ノ腫脹ヲ起シ健態ニ於テ見ルヲ能ハサル細尿管膨大シテ明亮トナルモノ多シ
 虛性腦充血ニ罹ルキハ網膜靜脈ノ怒脹シテ瘤狀ヲ呈スルヲ最モ現著ナリ
 耳門鏡ヲ以テ鼓膜ヲ檢スルキハ尿管ノ膨大ヲ起コシ直チニ頭蓋内ノ循環ト接近スルヲ見ルヘシ
 腎性充血ニアリテハ頭顱ニ於テ淺部ノ溫度昇隆スヘシト雖モ虛性充血ニ於テ毫モ其徵候ヲ呈セサルモノトス
 頭蓋ノ溫度ヲ檢スルニハ外用檢溫器及ヒ「ロンバルド」氏發明ノ檢溫電氣柱ヲ用ヒサルヘカラス
 患者大低溫度ニ於テ差少ノ昇隆アルヲ以テ高度ノ溫熱ヲ有スルキハ炎症ノ襲撃ヲ恐レサルヘカラス

經過、時期及轉歸

テ全愈スヘシ

輕症ニアリハ適宜ノ治術ヲ施スコキハ數時間乃至二三日ニシ

診 斷

テ器質的ノ疾患ヲ徵スヘキ証候ナキヲ以テ診斷スヘシ其最モ現著ナルモノハ毫モ熱症

本症ニ於テ現ハル、所ノ症候ハ專ラ腦内循環ノ變調ニ基因スルモノニシ

クハ遷延スルモノナリ
 虛性充血ハ其誘因トナル所ノ疾患ニ據テ異ナルモノトス故ニ其時期一定スルヲナク多クハ遷延スルモノナリ
 卒、中、性、ノ、充、血、ニ、ア、リ、テ、ハ、治、法、ノ、如、何、ト、原、因、ノ、如、何、ニ、依、テ、健、態、ニ、復、ス、ル、ヲ、ア、リ、或、ヒ、ハ、腦、出、血、ヲ、誘、起、ス、ル、ヲ、ア、リ
 腦、出、血、ノ、前、驅、徵、ト、ナ、リ、テ、充、血、ヲ、發、ス、ル、カ、如、キ、ハ、予、カ、屢、々、實、驗、シ、タ、ル、所、ナ、リ、而、レ、モ、一、回、出、血、ヲ、起、シ、タ、ル、ノ、後、ニ、至、リ、更、ニ、反、復、ス、ル、ヲ、鮮、ナ、シ
 虛、性、充、血、ハ、其、誘、因、ト、ナ、ル、所、ノ、疾、患、ニ、據、テ、異、ナ、ル、モ、ノ、ト、ス、故、ニ、其、時、期、一、定、ス、ル、ヲ、ナ、ク、多、ク、ハ、遷、延、ス、ル、モ、ノ、ナ、リ

劇症ニアリテハ數月若シクハ數年間依然トシテ持續スルヲアリ
 充血ヲ誘起スヘキ原因ノ作用ヲ制止シ適宜ノ治法ヲ施コスキハ必ラス恢復スルヲ迅カナルモノトス
 依然トノ充血ノ退消セサルキハ他ノ疾患ヲ誘起スヘシ
 劇症ニ於テハ其時期一定セサルモノトス治法ノ當ヲ得ルキハ速カニ全愈スヘシト雖モ腦内ノ組織ニ變化ヲ起シ或ヒハ初期ニ於テ精神錯雜ヲ起スヲアリ或ヒハ又タ腦出血ヲ將來スルヲアリ

ヲ發スルノナク頭蓋内全体ニ蔓延スルカ如キ症狀ヲ呈シ發作ノ症候頗フル變換シ易キヲ常トス

本症ハ沈飲譫忘癲癇卒中及ヒ胃症ニ因スル眩暈症ト鑑別セサルヘカラス

沈飲譫忘ハ第一常習及ヒ病前ノ履歴其他諸症候ノ強劇ト頑固ナルトニ據テ診斷スヘシ癲癇ニ在テハ發作ニ先タチテ突然呼吸シ尋テ顔面蒼白トナリ呼吸筋ノ搐掣ニ因リテ聲ヲ放ツカ如キ呼吸ヲ將來シ唇身症及ヒ全身ノ搐掣ヲ發スヘシ

小兒ニ於テ腦充血ヲ起スルハ搐掣ヲ以テ其一徵トナスヲアリ而レモ病前ノ履歴及ヒ續發スル所ノ症候ニ依テ大ヒニ異ナルヲ知ルヘシ

卒中性腦充血ニアリテハ真正ノ卒中ト鑑別スルニハ反射運動ノ歇止セサルト眼球ノ協同作用ヲ變スルヲナキト半身不遂ヲ發スルヲナク容易ニ回復スルトニ據テ明ラカナリトス

胃症ニ因スル眩暈ハ發病前消化不良ヲ起コシ卒倒及ヒ貧血ノ症狀ヲ呈シ毫モ充血ノ症徵ナキヲ以テ區別スヘシ

治則

腦充血ハ勉メテ其原因ヲ除却スヘシ

若シ急劇ナルルルハ頭部ヲ高舉シテ冷濕法ヲ施コシ芥子脚浴ヲ命スヘシ

循環系ニ於ケル血液ヲ減スルノ姑息法ハ一時片側若シクハ兩側ノ股部ニ結紮法ヲ用ヒ之レヲ交換シテ災害ヲ豫防スヘシ

顛顛骨乳頭突起ニ水蛭ヲ用ヒ或ヒハ頸部ニ吸角ヲ貼スルモ可ナリ

卒中性ノモノニアリテハ頭蓋腔内ノ血壓ヲ減スルヲ最モ緊要ナルヲ以テ刺絡ノ右ニ出ツルモノナキカ如シ

峻下瀉ヲ投スルルルハ誘導法トナリ又タ尿管ノ張力ヲ減スルノ効アルカ故ニ最モ欲クヘカラサルモノトス

綠蘘蘆雙糖菊具素加里及ヒ麥奴ノ如キモノモ亦タ頭蓋腔内ノ血壓ヲ減スルノ力アリ輕症ニアリテハ上ニ舉クル所ノ諸法ヲ以テ足レリトスルモ劇症ニ於テハ種々ノ療法ヲ試ミサルヘカラス

虚性充血ニ於テハ其原因トナルヘキ疾患ヲ治スルヲ專ラトスヘシ

食物及ヒ生活ノ景況ニ於テハ最モ注意セサルヘカラス故ニ食物ニ節制ヲ設ケ蔬菜及ヒ果物ノ類ヲ與ヒ數年ノ間刺戟性ノ食物ヲ禁スルルルハ必ラス命期ヲ長カラシムヘシ

總テ亞爾個性ノ刺戟物及ヒ諸般ノ有力ナル精神ノ感動ハ悉トク禁セサルヘカラス茶珈琲ノ如キ微弱ナル衝動物ト雖モ之レヲ避ケシムルヲ要ス

腎家患者ノ懸望ニヨリ斯ノ如キ飲料ハ敢テ巨害ヲ来タサ、ルモノトシ終ニ其飲用ヲ許ルモノアリト雖、予ハ讀者諸君ニ對シテ最モ其有害ナルヲ忠告セサルヘカラス予ハ斯ノ如キモノニ於テ終ニ不測ノ患害ニ陷井リ精神ヲ勞スルヲ輕微ナルモ全ク之レヲ使
用セサルノ優レルニ如カサルヲ知レリ

釋義

○ 腦 貧 血 原 名 CEREBRAL ANAEMIA.

本症ハ汎發及ヒ局發ノ二種アリ

汎發症ハ腦内全面ニ供給スル血液ノ減少スルモノヲ云ヒ局發症トハ脈管ノ一部ヲ阻塞スルカ爲メニ一局部ニ於テ血液ノ循環ヲ歇止スルモノヲ云フナリ

爰ニ記スル所ノモノ專ラ汎發貧血ニ於テ現ハル、所ノモノナリ

原因

確然腦貧血ヲ將來スルハ特リ大量ノ失血ニ基因スルモノナリ

獨逸國ノ大家「クスメール」及ヒ「テナル」氏ノ說ニ曰吾人ハ動物ヲ取り試驗スルノ術ヲ發明シテヨリ始メテ本症ノ正徵ヲ知ルヲ得タリ

失血ノ爲メニ腦ノ機能ニ於テ現ハル、所ノ症候ハ滲漏後ノ出血、制止スヘカラサル出血、經血過溢及ヒ子宮出血ノ如キ劇烈ナル出血ノ後ニ米ルモノトス
緩慢ナル衰耗性ノ疾患ニ罹ルルハ常ニ營養物ヲ費ヤスカ爲メニ腦貧血ヲ誘起スヘシ肺、勞慢性赤痢、化膿及ヒ授乳過久ノ如キハ皆ナ重要ナル原因タリ
第一及ヒ第二ノ同化機能ヲ起コスヘキ滋養分ノ發生力ヲ害スル所ノ疾患モ亦タ腦貧血ヲ誘起スヘシ

小兒ニ於テ本症ヲ發スルルハ之レヲ頭水ト稱セリ是レ即チ「マアシヤル、ホール」氏カ命セシ所ノモノニシテ同氏ノ說ニ據テ從前炎症ニ基因スルモノト想像シタル症狀ハ必ラス貧血ノ爲メニ起ルモノト斷定シタルハ實ニ同氏ノ發見ニ係ル所ナリ

有力ナル精神及ヒ行爲上ノ感動ニ因テ震盪ヲ起スルハ俄然頭蓋内ノ血管ニ收縮ヲ起シ知覺ヲ失シ終ニ卒倒スヘシ
心臟ノ虛弱ナルルハ腦貧血ヲ誘起スヘシ其例證ハ久シク仰臥シタル患者ニシテ恢復期ニ臨ミ卒然起立スルカ爲メニ蒼身症及ヒ虚脱ヲ將來スルヲ鮮ナカラサルヲ以テ明亮ナリ又タ心力微弱トナリ或ヒハ心臟脂肪變質ヲ起コシ或ヒハ大動脈孔ノ阻塞ヲ起コス所ノモノニ於テ徵証スヘシ

病理的解剖

本症ニ於テ現ハル、所ノ變狀ハ頗フル單純ナリ故ニ腦内ノ血量健態ニ比スレハ減少シテ脈管ノ膨大スルヲ充分ナラサルヲ見ルノミ

腦質ノ外觀蒼白色ニシ血色ヲ失シ腦髓ノ半球ヲ截斷スレハ毫モ血点ヲ現ハスヲナク蜘蛛網膜下部及ヒ側室ニハ多量ノ液体ヲ含有シ脈管周圍ノ淋巴腔ニモ亦タ液体ヲ含ムモノ多シ是レ即チ腦内ノ脈管ニ血液少ナキヲ以テ腦脊髄液ノ増息ニ因スルモノナリ而レハ充血症ニアリテハ血管ノ緊張ニ因テ液体ヲ壓排シテ淋巴腔ヲ閉鎖スヘシ

腦質ハ蒼白色ニシテ稍々濕潤シ脈管狭小トナリ淋巴管ノ増大スルヲ見ルヘシ

一局部ノ貧血症ニアリテハ他ノ原因ヲ有スルカ故ニ患部ノ變狀モ亦タ異ナルモノトスルモノトス

徵候

急性症ハ刺絡ニ因テ卒倒シタルモノニ於テ最モ現著ナリトス其症狀タルヤ顔面蒼白色ニシテ屍体ノ如ク口唇モ亦タ白色トナリ瞳孔散大シテ心力微弱トナリ脈搏細小ニシテ全身ニ冷汗ヲ流カシ且耳鳴ヲ起シ眼ニ濁ル、所ノ事物皆ナ朦朧トシテ辨別スルヲ能ハス常ニ雲霧ヲ以テ遮キラル、カ如シ加之ノミナラス聽官モ亦タ遲鈍トナリ音響ハ皆ナ速隔シタル地ニ於テ發スルカ如ク言語不明ニシテ判斷ノ力ニ乏シク患者殆ント將サニ

氣息ノ絶エンスルヲ覺ユヘシ

心臟ノ鼓動頗フル微弱ニシテ持續スルヲ困難ナルカ如ク筋力全ク弛緩スト雖モ忍チニシテ眼瞼ノ震戦ヲ起コシ顔面及ヒ唇縁ノ諸筋共ニ攣縮シテ終ニ全身ノ搐掣ヲ發ス虚脱性ノ卒倒ヲ將米スト雖モ唯タ辨別ノ力ヲ歇止スルニ過キササルヲ以テ暫時ニ再ヒ呼吸ヲ營ミ心動モ亦タ強實ニシテ健態ニ復シ眼球ノ運動自在ニノ周圍ヲ疾視シ他人ニ向テ發作中ノ症狀ヲ問フモノアリ爾後起立セントスルモ衰弱ノ爲メニ身体ヲ健運スルヲ難キモ暫時ニシテ生力回復スルニ順テ活潑トナルヘシ

腦貧血症ニ於テ搐掣ヲ發スルハ二般ノ原因ニ依テ來ルモノトス一ハ痙攣中樞ノ刺衝機亢進スルニアリ一ハ此中樞ヲ通過スル血液ノ還流ニ因ルモノ是レナリ

病症ノ徐發スル所ノモノニシテ終ニハ常習トナルカ如キ慢性症ニアリテハ諸官能ノ抑壓ヲ將米スルモノトス

腦ニ供給スル所ノ營養物ノ不充分ナルカ爲メニ諸官能ノ衰耗ヲ起コシ五官モ亦タ刺衝ヲ起シ又タ抑壓セラルヲ以テ復視及ヒ差明ヲ來タシ聽官遲鈍トナリ耳鳴ヲ感シ高調ナル音響ヲ聽フキハ忍チ苦煩ヲ覺工知力混亂又タハ精神失常又タハ癲狂狀ヲ發スルコトアリ

筋力勞動ヲ喚起シ或ハ却テ之レヲ抑ヒ又タ震戰或ヒハ協同作用ノ錯雜ヲ來タスヘシ感
覺ノ作用ニモ亦タ變狀ヲ起コシテ刺衝機亢進シ或ヒハ抑壓スヘシ故ニ諸般ノ神經痛知
覺遲鈍又タハ刺痛昏迷ヲ來シ常ニ眩暈ヲ發シ壓重ノ感覺歇ムコトナク動モスレハ卒倒
スルカ如キ發作ヲ將來シ易シ

心力微弱ニシテ差少ノ操作ヲ營ムモ忽チ頻數トナリ虚脱ヲ覺エ尋テ惡心ヲ起スヘシ
頭水症ニアリテハ患者衰耗性ノ疾患ニ因テ虚脱シ易ク皮膚厥冷シテ蒼白色トナリ脈搏
微弱ニシテ疾速トナリ眼球ヲ全ク閉張スルコトナク且陷没シテ眼圍ニ青色ノ輪ヲ畫出
シ顛門凹陷シテ頭部寒冷トナリ常ニ睡眠ヲ催スト雖モ憤怒スルカ如ク胃ニ刺衝ヲ起コ
シ腸管弛緩シテ苦悶スルモノ多シ

經過時期及轉歸

急性症ニアリテハ頗フル急劇ナルモノニシテ發作時ハ唯タ數
分時間ニ終ハルモノトス而レモ治後久シク腦内貧血ノ症候ヲ貽コスモノ多シ
慢性症ハ其時期一定セサルノミナラス其原因ト治法ノ如何ニ據テ大ヒニ異ナルモノト
ス故ニ治法ノ適當スルキハ健全ニ復スルヲ常トス
貧血症ニ於テ重要ナルモノハ脈管壁ノ變質ヲ起スニアリ故ニ緩慢ニシテ久シク治セサ
ルモノニアリテハ吾人ハ之レヲ等閑ニ看過スルヲ能ハサルモノトス

諸種ノ續發症ヲ有スルキハ最モ豫后ノ如何ニ注意セサルヘカラス

診斷

腦充血ニ於テ諸症候共ニ貧血症ト殆ント同一ナルモノニアリテハ誤診ス
ルヲアリト雖モ一二ノ要点ニ注目スルキハ必ラス之レヲ判別スヘシ

第一原因ノ履歷ヲ探リ貧血ノ外觀及ヒ循環系ノ抑壓症狀ヲ呈スルキハ病症ノ如何ヲ知
ルヘシ又タ外用檢温器或ヒハ檢温電柱ヲ以テ頭蓋ノ温度ヲ檢スルコト最モ緊要用ナリ
貧血ニアリテハ健態ヨリ温度ノ減少ヲ見ルヘシト雖モ充血ニアリテハ必ラス反對ノ狀
ヲ呈スヘシ

檢眼鏡ヲ以テ網膜ヲ照檢シ又タ耳鏡ヲ以テ鼓膜内ヲ窺フキハ循環ノ性狀ニ據テ區別ス
ルヲ得ヘシ故ニ充血症ニアリテハ網膜ノ脈管膨大スルコト甚タシク且鼓膜モ亦タ充血
シテ赤色ヲ呈スヘシト雖モ貧血症ニアリテハ網膜及ヒ鼓膜共ニ蒼白色ニシテ血量ノ減
少シタルヲ見ルヘシ

治則

既ニ卒倒シタルモノ、治法ニ於テ必要ナルハ患者ヲ仰臥セシメ鼻竇ニ「ア
ンモノニヤ」ノ氣ヲ吸入セシメテ興奮ヲ促カスニアリ
出血ニ因テ恐駭シ頗フル抑壓スルキハ失血ヲ制止スルノ策ヲ要スルノミナラス頭ヲ垂
レ四肢ヲ高舉シテ腦ノ貧血ヲ豫防シ亞爾個兒性ノ衝動劑ヲ投シ皮下ニ衝動藥ヲ注入シ

靜脈管内ニ「アンモニヤ」ヲ注入シ又タハ輸血法ヲ施コスヘシ
 慢性腦貧血ニアリテハ体力消耗ノ原因ヲ排除シ鐵及ヒ磷ノ合劑ヲ投シ傍ラ滋養易化ノ
 食品ヲ撰ハサルヘカラス
 腦脊髓ノ衝動藥（斯篤呈幾尼涅ノ如キモノ）ニ健壯性ノ鐵劑ヲ伍用スルハ偉効ヲ奏スヘシ
 腦貧血症ニ於テハ砒石ニ鐵劑ヲ配伍スルハ屢々良蹟ヲ脩ムルヲアリ
 又タ腦貧血ニ因テ癲狂狀ノ譫語ヲ發スルモノニアリテハ莫爾比涅ノ皮下注射法ヲ最モ
 必要トス或ヒハ譫語ヲ發スルノミナラス運動機ノ刺衝ヲ起スト其タシキハ亞篤魯比
 涅ニ莫爾比涅ヲ伍用スヘシ

釋義

○腦内脈管之阻塞症

原 名 オツクヲレシヨシ オフセンブラル ウエツセルス
OCCLUSION OF CEREBRAL VESSELS.

阻塞症ナル文字ハ脈管ヲ阻塞スルカ爲メニ腦ノ一部若シクハ數部ニ貧血

症ヲ誘起スル所ノ諸般ノ疾患ヲ總稱ス

腦内ノ脈管ニ阻塞ヲ起ストアリ或ヒハ脈管系統ノ一部ヨリ輸送シ來ル所ノ血栓ニ因テ
發スルヲアリ

原因

頭蓋内ノ脈管ニ阻塞ヲ起ス所ノ重要ナル原因ハ血塞及ヒ血栓症ナリ

血塞ヲ誘起スル所ノ原因ハ慢性動脈内層炎又タハ血行ノ微弱トナルカ爲メニ其速力ヲ
減スルニアリ

動脈管ノ壁質ニ於ケル變狀ハ粉質變性又タハ石灰變性ヲ誘起スルニアリ而シテ新生シ
タル物質ノ沈着ニ因テ漸々脈管ノ内容ヲ狭少ナラシメ其内膜ハ粗糙トナルヘシ

腦内ノ脈管壁ニ於ケル疾患増進シテ若干ノ度ニ達スルハ血液ノ凝結ヲ起コシ終ニ血
塞ヲ生スヘシ是レ即チ自發血塞ト稱スル所ノ症狀ナリ

又タ他ニ血塞ヲ發スヘキ原因ヲ有スルヲナク唯タ血液ノ性状ニ因テ來ルヲアリ故ニ慢
性ノ衰耗スヘキ疾患ニ罹ルハ血中ニ含有スル所ノ纖維ノ比量ヲ増加スルヲ以テ容易

ニ凝結ヲ起スヘシ
腫瘤ノ壓迫ニ因テ尿管ノ一部ニ於テ其内容ヲ阻塞スルカ爲メニ自發性ノ血塞ヲ生スル
アリ

血栓ハ隔離シタル尿管ノ一部ニ於テ構生スル所ノ纖維素ノ小塊、滲出物及ヒ凝結物ヨ
リ成リ血行ト共ニ循環シ終ニ腦ニ達シテ沈着スヘシ

血栓ヲ生スル所ノ普通ノ原因ハ動脈内層炎ニシテ諸般ノ潰瘍ヨリ来リ或ヒハ慢性ニシ
テ患肉状ノ癒合ヲ起コシ或ヒハ纖維素ノ植生ニ因テ起ルモノナリ

大家「バルキン」氏ノ實驗說ニ據レハ左心耳ヨリ来タル血栓四回左室ヨリ来ルモノ十二
回亞阿兒多大動脈ヨリ来ルモノ十回僧帽瓣ヨリ来ルモノ二十四回ナリシト云フ

吾人ハ日常實見スル所ノ比例モ亦タ同氏ノ統計ト符合スルモノ多シ
心臟ノ血栓ハ又タ左ニ記スル所ノ景況ニ因テ起ルモノナリ當初心耳ニ血栓ヲ生シ心臟

筋質炎ニ因テ心力微弱トナリ又タ脂肪變質ヲ起シ或ハ代償ヲ營ムヲ能ハサル所ノ瓣膜
ノ疾患ヲ發シ若シクハ癌腫及ヒ結核ノ如キ慢性ノ衰耗諸病ニ基因スルアリ

血塊ハ偶マ心臟ノ運動ニ因テ破碎シ微細トナリテ血行ト共ニ循環スルアリ
又血栓ハ大動脈瘤若シクハ巨大ナル尿管ノ繼發性ノ腫瘤ヨリ来ルアリ

病理的解剖

亞阿兒多大動脈弓ノ位置及ヒ其上端ニ近接スルヲ以テ大動脈孔ヨリ

噴出スル所ノ血液ハ左側總頸動脈ニ向テ流出スルモノ多キヲ以テ心臟ヨリ分離シタル
血栓ハ自然此尿管ニ注入セサルヲ得ス而シテ頭蓋ニ進入スルニ從テ「シルウヰヤン」氏

動尿管（中腦動脈）ヲ阻塞スヘシ是レ即チ右側ニ比スレハ左側ニ阻塞ヲ起サ、ルヘカラサル
ノ理由ナリトス

偶マ血栓ノ脊髓動尿管内ニ侵入スルコトアリト雖モ稀有ノ變症ト見做スヘシ或ヒハ又
數多ノ血栓ヲ生シ左右兩側ノ頸動脈ニ侵入シ或ヒハ左側ノ數處ニ阻塞ヲ起コスアリ

通常尿管ノ一部ニ阻塞ヲ起スルハ其尿管ノ供給ヲ受クル所ノ部位ヲ審定スルコト最モ
緊要ナリトス故ニ左ニ最モ重要ナルモノヲ抄記スヘシ

左側ノ「シルウヰヤン」氏動尿管ハ第二及ヒ第三ノ前頭ノ回轉、三個ノ顛顛ノ回轉ノ前部
及ヒ上部「レール」氏顛顛頂部ノ回轉、外囊ノ一部及ヒ内囊ノ全面、硝子核其他線條体ノ

大半ノ部ニ分枝ヲ送ルモノトス而シテ腦内ニアリテ此部位ニ於ケル尿管ハ所謂「コン
ハイム」氏末動脈ヲ構成スルモノニシテ特リ此動脈ハ交通枝ヲ有セサルコトヲ記臆セ

サルヘカラス之レニ反シテ大腦兩半球ノ灰白質或ヒハ皮質ノ部ニ分布スル所ノ尿管ハ
各々自在ニ交通スルモノナリ

基礎動脈ノ一部ニ血塞若シクハ栓塞ヲ生シテ阻塞スルトキハ其脈管ヨリ血液ヲ受容スル所ノ部位ハ忽チ貧血ヲ起コシ普通ノ貧血症狀ヲ呈シ且白色軟化ヲ將來スヘシ或ヒハ貧血症ニ尋イテ側枝充血及ヒ水腫ヲ起コスヲアリ
貧血ヲ起コシタル部ノ組織ハ全ク其榮養分ノ供給ヲ失スルカ爲メニ變質ヲ起コシ終ニ死壞スヘシ

神經組織ノ元質分解シテ崩壞シタル顆粒狀物トナリ脂肪球ノ凝集ニ因テ軟化シタル組織ハ黄色ヲ呈スヘシ

末梢動脈ニ阻塞ヲ起コスモ其部ヲ超ユル所ノ脈管ハ皆ナ健全ナルトキハ最モ近接シタル動脈及ヒ靜脈ヨリ毛細管ヲ經テ血液ノ還流ヲ起コシ終ニ貧血シタル部位ニ灌漑シテ以テ膨滿セシムヘシ

脈管壁ニモ亦タ變狀ヲ起コシ赤血球ノ爲メニ紫斑ヲ現出スヘシ且軟化及ヒ破壊スルコト益々甚タシキトキハ赤血球ノ爲メニ組織ノ染色シタルモノヲ漏出スルニ至ル吾人ハ此機ヲ赤色軟化ト稱ス

毛細管ノ破綻ニ因テ處々ニ微細ナル滲漏ヲ起コシ之レカ爲メニ平等ニ赤色ヲ呈スル所ノ部位ニ於テ其中心ニ暗黒色ナル毛細管ノ卒中電ヲ現出ス

斯ノ如キ滲漏点ノ夥多ナルキハ殆ント腦出血ノ如キ外觀ヲ呈スヘシ
二週日乃至三週日ヲ經ルキハ血球素^{ヘモグロビン}ノ變形及ヒ神經元質ノ脂肪變質ノ爲メニ赤色ノ軟化ハ悉ク黄色トナルヘシ之レヲ黄色軟化ト云フ更ニ又タ増進スルキハ白色ニシテ恰カモ牛乳ノ如キ形狀トナリ破壊シタル神經元質ノ分子ヲ含有スヘシ吾人ハ之レヲ白色軟化ト稱セリ

患部ニハ分解線ヲ畫出セサルセ明亮ニ病機侵蝕ノ部ヲ限局スルヲ以テ周圍ノ健康部ト區別スヘシ

徵候

發病ノ方法ニ二様アリテ判然タル差異ヲ有スルモノトス一ハ血塞ニ基因スルモノニシテ徐發性ノモノトシ一ハ血栓ノ爲メニ起ルモノニシテ頓發性(即チ卒中)トス徐發性ノモノハ老人ヲ侵カスコト多ク頓發性ハ數テ年齢ニ関セスト雖氏過半數ハ若年ノ人ニ於テ見ルヘシ

腦動脈ノ諸部ニ慢性動脈炎ヲ發スルキハ同時ニ疾患ヲ起コシ諸症候モ亦タ廣ク蔓延シタルカ如キ症狀トナリ又タ部位ニヨリ病期ヲ異ニスルキハ同時ニ官能ノ刺衝ト抑壓ノ症候トヲ現出スヘシ

最モ早期ニ於テ現ハル、所ノ症候ハ頑固ナル頭痛ニシテ其輕重一様ナラス尋イテ各人

特異ノ變狀ヲ呈シ腦ノ刺衝ヲ起シテ憤怒スルアリ失望スルカ如キアリテ精神疲勞シ易ク記憶モ亦タ衰耗シテ初期ニアリテハ稍々通用ノ辭ナキ文字ヲ忘却シ終ニハ俗間ニ用フル普通ノ言語ト雖モ記憶スルコト能ハサルニ至ル

症ニヨリテハ特リ記憶力ノミ缺乏シテ健忘症ヲ徐發シ或ヒハ頓發スルアリ或ヒハ卒厥ヲ併發スルコトアリ

頭ヲ痛發シ尋テ眩暈ヲ將來スヘシ而シテ卒然ニ米ルコトアリ或ヒハ体位ヲ變スルカ爲メニ米ルコトアリ或ヒハ椅坐スル時ニ發シ或ヒハ横臥スル時ニ發スルコトアリ

身体ノ隨意運動ヲ營ムコト困難ナルハ一ハ眩暈ニ依ルト雖モ其重要ナル關係ハ諸筋ノ共同作用ノ衰耗スルニアリ或ヒハ老人震戰ノ狀ヲ呈スルコトアリ或ヒハ筋力衰耗ニ因スル戰慄ヲ起スコトアリ又タ舌体ノ運動不十分ナルカ爲メニ言語収滯シ或ヒハ吃訥スルコトアリ

以上載スル所ノ諸症候ヲ呈スルハ二般ノ原因ニ據テ起ルモノナリ

一ハ被患ノ脈管ニ於テ漸々其内部ヲ侵蝕スルカ爲メニ血行ノ減少スルヲ以テ毛細管ノ石灰變質ヲ起コシ之レニ依テ腦ノ榮養ヲ障礙スルニアリ一ハ併發病ニ因テ突然卒中狀ノ發作又タハ他ノ症狀ヲ將來スルニアリ

卒中狀ノ發作ヲ起コスモノニアリテハ患者忽然感覺閉止ノ狀ヲ呈シ筋力全ク弛緩スヘシ斯ノ如キ發作後ニ於テ半身不遂ヲ將來スルコトアリ

右側ノ半身不遂ヲ發スルモハ多少言語ヲ障礙シ時トシテ失語ヲ將來スルコトアリ或ヒハ又症ニヨリテハ卒中狀ノ發作ヲ起スコトナク突然半身不遂ヲ發スルコトアリ或ヒハ前膊若シクハ脛部又タハ顔面ノ如キ一局處ヲ限リテ麻痺ヲ起コスヲアリ而シテ其麻痺ノ輕重一様ナラス全ク感覺ヲ失スルアリ或ハ稍々鈍麻スルニ過キササルアリ加之ノミナラス全身ノ虚脱ト共ニ攣縮或ヒハ梗直ヲ將來スヘシ

偶々麻痺ノ症候ハ速カニ消退スルコトアリ而シテ後時期ヲ定ムルコトナク再發スルコトアリ或ヒハ攣縮或ヒハ梗直ヲ繼發スルコトアリ

卒然麻痺ノ退消スルハ側循環或ヒハ接口枝ノ交通ニ依テ阻塞シタル部ニ於テ血液ノ供給ヲ回復シタル徵証トス

基礎動脈ノ一枝ニ於テ自發性ノ血塞ヲ生スルコトアリ而シテ其脈管ノ末端ニ阻塞スルモハ種々ノ前驅症ヲ現出スヘシ即チ頭痛、眩暈、感覺失常、震顫又タハ蟻走ノ感ヲ起コシ或ヒハ厥冷及ヒ筋掣肉潤ヲ將來スヘシ

血塞ヲ徐發スルモハ麻痺モ亦タ徐々ニ米ルコトアリ或ヒハ俄然卒中狀ノ症候ヲ以テ起

ルコトアリ亦々麻痺ハ一局處ヲ限リテ他ニ蔓延シ或ヒハ轉移セサルモノトス何ントナ
 レハ阻塞スル所ノ脈管ハ皆ナ末梢ナルヲ以テ側枝充血ヲ起シ終ニ水腫ヲ將來シ患部ノ
 組織ハ死壞スルノ外他ニ患害ヲ及ホサ、ルヲ以テナリ
 既ニ阻塞ヲ起スルハ繼發スル所ノ症狀ハ殆ント血栓症ト異ナルコトナシ
 脈管系統ニ於テ遠隔ノ部ヨリ血栓ヲ生シテ腦ノ疾患ヲ誘起セントスルハ腦内ニ定住
 シテ障礙ヲ起スニアラサレハ必ラス頭蓋内ノ變調ヲ現出スルノ理由ナキハ素ヨリ論ヲ
 俟タス
 又々阻塞シタル脈管ノ貴要ナルト部位トニ因テ其症候ノ輕重ヲ異ニスルコト最モ甚タ
 シキ懸隔アルヲ知ルヘシ
 患者ノ過半数ハ卒中狀ノ發作ヲ將來シ俄然劇頭痛及ヒ眩暈ヲ起シ眼花ヲ發シ顔面蒼白
 色トナリ或ヒハ患者高聲ヲ發シテ呼吸スルコトアリ忽チニシテ感覺閉止シテ筋力弛緩
 シ或ヒハ判然タル癲癇狀ノ發作ヲ將來スルコトアリ
 毫モ感覺閉止スルコトナク唯々劇烈ナル眩暈ヲ將來スルニ過キサルトアリ尋テ精神錯
 亂シテ半身ノ筋肉痙攣ヲ起コシ且嘔吐ヲ來タスアリ
 卒中症ニアリテモ亦々嘔吐ヲ發スルアリ

本症ノ發作ハ畢竟微カニ腦ノ一部ニ貧血ヲ起シ同時ニ腦内ノ血壓ヲ變スルカ爲メニ米
 ル所ノ影響ナリ故ニ發作鎮靜ノ後ニ至リ半身不遂ヲ將來スヘシ而シテ前條ニ述フルカ
 如ク腦ノ左側ニ於テハ脈管ノ配置ヲ異ニスルヲ以テ右側ノ半身不遂ヲ起コスコト最モ
 多シ
 通常右側ノ半身不遂ヲ起コス多シト雖モ左側ヲ侵カスコトアリ或ヒハ兩側ノ麻
 痺若シクハ數種ノ腦神經ニ麻痺ヲ起コスアリ
 又々血栓ニ因テ網膜中心動脈ヲ侵カシ終ニ黒内障眼ヲ將來スルコトアリ
 諸種ノ機械的ノ腦症ノ經過中兩側ノ視神經炎ヲ發スルコトアルヲ以テ斯ノ如キ諸症ニ
 遭遇スルトキハ檢眼鏡ヲ以テ照檢スルコト最モ緊要ナリ
 精神上ノ官能ヲ侵カスコト一樣ナラス故ニ阻塞ノ餘發スルモノニアリテハ慢性動脈内
 層炎ニ因テ血栓ヲ生シ漸々精神ノ衰耗ヲ起コシ當初健忘ノ症狀ヲ發シ終ニ老人痴呆ヲ
 將來スヘシ
 血栓症ニ於テ昏睡ヲ發スルノ間ハ諸般ノ腦力悉ク靜止スヘシ而シテ後回復シテ唯々
 半身不遂ヲ貽コストキハ多少精神ノ衰耗ヲ起コシ言語ノ作用ヲ害スルコト一樣ナラス
 又恐怖ノ念ヲ起シ易ク理解及ヒ判斷ノ力共ニ消滅スヘシ

血栓ニ因テ右側ノ半身不遂ヲ起ストキハ言語困難ヲ起シ或ヒハ言語若シクハ文字ニ依テ思想ヲ通スルノ作用ヲ失スルコトアリ

半身不遂ハ舌体及ヒ患側ノ顔面ヲ侵カスモノトス又タ麻痺シタル部位ニ在リテハ容易ニ反射的運動ヲ刺戟スルモノ多シ

基礎動脈ノ血栓ヲ生スルトキハ稍々特殊ナル症狀ヲ呈スルモノナリ假令ヘハ腦ノ半球ヲ襲フコトナク又タ「シルウヰアン」氏動脈管ノ狹給ヲ受クルノ部位ヲ侵カスコトナシ加之ノミナラス卒中狀ノ發作及ヒ感覺閉止ヲ將來スルコトナク又タ知力ノ作用ヲ障礙スルコトナシ只懣フル所ハ舌筋ノ麻痺或ヒハ神經ノ變狀ニ因テ發聲ニ變常ヲ起シ且常ニ現ハル、所ノ症候ハ眩暈及ヒ嘔吐ナリ

經過時期及轉歸

血塞症ノ前後ニ於テ起ル所ノ變狀ニ基因スル症候ノ經過ハ必ラス緩慢ナルモノトス假令ヘハ血液ノ凝血ヲ起スカ爲メニ數月若シクハ數年ヲ要スヘク尋テ麻痺ノ症狀ヲ發スルコト又タ數月若シクハ數年ニ渉ルモノ鮮ナカラス殊ニ基礎動脈ノ疾患ヲ起スモノニアリテハ永遠治セサルモノ多シ

本症ノ經過中偶マ輕快ヲ覺ユルコトアリト雖モ忽チニシテ再發シ麻痺ヲ起ス所ノ諸筋ハ依然トシテ數月ヲ經ルモ治セサルモノナリ

診斷

血塞症ノ診斷ハ慢性動脈炎ノ証徴ヲ呈シ同時ニ橈骨動脈、毛髮、皮膚及ヒ

腦ノ皮質ニ分布スル尿管ノ疾患ニ基因スル所ノ血塞ニアリテハ諸筋ノ麻痺、音調ノ軟乏及ヒ五官ノ變狀共ニ迅カニ恢復スルコトアリト雖モ動モスレハ再ヒ同一ノ症狀ヲ發シ或ヒハ他ノ疾患ヲ誘起スルコトアルヲ以テ最モ戒心セサルヘカラス

是故ニ快復ノ徵候ヲ呈スルコト迅速ナルモノニアリテハ好結果ヲ見ルヘシト雖モ最モ豫后ニ注意セサルヘカラス之レニ反シテ血栓ニ基因スル阻塞症ニ於テ急劇ナル症候ヲ呈スルモノハ極メテ危篤ナルモノトス

巨大ナル尿管ノ阻塞ヲ起スルハ二三日以内ニシテ昏睡ニ陥非リ終ニ醒覺スルコトナク斃ル、コトアリ又タ症ニヨリテハ幸ヒニシテ醒覺シテ半身不遂ヲ貽コシ且暗啞ヲ發シ側枝充血及ヒ浮腫ヲ發スルルハ少シク体温ノ昇隆スルヲ見ルヘシト雖モ二三日ニシテ再ヒ健態ニ復シ爾後其原因ノ何タルヲ問ハス局處軟化ニ於テ見ル所ノ普通ノ經過ヲ取ルモノ多シトス

左側ノ中腦動脈ノ栓塞ニ因テ右側ノ半身不遂及ヒ暗啞ヲ發スルハ幼年ノモノニ多シト雖トモ敢テ年齢ヲ限ルコトナク且僂麻質性ノ瓣膜病ヲ併發スルコト鮮ナカラス或ヒハ動脈瘤、微毒性ノ腫瘍若シクハ潰瘍性心内膜炎ヲ誘起スルコトアリ

角膜ニ變狀ヲ呈シ前微期ノ變遷及ヒ蔓延ヲ徵シ且本病ノ症候ヲ現出スルニアリ
血栓症ハ患者ノ年齢、健康質、病歴、辨膜病ノ有無ニ因リ又々前驅徵ヲ發スルヲナク
突然本症ヲ將來スルモノナリ

治則

予ハ血塞患者ニ於テ左ニ載スル所ノ方劑ヲ投シテ屢々偉効ヲ奏スルヲ得
タリ

炭酸安謨尼亞十匹 (〇、六〇) ニ沃度安謨尼亞五匹 (〇、三〇) ヲ加エ適宜ノ製劑トナシ一日

三四宛内服セシメ數月間持長スヘシ其治効ノ目的タルヤ一ハ心臟及ヒ動脈ノ勢力ヲ増

シ一ハ血液ノ亞爾加里性ヲ有タシメテ以テ血塞ノ構成ヲ豫防スルニアリ

尿管壁ノ粉質變性ヲ制止スルカ爲メニ肝油及ヒ酪酸加磷酸石灰舍利別各々一茶匕ヲ合

シテ每食後ニ内服セシムルヲ良トス

總テ安謨尼亞製劑ハ食後ニ與フルヲ法トス又々傍ハラ毎日午前十時ニ幾尼涅五匹乃至

十匹 (〇、三〇乃) ヲ與フルハ抑壓ノ症狀及ヒ腦内循環ノ衰耗ヲ補給スルノ効アリ

常ニ適宜ノ滋養物ヲ食セシメ又々運動ヲ命シ且ツ排泄物ノ通塞ニ注目スヘシ

血栓ニ因スル阻塞ノ症狀ヲ現出スルハ直チニ醋酸安謨尼亞水ニ炭酸安謨尼亞ヲ溶解

シテ内服セシメ數週日間持續スヘシ

身体ヲ安靜ナラシメ專ラ淡泊易化ノ食品ヲ攝ラシムルヲ要ス

一二月ノ後兩側ノ腦ヲ通シテ最モ輕微ノ電氣 (凡ソ) ヲ用フヘシ

体温ノ昇隆スルハ幾尼涅ヲ投スルヲ緊要ナリト雖モ予ハ當初二三週間炭酸安謨尼亞

ヲ用フルノ後ニ之レヲ投スルヲ最モ必要ナルモノト信任セリ

〇 腦内毛細管之阻塞症

名原 オククラレヨシ オフカビリアアリ
OCCLUSION OF CAPILLARIES.

病原論

腦内ノ毛細管ハ巨大ナル尿管内ヲ自在ニ通過スル所ノ微細ナル分子ノ爲
メニ阻塞セラル、モノトス

急性泥沼毒ノ劇症ニアリテハ血球ノ崩壞ニ因テ微細ナル色素ノ分子ヲ構生シテ腦内ノ

毛細管ニ注入シテ爰ニ占居スルハ所謂色素ノ血栓症ヲ將來スヘシ

本症ヲ發スルハ暴劇ナル譫語ヲ放チ終ニ昏睡ニ陥ルヲアリ或ヒハ摘掣ヲ發スルヲア

リ又々不明ノ原因ニ依テ白血球ノ凝塊ヲ生シ血栓ヲ構成スルヲアリ斯ノ如キ例証ハ膿

血症又タハ顔面羅斯(母毒)ヲ併發スルモノニ於テ血栓ヲ生スルヲ以テ見ルヘシ

癌腫、敗血症又タハ分解物ノ分子ヨリ成ル所ノ血栓ハ所謂傳染性血栓ナルモノニシテ

巨大ナル尿管ヲ通過シテ腦内ノ毛細管ニ至テ阻塞スルヲアリ

偶マ骨質ノ分解ヲ起ス所ノ部位ニ於テ石灰塩類ヲ以テ毛細管ヲ阻塞スルヲアリ吾人ハ之レヲ石灰塩ノ血栓ト稱ス又タ斷骨ノ髓質ヨリ血中ニ注入スル所ノ脂肪球ニ因テ血栓ヲ構成スルキハ之レヲ脂肪血栓ト云フ

脂肪血栓ニ因テ肺臟ノ毛細管ヲ閉鎖スルキハ諸機關ニ最モ恐ルヘキ徵候ヲ起スヘシ而レモ最モ微細ナル脂肪小球ハ肺臟ヲ通過シテ腦ノ毛細管ヲ阻塞スヘシ

毛細管ノ間隙ニハ數多ノ接口枝ヲ有スルカ故ニ唯タ少數ノ毛細管ヲ阻塞スルニ過キサ

ルキハ忽チ他ノ部位ニ於テ其代償ヲ營為スルヲ最モ容易ナルモノトス
數多ノ毛細管ヲ阻塞スルキハ貧血ヲ起コシ尋テ組織ノ死壞ヲ來タシ終ニ軟化スルヲ常トス

徵候

溶溶毒ノ經過中ニ發スル所ノ色素性血性ノ患者ニアリテハ劇烈ナル頭痛眩暈及ヒ譫語ニ因テ徵知スヘシ或ヒハ偶マ搐搦ヲ發シ爾後熱症ノ増劇ヲ致スヘシ

顏面羅斯ノ經過中ニ起ル所ノ症候モ亦タ稍々同一ナリト雖モ白血球ノ栓塞ニ基因スルノミ又タ斷骨後ニ來ルキハ脂肪血栓ヲ生スルヲアリ

同時ニ夥多ノ血栓ヲ生スルニアラサレハ其症候モ亦タ著ルシカラス唯タ眩暈健忘其他ノ知力缺乏及ヒ頑固ノ頭痛ヲ將來スルニ過キス

本症ノ診斷ハ總テ普通ノ疾患ニ比スレハ一層困難ナルモノトス
治法ハ動脈管ノ阻塞症ノ條下ニ載スル所ノモノヲ基本トシテ取捨スヘキノミ

病原論

○腦内諸竇之阻塞症

名原 オクラレノン オフシメシス
OCCLUSION OF SINUSES.

血塞ハ腦内諸竇ノ阻塞ヲ誘起スルノ原因ナリ又タ靜脈ノ溢血或ヒハ靜脈

内層炎ヨリ來ルヲアリ

血塞ニ基因スルモノアリテハ心臟ノ進行力ヲ減スルヲ甚タシキヲ以テ血中ノ纖維素ノ増加スルヲ見ルヘシ是レ即チ纖維增多症ノ起ル所以ナリ故ニ斯ノ如キ症狀ハ經久ノ疾患ニ因テ虛脱シタル小兒ニ於テ現ハル、ト多シ既ニ予カ實見セシ一患者ノ如キハ數週日間迴結腸炎ニ罹レリ

靜脈内層炎ハ近接シタル組織ノ疾患ニ繼發スヘシ殊ニ最モ多ク見ル所ノモノハ顛顛骨巖狀部ノ骨瘍ニシテ唯タ岩狀竇或ヒハ橫竇ノミヲ侵カスヲアリト雖モ化膿性靜脈内層炎ニアリテハ俄然硬腦膜ニアル所ノ靜脈竇及ヒ環狀竇ニ蔓延スルヲアリ

骨瘍二次ク所ノモノハ頭部及ヒ顏面ノ羅斯、上唇或ヒハ鼻翼ノ炭瘍及ヒ唇縁ヲ侵カス

所ノ惡性膿疱疹ナリ

血塞ノ部位ハ其原因ノ如何ニ據テ判斷スルヲ得ヘシ假令ヘハ骨瘍ニ基因スルキハ橫竇
或ヒハ岩狀竇ニ於テ血塞ヲ檢出スヘク羅斯或ヒハ慢性炭瘍ナルキハ眼竇翼或ヒハ硬腦
膜ノ靜脈竇ニ阻塞スヘク又タ心力微弱及ヒ纖維增多症ニ依テ起ルキハ長竇ニ於テ血塞
ヲ生スルヲ常トス

血塞及ヒ其繼發症狀ハ前症ニ載スル所ト異ナルヲナシ

腦内ノ諸竇ニ通過スル所ノ脈管ニ阻塞ヲ起コスルハ腫脹シテ彎曲シ之カ爲メニ脈管壁
菲薄トナリ終ニ壓迫ニ因テ侵蝕セラレ腦半球ノ處々ニ出血ヲ起シ殊ニ皮質ニ於テ著ル
シキモノナリ

出血滲漏シタル部ノ周圍ニ軟化ヲ起コシ又タ腦膜炎ヲ併發スルヲアリ

徵候

消耗性諸病ニ罹ル所ノ患者又タハ心力微弱ナルモノニ於テ腦内諸竇ノ血
塞ヲ生スルキハ其本病ノ諸症ニ依テ隱蔽セラル、ヲ以テ血塞ノ証徵ヲ檢出スルヲ能ハ
サルモノ鮮ナカラス加之ノミナラス斯ノ如キ患者ニアリテハ多ク腦ノ貧血症ヲ誘起ス
ルヲ以テ其症候モ亦タ一層不明ナルモノトス然リト雖モ吾人カ通常目撃スル所ノ
症候ヲ列舉スヘシ

頸部諸筋ノ強直ヲ起コシテ後頭部ハ殆ント肩胛骨ト平行シ或ヒハ偶マ全身諸筋ノ強直
ヲ發スルヲアリ其他眼瞼弛垂、斜視眼、眼球橫轉及ヒ顔面諸筋ノ麻痺ヲ起コシ精神遲鈍
ニシテ感覺閉止シ終ニ昏睡ニ陥リ」或ヒハ譫語ヲ發スルヲアリ尋テ頭痛、眩暈及ヒ惡
心嘔吐ヲ來タシ終ニ昏睡ニ依テ斃ル、ヲアリ」或ヒハ諸筋攣縮、麻痺、局處震戰及ヒ間代
性ノ搐搦ヲ將來スルヲアリ」或ヒハ當初麻痺ヲ起コシ攣縮及ヒ強直ト交代スルヲアリ
斯ノ如ク諸症候複雜シテ一様ナラサルヲ以テ醫家診斷ニ際シテハ最モ注意シテ本症ヲ
誘起スヘキ原因ヲ探索セサルヘカラス

又タ外部ノ脈管ヲ侵カス所ノ循環系ノ變狀ニ注目スルヲ最モ緊要ナリ

顔面ノ靜脈ハ眼竇翼ノ靜脈及ヒ硬腦膜ノ靜脈竇ト交通スルモノナリ」又タ鼻竇靜脈ハ
前額竇孔ヲ經テ長竇ト交通スルモノナリ」後頭靜脈ハ乳頭部ノ細靜脈ニ因テ橫竇ト交
通スルヲ知ラサルヘカラス

是故ニ諸竇ノ血塞ニ於テ軀血、眼瞼、浮腫其他顔面及ヒ後頭靜脈ノ膨大スルヲ見ルヘシ
又タ同一ノ原因ニ依テ眼瞼突出、結膜充血及ヒ網膜靜脈ノ膨大及ヒ彎曲其他視力板ノ曇
暗腫脹スルヲ見ルヘシ

硬腦膜靜脈竇ノ血塞ニ於テハ第五對神經ノ壓迫ニ依テ刺衝ヲ起コシ第四對神經痛及ヒ

内斜視眼或ヒハ動眼神經痛、外斜視眼及ヒ瞳孔収縮ヲ起スヘシ
以上ノ諸症候ハ血塞症ニ於テ最モ重要ナルヲ素ヨリ論ヲ俟タス然リト雖モ其症候ヲ顯
出セサルモ未タ以テ血塞症ノ現存ヲ敗滅セシムルヲ能ハサルナリ
耳漏及ヒ顛顛骨岩狀部ノ骨瘍ノ經過中ニアリテハ諸般ノ腦症ヲ現ハシ終ニ敗血症狀ノ
熱ヲ發スヘシ

丹毒或ハ上唇膿瘍ノ經過中譫語ニ尋テ昏睡ノ狀ニ陥井リ腸埜扶斯ノ症狀ヲ呈スルモハ
腦質内ノ血塞ニ因テ來ル所ノ症候ト誤認スルヲアリ
診斷ニ際シテハ最モ博ク觀察ヲ下タサ、ルヘカラス

治則

治術ノ大要ハ炭酸安諾尼亞及ヒ幾尼涅ノ大量ヲ與ヒ腦内諸脈管ノ阻塞ヲ
流暢セシムルニアリ而レモ既ニ此症ヲ發スルモノニアリテハ回役スルモノ最トモ稀レ
ナリ
上唇ノ膿瘍ヲ發スルモハ早晚其變症ヲ現出スルモノト見做サ、ルヘカラス此時ニアリ
テハ幾尼涅ヲ多服セシメテ以テ其豫防ヲ怠ルヘカラス

○ 腦 出 血 セレブラルヘモレージ
名原 CEREBRAL HAEMORRHAGE.

釋義

コルモノナリ

本症ハ脈管ノ一部ニ破綻ヲ生シ腦ノ組織内ニ血液ノ注流スルカ爲メニ起
卒中ナル文字ハ偶々腦出血ト同一ノ意義ニ應用スルヲアリト雖モ此名ハ元ト症候上ノ
通用ニ止マリ獨立ノ疾患ヲ徵スルモノニアラサルヲ以テ正確ナル解釋ニアラサルナリ

原因

腦出血ノ主要ノ原因ハ脈管ノ疾患ニシテ殊ニ細動脈管ニ於テ起ル所ノ動
脈瘤狀ノ膨大ナリ而シテ其大小一定セス帽針頭大ヨリ微細ナルモノニ至テハ肉眼ヲ以
テ窺フヲ能ハサルモノアリ

本症ハ四十歳以下ノ壯者又ハ幼兒ヲ襲フヲ鮮ナク年齢ノ増進スルニ從テ益々其數ヲ増
加スルモノナリ

獨逸國ノ大家「アイフラル」氏ノ說ニ據レハ本症ノ變狀ハ動脈外圍炎ニシテ當初脈管ノ
周圍ニアル所ノ淋巴鞘ヲ侵カシ尋テ脈管ノ外膜ニ達シテ筋層ノ膨大ヲ起コシ終ニ動脈
瘤ヲ構成スヘシ

脈管ノ諸膜ヲ侵カス所ノ粉質變性ヲ起コスモハ所謂粟粒狀動脈瘤ヲ誘起スルカ爲メニ
亦タ間接ニ於テ本症ノ原因タリ

血壓ノ増進モ亦タ間接ニ於テ出血ヲ誘起スル所ノ感動ヲ有スルモノナリ
何症タルヲ問ハス脈管ヲシテ脆弱ナラシムル所ノ疾患ニ罹リ血壓ノ増進ヲ起スルハ忽
チ脈管ヲ破壊スヘシト雖モ脈管壁ニ於テ其疾患ナキハ諸種ノ壓迫ヲ被ムルモ侵カサ
ル、フ鮮ナシトス

血壓ヲ増進スル所ノ重要ナル原因ハ心臟左室ノ肥大症ニシテ同時細動脈管ノ筋層ニ肥
大ヲ起コシ且収縮腎(即チ纖維腎)ヲ將來スヘシ

常ニ固定スル所ノ血壓ノミナラス諸般ノ原因ニ依テ急劇ナル壓迫ヲ腦内ノ脈管ニ被ム
ラシムルヲアリ假令ヘハ亞爾個兒、阿片、珈琲及ヒ茶ノ如キ衝動劑ヲ内服シ又タハ温浴
若シクハ冷浴ニ際シ或ヒハ暴食シ或ヒハ精神ノ感動ヲ起コスカ如キハ皆ナ其原因トナ
ルモノナリ

腦出血ハ秋季ノ寒冷ナル時候ニ於テ殊ニ其發現ヲ促ナカスモノ、如シ
咳嗽、努力及ヒ交接ノ如キ諸般ノ靜脈充血ニ因テ腦出血ヲ誘起スルヲアリト雖モ其發症
ニ先タチ脈管壁ノ疾患ヲ發スルモノ多シ

腦出血ノ感受性ハ遺傳スルヲ多キハ世人一般ニ是認スル所ナルヲ以テ出血ヲ誘起スル
所ノ動脈ノ疾患モ亦タ恐ラクハ遺傳スルモノナランカ

病理的解剖

腦内ニ於テ殊ニ出血ニ罹リ易キ部位アルニ似タリ假令ヘハ線條體、
「レンス」狀核及ヒ視神經床ニ於テ見ルヲ鮮ナカラサルカ如シ而シテ此部ヲ侵カス時ト
雖モ必ラシテ原發ノ部位ヲ限局スルヲナク同時ニ患側ノ半球ノ諸部ニ障礙ヲ起スヘシ
又同一ノ半球ニ於テモ各個ノ葉體ニ於テ一様ナラサルナリ故ニ後葉ニ比スレハ前葉及
ヒ中葉ヲ侵カスコト多シ之レニ次クモノハ大腦ノ實質ナリト雖モ極メテ稀レナリ殊ニ
華魯里氏橋及ヒ髓質ノ如キハ絶エテ之レヲ見ルヲ少ナシ

血液ハ必ラスシモ脈管ノ破裂シタル部位ニノミ限局スルモノニアラス故ニ表面又タハ
腦室内ニ流出シ或ヒハ通路ヲ經テ第三室ヨリ第四室ニ轉移スルヲアリ

多量ノ出血ヲ將來スルハ硬腦膜ヲ緊張シテ腦ノ廻轉ヲ壓排シテ小溝ノ深サヲ減スル
モノ鮮ナカラス而シテ其血液ハ凝塊ヲ生スルアリ或ヒハ菲薄ナル板狀ヲナスヲアリ
普通ノ症ニアリテハ所謂中風竈ヲ構生シテ稍々圓形ヲナシ豆大ヨリ胡桃大ニ至ルノ差
アリ又タ一個ナルアリ數個ナルアリ而シテ兩側ノ線條體ニ於テ各々一個ヲ生スルヲア
リ或ヒハ新發ノ中風竈ノ外ニ舊發ノ出血点ヲ現出スルヲアリ

新發ノモノニアリテハ暗黒色ノ血塊ヲ存シ其成分ニ於テ同種蕃殖ノ機ヲ起スヘシ而シ
テ其周圍ニハ破壊シタル腦ノ實質ト血液トノ混和シタルモノヲ生シ且其凝塊中ニ水分

破壊シタル脈管ハヒ粟粒狀動脈瘤ノ破綻シタルモノヲ見ルヘシ
 血塊ヲ構成スルヤ否ヤ直チニ分離スルヲ常トス而シテ血球ハ凝聚スルモ纖維素ハ其中
 央或ヒハ外圍ニ凝着シ壓出セラル、所ノ漿液ハ近傍ノ破壊シタル腦質内ニ浸潤スヘシ
 而ル後幸ヒニシテ未タ死ニ至ラサルモハ血塊ニ於テ退却變化ヲ起シ當初暗褐色ナルモ
 ノ血色素ノ消失スルヲ見ルヘシ而シテ水分モ亦タ吸収シテ唯タ帶黄膿狀ノ物質ヲ殘コ
 スニ過キサルナリ
 近傍ノ腦質ニ於テ分界性ノ炎症ヲ起コスヲアリ又タ海綿狀組織ノ結締織膜ヲ播生シ内
 ニ血塊ノ遺殘物ヲ含有スヘシ
 帶黄色膿狀若シクハ帶白色米汁汁ノ如キ液体ノ外ニ色素ノ結晶体ヲ檢出スルコトアリ
 血塊及ヒ周圍ノ腦質共ニ斯ノ如キ變化ヲ起スモノハ好轉歸ナリト雖モ毎常必ラスシモ
 同一ナルモノニアラス症ニヨリテハ血塊ヲ生スルノ後未タ數日ヲ經サルニ其周圍ノ腦
 質ニ炎症ヲ起コシ益々蔓延シテ終ニ軟化及ヒ浮腫ヲ將來スルヲアリ或ヒハ又血塊ノ周
 圍ニ囊狀ヲ生シテ變狀ヲ起スヲナク依然トシテ持續スルヲアリ或ヒハ巨大ナル癍痕ヲ
 貽コシテ血塊ノ消失スルヲアリ而シテ其癍痕ハ緻密ナル結締織ヨリ成リ或ヒハ色素ヲ
 含ム所ノ海綿狀体ヲナスヲアリ

腦出血ニ因スル所ノ變狀ハ必ラスシモ原發ノ部位ニノミ限局スルモノニアラサルナリ
 偶マ數月ヲ經テ圓錐狀索ノ神經纖維ニ於テ萎縮性ノ變質ヲ起スヲアリト雖モ必發ノ變
 狀ト見做スヲ能ハサルナリ
 腦内ノ囊体、線條体、運動帶ノ灰白質及ヒ近傍ノ白質ニ出血ヲ起スモハ其變狀ヲ見ル
 アリト雖モ視神床及ヒ卵圓体ニ出血スルモハ其變質ヲ起スヲ鮮ナク殊ニ線條体ノ尾核
 ニ於テ出血ヲ起スモハ絶エテ其變質ヲ見ルヲナシ
 萎縮症ハ腦脚、華魯里橋及ヒ圓錐狀索ヲ通過シテ下方ニ浸淫シ神經元質ニ消耗ヲ來タ
 シ之レニ反シテ結締組織ノ増息ヲ起コスモノナリ

徵候

腦出血ハ多ク判然タル前徵ヲ呈スルモノトス而シテ日常最モ普通ノ症候
 ハ慢性動脈炎ヲ有スルカ爲メニ血塞ノ誘因トナリ或ヒハ偶マ腦充血ニ基因スルヲアリ
 頭痛及ヒ眩暈ヲ起コシ微然精神ノ錯亂ヲ將來シ記憶力消失シ或ヒハ言語ノ誤謬ヲ發シ
 常ニ心神ノ不快ヲ覺エ或ヒハ悲哀シ或ヒハ失心シ又タ關節ノ一部若シクハ片側ニ衰弱
 ヲ起コシ或ヒハ一局處若シクハ數處ニ於テ諸筋ノ感覺遲鈍又タハ震顫或ヒハ厥冷ヲ覺
 エ其他視視症、舌体衰耗又タハ顔面筋ノ麻痺ヲ發スルヲアリ
 予カ嘗見セシ一患者ハ當初腦充血ニ基因スル卒中狀ノ症候ヲ呈シ數週日ニシテ強劇ナ

ル腦出血ヲ来タセリ

患者多クハ前徵期ヲ有スルコトナク俄然出血ヲ起スモノナリ而シテ其發作時ノ症候ハ
一様ナラサルモノトス故ニ卒中狀ノモノニアリテハ患者一タヒ呼吸シテ感覺閉止ス又
普通ノ症ニアリテハ知覺ヲ失スルノ前必ラス劇頭痛或ヒハ眩暈ヲ起發シ且惡心嘔吐ヲ
伴ナヒ或ヒハ舌体麻痺シテ失語シ或ヒハ謔語若シクハ歩行蹣跚トナリ或ヒハ欠伸シ或
ヒハ嗜眠倦惰シ或ヒハ諸關節ノ衰耗及ヒ虛脱ヲ起コシ或ヒハ一肢ニ強劇ナル麻痺或ヒ
ハ震顫ヲ發シ或ヒハ諸筋ノ痙攣ニ尋テ麻痺スルカ如ク卒倒ニ先タチテ數時間若シクハ
數分時間諸般ノ症候ヲ呈スヘシ

患者既ニ感覺閉止スルキハ全然筋力弛緩シテ反射運動ヲ起スナク持リ心臓ノ作用及
ヒ呼吸ノミ持續スヘシ

劇症ニアラサレハ感覺閉止スルモ甚タシカラサルヲ以テ強劇ナル刺戟ヲ與フルキハ反
射運動ヲ興起スヘシ又タ咽喉ニ於テ食物ヲ置クキハ嚥下スルヲ得ヘク左右兩側ノ運動
ニ於テ差異ヲ起スヘシ故ニ眼球及ヒ頭部ノ運動ニ於テ患側ニ傾キ麻痺シタル部ノ弛緩
スルヲ見ル

腦出血ト他ノ感覺違常ノ原因トヲ斷診スルニ當テハ此運動ヲ檢スルコト最モ緊要タリ

出血ニ因テ感覺閉止スルモノニ於テ癩癩狀ノ搐掣ヲ發スルヲアリ是レ即チ巨大ナル出
血或ヒハ華魯里氏橋若シクハ腦髓中ニ出血ヲ起シタル徵証ナリ

出血ノ徐發スルカ爲メニ患者モ亦タ漸々感覺閉止ノ狀ニ陥ルキハ惡心嘔吐ヲ起シ顔貌
蒼白色トナルヲアリト雖モ腦出血ニアリテハ多ク顔面潮紅スルヲ常トス

瞳孔ノ縮張ニ就テハ常ニ一定ノ規則アルヲナシ而レモ通常視ル所ノモノヲ以テ推究ス
ルニ瞳孔ノ収縮スルヲ僅々ニ過キササルモノハ華魯里氏橋ニ出血シタルヲ徵スヘク又左
右不等ニシテ一方ノ開張スルヲ甚タシキモノハ巨大ナル出血ニ因テ側室ヲ通過シテ破
壞シタルヲ証スヘシ

呼吸ハ必ラス鼾聲ヲ帶フルモノトス且吸氣ニ際シ麻痺シタル頰部ノ陥没スルヲ見ルヘ
シ又タ之レニ反シテ呼氣ニ於テ突出スヘシ

脈搏實性ナレモ微細ニシテ徐長トナリ或ヒハ不正トナルヲアリ
偶々感覺閉止スルヲ甚タシカラサルヲ以テ高聲ヲ放テ呼吸スルキハ醒覺スル所ノ卒中
狀ノ患者ヲ見ルヲアリ而レモ暫時ニシテ昏睡狀ニ陥ルモノ多シ

又タ全ク感覺ヲ失スルヲナク唯タ一時精神ノ錯雜ヲ来タスニ過キササルヲアリ或ヒハ前
驅徵ヲ呈シ尋テ片側ノ麻痺ヲ將來スルヲアリ

屢々突然發作スルノミナラス全然劇症ヲ頓發スルアリ或ヒハ餘發シテ數分時間尚ホ極期ニ達セサルヲアリ

卒中症ニ於テハ感覺閉止スルノ際五分時間乃至二三日間ニシテ終ニ死ヲ致スヲアリ電光卒中ト稱スルモノハ極メテ稀有ノ症ニシテ二三分時間ヲ經スシテ斃ル、モノトス而シテ其原因ハ多ク心臟病ニアリ

卒倒シテ二十四時間ヲ經ルモ醒覺セサルモノハ不幸ニ陷ルモノ多シ

体温ハ發作間通常降下スルヲ一二度ニ過キスト雖モ第一日ノ終ニ至ルトキハ必ラス健態ニ復シ或ヒハ稍々昇降スヘシ而シテ不良ノ轉歸ヲ取ルモノハ死ニ臨ンテ甚タシク昇隆ス

大家「ブラオン、セクアルド」氏ノ說ニ據レハ腦ノ右半球ニ疾患ヲ有スルモノニアリテハ偶々肺炎ヲ發シテ斃ル、ヲアリト云フ

發作後二三分時間ニシテ感覺常態ニ復スヲアリト雖モ半時間乃至三時間ヲ以テ普通ノ時期トナセリ

又數日間感覺閉止シテ精神錯雜及ヒ言語澁滯ヲ將來シ依然トシテ整復セサルヲアリ醒覺ノ期ニ臨ムキハ反射運動ヲ回復シ刺戟ニ因テ感覺ヲ起スヲ以テ徵スヘシ

發作後二三日ニシテ炎症ノ徵候ヲ發スルキハ回復ノ機ヲ遲延セシムルヲアリ此時ニアリテハ体温ノ昇隆スルヲ一二度ニシテ頭痛及ヒ精神ノ錯亂ヲ起シ又タ譫語ヲ發スルヲアリ強直性ノ痙攣ヲ起シ尋テ麻痺ヲ覺エ或ヒハ其部ニ劇痛ヲ發シテ數日間治セサルヲアリ而レヒ他ノ諸症候ハ皆ナ悉トク退消スルモノ多シ

發作ニ基因スル所ノ變調悉トク退消スルニ至ルキハ始メテ明カニ麻痺シタル部位ノ廣狹ヲ檢出スルヲ得ヘシ

腦内ノ出血ニ因スル症候ノ退消スルキハ直チニ其官能ヲ整復スヘシト雖モ發作ノ震盪ニ因テ腦ノ諸部ニ於テ官能ヲシテ健態ニ復セシムルヲ能ハサルモノトス

病初現ハル、所ノ諸般ノ弛緩性及ヒ麻痺性ノ症候共ニ迅カニ靜止スト雖モ尚ホ永遠明亮ナル變症ヲ貽コスモノトス

麻痺ノ輕重一定セサルモノニシテ僅カニ疲倦ヲ覺ユルニ過キササルモノヲアリト雖モ重症ニアリテハ全然運動ノ機能ヲ歇止スヘシ

中風竈ノ數唯タ一個ナルキハ必ラス片側ノ麻痺ヲ將來シ疾患ハ其對側ニアルモノトス故ニ被患ノ半球ニ從テ右側若シクハ左側ノ半身不遂ヲ發スヘシ而シテ其症候タルヤ患側ノ顔面諸筋、舌、軀幹及ヒ上下二肢ヲ侵襲スルニアリ

麻痺シタル顔面ノ諸筋ハ大抵言語ヲ司トル所ノモノニシテ第七對(即チ顔面神經)ノ神經ヲ賦有スルモノトス而シテ其神經ノ枝別ハ眼瞼輪匝筋及ヒ皺眉筋ニ分布シ前頭部ハ却テ侵カサル、一渺ナシ又タ鼻翼ト唇同ノ筋ハ其作用ヲ營ム一ナク口角ノ陷没スルヲ見ルヘシ

舌体ヲ壓出セシムルハ患側ニ向テ傾斜シ且口蓋ハ健側ヨリ下垂スルヲ常トス

言語ヲ司トル所ノ諸筋ニ麻痺ヲ起スカ故ニ肉笛クシクエカナツボ、嚙クサ口若シクハ噱笑ウラウスルカ如キ諸般ノ

運動澁滯シテ自在ナルヲ能ハス

大家「ノートナーゲル」氏ノ説ニ據レハ本症ニ於テ胸筋ノ麻痺ヲ起コシ稍々呼吸ノ障碍ヲ起コスヲアリト云フ

屈筋ニ比スレハ伸筋ヲ侵カス一強劇ナルカ如シト雖屈筋ハ唯々激烈ナルカヲ要スルニアラサレハ使用スルヲナキヲ以テ通常伸筋ノ麻痺ヲ覺ユルヲ多シ

神經ノ運動纖維ハ互ヒニ交叉スルヲ以テ腦ノ疾患ヲ被ムリタル半球ニ反對シタル部位ニ於テ半身不遂ノ症候ヲ呈スルモノナリ是故ニ無學ノ醫家ニアリテハ往々反對ノ診斷ヲ下タスモノアリ最モ注意セサルヘカラス

兩側ノ麻痺ヲ將來スルハ其疾患モ亦タ兩側ニアルモノトス間マ其例証ヲ見ルヲアリ

一側ニアリテハ顔面諸筋ノ麻痺ヲ起コシ其反對ノ一側ニ於テハ上下二肢ノ麻痺ヲ發スルカ如キハ之レヲ交換麻痺ト稱ス斯ノ如キ變症ハ華魯里氏橋ノ疾患ニ因テ起コルコトアリ

麻痺シタル部位ハ運動作用ヲ歇止スルヲアルモ共同運動ニ至テハ障碍ヲ起サ、ルヲアリ故ニ咬漱或ヒハ噴嚏ニ際シ麻痺シタル筋モ亦タ其作用ヲ營ムモノナリ或ヒハ健側ニ於テ營爲スル所ノ運動ヲ感傳スルヲアリ

出血後ニ來ル所ノ癲縮症又タハ出血後數日ヲ繼テ血塊ノ周圍ニ炎症ヲ起コシ之レカ爲メニ誘發スル所ノ癲縮症ハ既ニ前ニ詳論シタルヲ以テ再ヒ爰ニ贅セサルナリ

經久麻痺ヲ發スルノ後ニ現ハル、所ノ癲縮症ハ之レヲ徐發性梗直ト云フ而レモ其強弱及ヒ豫后ノ如何ハ毫モ疾患ノ症狀ニ關セサルカ如シ又タ其梗直ノ症狀モ每常必ラス發スルモノニアラサルナリ

「ボーチヤルド」氏ノ説明ニ曰ク梗直ヲ發スルハ神經索ニ於テ萎縮性ノ變狀ヲ誘起スルニ因ルモノナリト而レモ今日ノ學說ニ於テハ其論ヲ是認セサルモノ多キカ故ニ猶ホ未タ充分ナル解釋ヲ要スルモノ、如シ

經久麻痺シタル諸筋ハ梗直ヲ發スルノミナラス舞踏病狀ノ運動ヲ起コスヲアリ是レ即

吾カ米人「ミツチエル」氏カ創メテ論シタル所ニシテ其後「チャーコット」氏ハ之レヲ研究シテ半身不遂後ノ舞蹈病ト題セリ而シテ今日ノ學說ニ於テハ健側ノ運動中樞器ニ於ケル變狀ニ因テ起ルモノト斷定セリ

吾人ハ麻痺シタル諸筋ハ電氣ノ刺衝性ヲ有スルヲニ注目セサルヘカラス是故ニ症ニヨリテハ電氣ノ刺衝性増進スルモノアリ或ヒハ却テ減少スルモノアリ然リト雖モ電氣ノ刺衝性(即チ収縮力)ノ減少スルハ麻痺シタル部位ノ脊髓ニ近接シタルヲ徵スヘシ是故ニ腦脚、華魯里氏橋及ヒ延髓ノ疾患ニアリテハ必ラス刺衝性ノ減スルヲ見ルヘシ
出血ニ基因スル障碍ヲ被ムルノ後暫時ニシテ運動麻痺ト共ニ知覺鈍麻ヲ起スヲアリ而レモ一般ノ規則トシテ知覺ハ忽チニシテ健態ニ復スルモノトス偶マ回復スルヲ緩慢ナルヲアルモ全然治セサルモノニ至テハ頗フル稀レナリ
線條體ノ疾患ニ於テハ知覺脱失及ヒ疼痛不感ヲ伴フヲナキヲ以テ此諸官能ハ半身不遂症ニ於テ永遠障害セラル、ト鮮ナシ
神經根基又タハ放線體ノ如キ部位ニ起ル所ノ疾患ニアリテハ常ニ知覺脱失ヲ以テ必發ノ症候トナスヲアリ
當初充血ヲ起コシ尋テ知覺脱失ヲ發スルコトアリ又タ麻痺シタル諸筋ニ於テ神經痛ヲ

發スルヲアリ

半身不遂症ニ於テ諸般ノ榮養機變狀ヲ發スルモノ多シ
最初半身不遂症ヲ發スルルキハ同時ニ麻痺シタル諸筋ハ稍々腫脹シテ赤色トナリ熱度モ亦タ少シク昇隆シテ脱汗ヲ求タスヘシ爾後二三週若シクハ二三月間ヲ經ルルキハ此症候悉トク退消シ却テ反對ノ狀ヲ呈シ患部厥冷シテ蒼白色若シクハ帶青色トナリ皮膚乾燥シテ鱗屑狀ヲ呈シ爪甲彎曲シテ肥厚スルモ脆弱トナリ毛髮ノ組織及ヒ長短共ニ變狀ヲ求タスヘシ

全身ノ皮膚肥厚シテ處々ニ韌軟トナリ巨大ナル關節ニアリテハ急性關節膜炎ヲ發スルモノ多シ斯ノ如キ榮養上ノ變症ヲ誘起スルノミナラス本症ニ於テ麻痺シタル諸筋ハ屢壓迫ニ因テ潰爛ヲ起コシ易ク殊ニ褥瘡ノ如キハ常ニ免レサル所ノ症候ナリ

經過時期及轉歸

電光中風ト稱スルモノニアリテハ數分時間ニシテ斃ル、トアリト雖モ十五分時間以内ニシテ死スルモノニ至テハ未タ嘗テ見サル所ナリ
偶マ回復ノ機ヲ起コシ知覺モ亦タ殆ント健態ニ復シ更ニ發作ヲ起コシ一二日ニシテ斃ル、トアリ

卒中性ノ症候退消スルノ後ニ至リ恐ルヘキモノハ血塊ノ周圍ニ炎症ヲ發スルニアリ此

時ニ於テ熱症ヲ發シ頭痛及ヒ譫語ヲ將來シテ輕減セサルモハ一週日以内ニシテ不幸ニ陷井ルノ徵ナリ若シ幸ヒニシテ此期ヲ經過スルモハ諸症候減退シテ半身不遂ヲ貽コスヘシ而レモ半身不遂モ亦タ漸々消失シテ終ニ原病ノ痕跡ヲ見ルニ過キサルヘシ
運動麻痺ニ基因スル症候ハ退消スルモ諸般ノ能力ニ於テハ全然健態ニ復スルモ殆ント稀レナリ

判然タル精神ノ變狀ヲ起サ、ルモ事物ニ感動シ易ク忍テ泣シ或ヒハ恐駭シ易ク又タハ刺衝機充盛シテ憤怒シ易キモノアリ
普通ノ症ニアリテハ記憶力ノ脱失スルヲ甚タシク發病後ニ遭遇シタル事物ニ於テハ殊ニ忘却シ易ク唯タ幼年ノ時ニ經過シタルハ回想スルヲアリ
言語ニ関スル記憶力ハ障礙セラル、ト輕微ナルアリ或ヒハ談話ニ困シムモノアリ或ヒハ全然失語ヲ將來スルヲアリ此時ニ於テ暗號ヲ以テ思想ヲ發露スルヲ能ハサルニ至ルヲアリ
偶々精神上ノ諸能力漸々衰耗シテ終ニ痴默ヲ陷井ルヲアリ
半身不遂ヲ發スルノ時期一様ナラス十年ニシテ終ハルモノアリ經久ナルモノニ至テハ十五年乃至二十年ニ達スルモノ鮮ナカラス

半身不遂ニアリテハ原發シタル諸症候ノ未タ退消セサルニ當テ更ニ發作ヲ將來スルモノ最モ多シ而シテ第二回ノ發作ニ因テ不幸ニ陷井ルモノハ常ニ見ル所ノ轉歸ニシテ偶々他ノ疾患ヲ續發スルモノニ於テ死ヲ免ル、コトアルノミ

診斷

腦内脈管ノ阻塞症ト腦出血トノ鑑別ハ既ニ前章ニ詳説セリ而レモ症候ニ據テ疾患ノ部位ヲ診定スルノ要點ヲ爰ニ記載スヘシ
據テ疾患ノ部位ヲ診定スルノ要點ヲ爰ニ記載スヘシ
症候ニ據テ出血ノ部位ヲ診定セント欲セハ腦内局處ノ解剖ヲ詳知セサルヘカラス
腦半球ノ皮質及ヒ髓質ニ於テ疾患ヲ起スモハ其反對側ニ於ケル身体ノ麻痺ヲ將來スルモノナリ
患部ノ狭小ナルモノニアリテハ回復スルコトアリ
左側前頭部ノ第三廻轉ニ限局スル所ノ疾患ニ於テハ唯タ失語ヲ發スルニ過キス
腦出血ニ因テ他部ニ現ハル、所ノ症候ハ精神上ノ變調ニ比スレハ知力ノ障礙ヲ起スコト多シトス
腦ノ前葉ニ出血スルモハ其對側ニ於ケル身体ノ麻痺ヲ起コスヘク若シ左側ヲ侵カスモハ失語ヲ將來スヘシ
左側中腦動脈ノ供給ヲ受ケル所ノ部位ニ出血スルモハ言語若シクハ文字ヲ以テ思想ヲ

通スルコト能ハサルニ至ル
腦中葉ノ後部又タ後葉ニ出血スルハ知覺及ヒ運動共ニ變調ヲ起スヘシ
視力變狀及ヒ視神經炎ニ於テ感動ヲ誘起スヘキ特異ノ素質アルハ麻痺及ヒ精神上ノ
變調ヲ發スルコトアリ

腦ノ諸室内ニ出血スルハ最モ恐ルヘキ症候ヲ現出スルモノトス即チ危篤ナル昏睡ヲ
起コシ或ヒハ局處若シクハ全身ノ搐掣ヲ發シ或ヒハ俄然麻痺シタル諸筋ニ牽縮ヲ起ス
トアリ而シテ瞳孔不正ニシテ片側ノ散大スルト甚タシキモノ多シ
線條體ニ起ル所ノ出血ハ腦出血中最モ多ク見ル所ノモノニシテ反對側ノ上下肢軀幹
及ヒ顔面ノ麻痺ヲ誘發スヘシ又タ左側ノ線條體ヲ侵カスハ多ク言語滯滯シ或ヒハ全
然失語ヲ將來スルコトアリ
線條體ノ出血ニ基因スル半身不遂症ニ於テハ知覺ノ變調ヲ起スナシ
視神經床ニ限局スル所ノ出血ニ於テ視神經床ヲ侵カサ、ルハ終ニ反對側ノ半身不遂
及ヒ五官ノ變症ヲ將來スヘシ

運動神經ノ症候ヲ現出スルハ同時ニ線條體ニ障礙ヲ起スカ爲メニ來ルモノ、如シ
華魯里氏橋或ヒハ髓質ニ出血スルハ頗フル危篤ナルモノニシテ十五分時乃至數時間

ニシテ斃ル、モノ多シ

通常搐掣及ヒ全身諸筋ノ弛緩ヲ起コシ且少シク瞳孔ノ収縮スルヲ見ルヘシ
發作時ニ於テ現ハル、所ノ直達ノ症候退消スルノ後運動機ニ於ケル諸般ノ變調ヲ發ス
ヘシ假令ヘハ兩側ノ麻痺(即チ截癱症)若シクハ片側ノ麻痺(即チ半身不遂)ヲ發スルモ
ノアリ或ヒハ一側ニアリテハ上下肢ノ麻痺ヲ起コシ其反對側ニ於テハ顔面ノ麻痺ヲ發
スルモノハ之レヲ交叉麻痺ト稱ス或ヒハ又タ五官ノ變調ヲ將來スルトアリ或ヒハ身体
ノ一側ニ麻痺及ヒ知覺脫失ヲ起ストアリ或ヒハ知覺脫失ト運動麻痺ト交叉スルトアリ

治則

腦出血ノ侵襲ニ先タチテ前驅徵ヲ現ハスハ猶豫スルトナク迅カニ刺絡
ヲ施ニシテ頭蓋内ノ血壓ヲ減スルト最第一ノ急務タリ

放血ノ量ハ症候ノ如何ニ據テ斟酌スヘシ故ニ體質虛弱ナルモノニアリテハ顱顱骨乳頭
部ニ蟻針ヲ貼シテ以テ刺絡ニ代用スヘシ

有力ナル下劑(後方)コロシント、エキス「六」
〇、三六
がラム
巴豆油一
〇、〇六
がラム
ヲ合シタル

モノヲ投シテ通利ヲ促カスヘシ

四肢ニ反對刺戟法ヲ施コシ顱頂部ニ氷嚢ヲ貼スルヲ良トス而レ既ニ出血シタルモノ
ニアリテハ此諸法ハ皆ナ無効ニ屬スヘシ

爾後身体ヲ安靜ニシテ頭部ヲ高舉シ病室内ハ勉メテ昏暗ナラシムルヲ要ス
 昏睡ノ期ヲ過クルヤ否ヤ直チニ雙驚筋根ヲ投スルキハ屢々俾効ヲ奏スヘシ而シテ
 反動性ノ熱症甚ク脈搏ヲ減セント欲スルキハ當初一二日間毎一時ニ一滴宛ヲ服セ
 シムヘシト雖其症候ヲ呈セサルキハ毎二時ニ一滴宛ヲ與フルヲ以テ足レリトス
 反動ノ期ヲ經過シ或ヒハ二週日ノ終ニ達スルキハ炭酸「アンモニヤ」五瓦（〇三〇）ニ
 醋酸「アンモニヤ」水半瓦（一五〇）ヲ加ヒ毎四時ニ服セシメ一月間餘持續スヘシ
 既ニ此期ヲ終ルキハ微弱ナル電氣「凡ソ四器」ヲ腦内ニ通シ兩側ニ用ヒ或ハ前後及ヒ兩
 側ノ顛顛部ヨリ感傳セシムヘシ而シテ毎日一回凡ソ三分時間宛ヲ以テ足レリトス回復
 ノ機ヲ促カス爲メニ毎日三回食時ニ於テ酪酸加燐酸石灰舍利別ヲ内服セシメ食物ハ專
 ラ刺激性ヲ有セサル所ノ滋養品ヲ撰用スヘシ
 麻痺シタル部位ニ於テ榮養不全ナルカ爲メニ羸瘦ヲ起コスキハ毎日患側ノ上下肢ヲ使
 用シ當初ハ輕微ノ運動ヲ命シ若シ筋肉ノ消削甚クシキハ電氣刺激法ヲ行フヘシ
 屈筋ノ攣縮甚クシキハ伸筋ニ電氣ヲ通スルキハ其刺激ヲ鎮靜スル爲メニ屈筋ニ於テ
 續々弱流ノ電氣ヲ感傳スヘシ
 出血部ノ周圍ニ局處炎症ヲ發スルノ徵候ナキハ被患ノ筋肉ニ「ストリキニー子」ヲ注

射スヘシ

血塊ノ吸收スルモ尚ホ久シク麻痺ヲ貽コシ回復スルコト頗フル緩慢ナルキハ腦質ノ榮養
 ヲ司トル所ノ酪酸加燐酸石灰及ヒ肝油ヲ持長セシムルヲ良トス又タ同時ニ電氣及ヒ斯
 篤里幾尼涅ノ皮下注射法ヲ處スルモ可ナリ

病原論

○ 腦膜出血

原名 MENINGEAL HAEMORRAGE.

腦膜内出血ハ外傷ニ因テ起コルコトアリ假令ハ顛顛骨ノ前下角ヲ破壊ス
 ル所ノ斷骨症ニ罹リ腦膜動脈ノ破裂ヲ起コスコトアルカ如シ

最普通ノ原因ハ動脈瘤ナリ而シテ其部位ハ專ラ基礎動脈ノ疾患ニアリ然リト雖其偶マ
 初生兒ニアリテハ必ラス分娩時ニ用フル所ノ鉗子ニ因テ被ムル所ノ外傷ニ基因スルモ
 ノト見做スヘシ

腦膜出血ハ又タ急性傳染病ノ併發症トナリテ采ルコトアリ
 血液ハ菲薄ナル板狀トナリ腦半球ノ基底ニ於テ硬腦膜下或ヒハ蜘蛛網膜腔ニ現出スル
 ヲ得ヘシ或ヒハ同時ニ兩處ニ生スルコトアリ

動脈瘤ヨリ流出スル血液ノ爲メニ腦ノ實質ヲ傷害スルコトアリ而シテ廻轉ヲ壓排シ腦質ハ蒼白色ニシテ之血狀ヲ呈スヘシ

徴候

大人ニ於テ腦膜ノ出血ヲ將來スルキハ其症候殆ント大脳出血ニ於テ見ル所ノモノト異ナルコトナシ

當初癲癇狀ノ描擧ニ尋テ昏睡ニ陥リ筋力全ク弛緩シテ瞳孔不整トナリ反射的運動ハ全然歇止スヘシ

危篤ナル昏睡ニ陥リ二三分時ニシテ甦ル、コトアリ或ヒハ數時間ノ後死ヲ致タスコトアリ又タ症ニヨリテ頭痛眩暈及ヒ惡心嘔吐ヲ發シテ感覺閉止シ破綻シタル脈管ヨリ血液ノ流泄スルニ從テ漸々増劇シ終ニ昏睡ニ因テ甦ル、コトアリ
初生兒ニアリテハ假死ニ因テ腦膜出血ヲ起コシ再ヒ醒覺スルコト能ハサルモノ多シ

譯義

○硬腦膜炎及血瘤

原 名 PACHYMINGITIS & HEAMATOMA.

硬腦膜炎トハ硬腦膜ノ炎症ヲ云フナリ抑々此膜質ハ二層ヨリ成ルヲ以テ其部位ニ據テ二種ノ炎症ヲ發スルモノナリ即チ硬腦膜外層炎及ヒ硬腦膜内層炎是ナリ
硬腦膜外層炎ハ外科的ノ疾患ニシテ頭蓋骨ノ斷骨症、穿創症其他ノ傷害ニ因リ又タハ組織ノ連接スルカ爲メニ顛顛骨岩狀部ノ骨瘍ニ罹リ終ニ硬腦膜ノ外板ニ炎症ヲ發スルモノナリ

原因

硬腦膜内層炎(即チ硬腦膜血瘤)ニ於テ最も重要ナル原因ハ年齡ナリ而シテ大家「ハグイニン」氏ノ說ニ據レハ本症ハ必ラス二十歳以上ノ人ヲ襲フモノニシテ最

モ多數ヲ占ムルハ七十歳ヨリ八十歳ノ間ニアリト云フ
男女ニ於テハ大凡ソ四分ノ三ノ多數ヲ有スルモノハ男子ナリ是レ恐ラクハ本症ヲ誘發スヘキ感動ニ暴露スルコト多キニ依ルモノナラン
頭蓋骨破壊ノ有無ニ関セス創傷ハ重要ナル一原因ト見做スヘシ
予カ實見セシ一患者ハ馬鞭ノ手柄ヲ以テ頭蓋ヲ打撲シタルノ後血瘤ヲ發生セリ

本症ヲ誘起スル所ノ原因ハ打撲ナルヲ忘却シ專ハラ他ノ原因ヲ指定スルコト鮮ナカラ
 ス醫家常ニ最モ戒心セサルヘカラサルナリ
 諸般ノ疾病ニ罹リ本症ノ素質ヲ構成スルコトアリ假令ヘハ慢性亞爾個兒中毒、瘰癧血病、
 潰瘍性貧血病、武雷葛氏病、肝臟硬結症及ヒ心臟諸病其他肺臟ノ阻塞症ノ如キ皆十之レ
 カ原因ヲ醸成スヘシ
 頭蓋内ニ發スル諸般ノ疾患ニ因スル所ノ腦ノ萎縮症モ亦タ血瘤ノ發生ニ於テ貴重ナル
 トナルモノ、如シ是レ即チ「ハグイニン」氏カ首唱セシ所ノ説ニシテ醫士「ギャコブ、ク
 レミナンスキー」氏ノ解釋ニ據レハ老人及ヒ慢性亞爾個兒中毒ノ爲メニ起ル所ノ萎縮
 症ヲ以テ緊要ナル原因トナセリ

病理的解剖

大家「ワルシユウ」氏カ記載セシ所ノ病理的變狀ハ世人カ最モ信任ス
 ル所ナリ故ニ予モ亦タ專ラ同氏ノ説ニ據テ之レヲ詳説スヘシ
 病變増進ノ初起ニアリテハ膜硬腦ニ充血ヲ起コシ滲出物ノ爲メニ膜狀ノ新生物ヲ構生
 シ硬腦膜ノ上皮下層ヨリ突出ス此新生シタル膜質ハ巨大ナル脈管ノ叢合体ヲ含有シ且
 菲薄ナル壁質ヲ有セリ偶マ大量ノ出血ヲ將來スルコトアルハ此脈管ノ破綻ニ基因スル
 モノニシテ膜質ノ容積及ヒ厚薄モ亦タ之レニ準スヘシ

新生シタル膜質ハ終ニ囊腫狀トナリ表面滑澤ニシテ内部ニ稍々變色シタル血塊、纖維
 素及ヒ破壊シタル血塊ノ碎片ヲ以テ赤色稠厚ナル液体ヲ含有ス
 末期ニ至ルハ血中ノ成分ヨリ構生シタル結晶体ヲ除クノ外血塊ノ現存スルヲ見ル
 ナク囊内ニハ透明ナル漿液ヲ以テ充滿スルニ過キス或ヒハ囊腫狀ヲ呈セスシテ唯タ空
 洞ヲナシ内ニ結締組織ノ凝塊ヲ生シ其纖維ノ集合スルコト頗フル緩鬆ナルヲ以テ恰モ
 海綿ノ狀ヲ呈シ其間隙ニ漿液ヲ含有シテ以テ緊張セシム故ニ古人其元質ヲ探知セサル
 ノ時ニアリテハ之レヲ蜘蛛網狀囊腫ト稱セリ
 當初血塊ヲ含ム所ノ囊体ヲ生シ終ニ漿液狀ノ液ヲ以テ充滿スルノ機ニ達スルノ間ニハ
 數回ノ變化ヲ起スモノナリ故ニ時ヲ經ルニ從テ漸々分解ノ機ヲ起コシ病變増進ノ極度
 ニ至ルハ病的ノ諸元質ハ悉トク溶解シテ退色スヘシ
 學士「ハグイニン」氏ノ説ニ曰ク血瘤ヲ構生スルハ硬腦膜内層炎ヨリ感傳シテ來ルモノ
 ニアラスシテ出血滲漏ノ生育機ニ因テ起ルモノナリ
 硬腦膜ト新生シタル膜質トノ間ニ於テ直接ニ脈管ノ交通ヲ起コスヘシ
 通常新生物ノ位置ハ腦半球ノ上面ニアリテ後頭葉ニ向テ降下シ其比例ヲ以テ顛顛骨ニ
 波及シ過半數ハ兩側共ニ侵カサル、モノトス

腦ノ近接シタル部位ニ於ケル變狀ハ專ハラ新生シタル膜質ノ溶積ト厚薄ニ因テ異ナルモノトス予カ實見セシ一患者ノ如キハ囊體ノ最モ肥厚シタル部ハ半「インチ」(我四歩許ナリ)ニシテ患側ノ半球ヲ壓排シ腦廻轉ノ扁平トナルカ爲メニ諸溝ヲシテ減却セシメ腦室モ亦タ其容積減少シテ健態ノ半ハニ過キス

腦髓ノ萎縮症及ヒ尿管ノ粉質變性ヲ起コシ又タ腦ノ組織ニ於テ變狀ヲ來タスハ屢々麻痺狂ヲ發スルコトアリ

肺臟ノ阻塞ニ因スル諸症及ヒ心臟瓣膜諸病モ亦タ本症ニ併發スルコト多キノミナラス其原因ニ於テ多少ノ感動ヲ有スルモノナリ

徵候

本症ノ徵候ハ頗フル曖昧トシテ全身諸部ニ汎發スル所ノ症候ヲ現出シ確然タル徵證最モ少ナシトス

病初官能ニ於テ刺衝機充進ノ諸徵ヲ呈シ尋テ抑壓ノ狀ニ陥ルモノナリ其症狀ヲ概説スレハ頑固ナル頭痛、眩暈及ヒ耳鳴ヲ發シ瞳孔収縮シテ運動不正トナリ屢々醒覺シ易ク偶々安眠セントスルモ魔夢ニ因テ驚悟スヘシ

症ニヨリテハ卒中狀ノ發作ヲ將來シ諸症候共ニ殆ント同一ナルコトアリ

刺衝機充進ノ期ハ二三日乃至三月ノ間ニアリ尋テ腦内抑壓ノ証徵ヲ現出ス

此期ニ於テ卒中狀ノ症候ヲ呈スルモノニアリテハ殆ント腦出血ト異ナラサル所ノ發作ヲ將來スルモノ多シト雖モ漸々感覺閉止ノ狀ニ陥ルヲ常トス

此時ニ際シ昏瞶ニ因テ斃ル、トアリ或ヒハ徐々ニ醒覺シテ血瘤ニ基因スル所ノ症狀ヲ現出スルトアリ

學者常ニ胸臆ニ銘記スヘキハ本症ニ於テ現出スル所ノ新生物ハ腦半球ノ表面ニアリテ腦出血ノ如ク腦ノ組織ヲ破壞スルヲナキヲ以テ之レカ爲メニ被ムル所ノ壓迫ハ腦半球ノ兩側若シクハ一側ノ全面ニアルヲ悟了スルニアリ

此期ニ現ハル、所ノ症候ハ頑固ナル頭痛ヲ發シ瞳孔収縮シテ發作狀ノ精神昏憤ヲ來タシ時トシテ數日間持續ス

一側ニ壓迫ヲ被ムルハ患側ノ瞳孔収縮スヘシ又タ片側ノ疾患ニ基因スルハ患側ノ諸筋ニ萎弱、攣縮及ヒ肉潤ヲ發スヘシ或ヒハ兩側ニ起ルトアリ

一手、一臂若シクハ一脚ニ局在スル所ノ摘型狀ノ運動ヲ檢出スルトアリ

片側ノ麻痺ニ罹リ遂ニ半身不遂ヲ發スルトアリ又タ當初一側ニ於テ斯ノ如キ運動機ノ變調(即チ半身不遂)ヲ起シ漸々他ノ一側即チ健側ヲ侵カストアリ是レ即チ病機蔓延ニ因テ來ルト素ヨリ論ヲ俟タス

又タ一種特異ナルモノニアリテハ言語ノ欲損或ハ變調ヲ呈スルヲアリ而レハ全然暗啞
スルモノニ至テハ殆ント稀レナリ
本症ニアリテハ五官ノ變調ヲ將來スルヲナシ
脈搏多クハ微弱ニシテ細數不正ナルモノ多ク又タ熱症ヲ發スヘシ或ヒハ出血時ニ於テ
脈搏ノ徐長ナルヲアリ

經過時期及轉歸

刺衝機充進ノ期ハ大抵一二日間持續スヘシト雖ハ破格ノ症ニ
アリテハ一二月ニ渉ルヲアリ
偶マ卒中症ニ因テ斃ル、ヲアリ
抑壓ノ期ハ一週日若シクハ一月ニ跨カリ或ヒハ一年間持續スルヲアリト雖ハ普通ノ時
期ハ大約二十日間トス

通常ノ轉歸ハ死亡ナリト雖ハ回復スルモノモ亦タ鮮ナカラス而レハ全然腦力ノ健態ニ
復スルモノニ至テハ疑團ヲ免レサルナリ

治則

本症ノ治術ニ至テハ吾人カ未タ満足スルヲ能ハサルモノ多シ
通常刺衝機充進ノ徵候ヲ呈スルハハ腦充血ノ治法ヲ應用スルニ過キサルナリ

○ 急性 腦 水 名原 アキユート ハイドロセハラス ACUTE HYDROCEPHALUS.

釋義

腦水ナル文字ハ腦内ノ水液ヲ徵スルト雖ハ專ラ蜘蛛網膜腔、軟腦膜腔、腦
實質及ヒ腦室内ニ滲液ノ現存ヲ證スル所ノ一症ヲ斥ス
腦水ハ先天及ヒ後天ノ二症アリ而シテ爰ニ論スル所ノモノハ後天症ナリ
腦水ナル文字ハ元ト症候上ノ名義ニシテ敢テ病理上ノ學說ヲ要セスト雖ハ胸水ノ如ク
炎症ヲ發セサル諸般ノ原因ニ依テ起ル所ノ滲出物トヲ辨別セサルヘカラス

原因

「カレニ」氏靜脈管及ヒ右側竇ヨリ血液ノ還流ヲ妨グル所ノ諸般ノ器械
的原因ハ腦室内ニ滲出物ヲ誘發セシムヘシ
頭蓋ノ腫瘍、絨膜ノ束体又タハ腦側竇ノ阻塞症或ヒハ頸靜脈ヲ壓迫スヘキ部位ニ發ス
ル所ノ腫瘍ノ如キハ皆ナ之レカ原因トナルモノナリ
心臟右側ノ疾患、肺氣腫又ハ硬結症ノ如キ肺ノ阻塞ヲ起ス所ノ疾患ハ器械的ニ循環ヲ障
碍スルカ爲メニ腦水ヲ誘起スルヲアリ
老人ニアリテハ腦質ノ萎縮症ニ因テ側室ノ水腫ヲ發スルヲ鮮ナカラス
武雷篤氏病、癌腫及ヒ結核ノ如キ諸般ノ惡液質ハ頭蓋内ノ循環ヲ妨グルカ爲メニ水腫ヲ
誘起スヘシト雖ハ爰ニ論スル所ノ腦水ノ原因ニ於テ關係ヲ有スルモノハ唯タ武雷篤氏

病ノ一症アルノミ

腦室ノ水腫ハ心臟病及ヒ腎臟病ニ基因スル所ノ全身水腫ニ併發スルコトアリ
腦水ハ殊ニ幼年ノ人ヲ侵カス所ノ疾患ニシテ一年乃至五年ノ間ニ多シト雖モ偶マ年齡
ヲ問ハスシテ米ルコトアリ

諸般ノ衛生ニ背戾スル所ノ原因ハ皆ナ本症ノ侵襲ヲ促カスヘシ或ハ他ノ神經諸症ノ如
ク粟生神經系統ノ偏勝スルモノハ亦タ本症ヲ誘起スヘシ

男女ノ性ニ於テハ共ニ同一ノ比例ヲ有スルモノナリ
刺衝性ノ原因ハ齒才發生發疹熱及ヒ頭顱ノ打撲症ナリ

病理的解剖

滲出物ハ通常腦室内ニ限局スト雖モ偶マ蜘蛛網膜下層ノ緊滿スル
甚タシク軟腦膜及ヒ腦内近傍諸部ノ浮腫ヲ起コスヲアリ

腦室内ニ限局スルモハ内部ノ灰白質ニ比スレハ腦ノ組織ハ稍々濕潤ナルヲ見ルヘシ
腦室ノ近傍ニ於テ吸收ヲ起コシ多少腦質ノ軟化ヲ將來スヘシ

側竇ノ脈絡叢ニ充血ヲ起コシ夥多ノ微細ナル血斑ヲ現出ス腦室モ亦タ順テ膨大スト雖
モ老人ノ腦水ニアリテハ一室ニ膨大ヲ起コシ他ノ一室ニアリテハ之レカ爲メニ狭少ト
ナルヲ見ルコトアリ

徵候

原因ノ條下ニ於テ論スルカ如ク發病ノ方法及ヒ患者ノ體質ニ據テ千差萬
別ナルモノトス

往昔ノ著迷家カ漿液性卒中ト稱スル所ノ一症ハ滲出物ノ頓發スルカ爲メニ俄然卒中狀
ノ症候ヲ以テ起ルモノナリ即チ感覺閉止シテ筋力弛緩シ瞳孔ニ縮張ヲ起コスヲナク糞
尿ノ排泄自在ナラサルニ至ル

昏睡期ニアリテハ偶マ譫語ヲ發スルヲアリ
腦内ニ於ケル液体ノ壓力頗フル強劇ナルモハ延髓ノ官能ヲ制止シ之レカ爲メニ二三時
間ニシテ斃ル、モノトス故ニ數日間命脈ヲ保ツモノニ至テハ例外ニ屬ス

搐搦性腦水ト稱スルモノハ刺衝機亢進ノ症候ヲ以テ起コリ輕度ノ熱症、頭痛、惡心及ヒ
嘔吐ヲ發シ數日ヲ經テ急瀉ノ發作ヲ現出ス或ヒハ卒然搐搦ヲ以テ發起シ大人ニアリテ
ハ強劇ナル譫語ヲ放ツヲアリ此諸症ヲ呈スルノ後抑壓ノ症狀ニ陥井リ精神恍惚トシテ
感覺鈍麻シ四肢ノ癱瘓及ヒ萎弱ヲ起シ終ニ全然麻痺スルニ至ル

偶マ望外ノ好結果ヲ見ルモノニアリテハ精神回復スルヲアリト雖モ少焉ニシテ再ヒ昏
睡ニ陥井リ終ニ斃ル、モノ多シ

此症ハ多ク武雷篤氏病或ヒハ全身水腫ノ經過中ニ起ルモノトス

普通ノ症、ニアリテハ專ラ小兒ヲ侵カスヲ多ク病初發熱、頭痛、羞明及ヒ頭眩ヲ以テ起コ
リ音響ヲ聽クヲ厭ヒ精神常ニ安ニスルヲナク日晡ニ際シ譫語ヲ發シ夜間屢々醒覺シテ
安眠ヲ妨ケ眩暈甚タシク諸部ノ筋肉ニ於テ攣縮ヲ起コシ易ク假令ヘハ頭顱ヲ後方ニ牽
引セラル、カ如キヲアリ或ヒハ手指及ヒ足趾ノ彎曲ヲ致タスヲアルカ如シ
皮膚ノ知覺頗フル銳敏トナリ輕微ノ摩觸ニ遇フモ忽チ疼痛ヲ感シ殊ニ頸部ノ周圍ニ於
テ最モ甚タシ又タ毫モ原因ナクシテ惡心嘔吐ヲ發シ肚腹陷没シテ頑固ノ便秘ヲ將米ス
ヘシ

此諸症候ハ數日間持續スヘシ爾後癲癇狀ノ搐掣ヲ發スルヲアリ或ヒハ身体ノ一部假令
ヘハ一肢若シクハ二肢ノ諸筋ニ搐掣ヲ起コシ或ヒハ腹部ノ諸筋又タハ顔面諸筋ヲ限局
スルヲアリ
体温ハ搐掣ノ發作間非常ニ昇隆スルヲアリ脈搏疾數ニシテ屢々不正ナルモ急瀾ノ症候
退消スルキハ忽チ健態ニ復スヘシ
偶マ此期ニ於テ不幸ニ陷井ルヲアリト雖モ普通ノモノニアリテハ癲癇ノ症候歇止スル
ニ從テ回復ノ轉歸ヲ取ルモノ多シ
又此機ニ於テ抑壓ノ症候ヲ呈シ精神不安ナルモノ感覺遲鈍トナリ諸筋ノ攣縮シタルモ

ノ麻痺ヲ起コシ知覺過敏ナリシモノ却テ脫失ノ狀ヲ呈スヘシ
瞳孔散大シテ縮張スルコト少ナク屢々左右不等トナリ復視症ヲ發スルコトアリ
脈搏微弱ニシテカナク頗フル不整ニシテ一分時間八十至ナルモノ忽チニシテ百三十至
トナルカ如シ

呼吸モ亦タ調節頗フル不整ニシテ所謂「チエーン、ストーク」氏ノ呼吸ニ類スヘシ
皮膚厥冷シテ顳門突隆シ且ツ圓形トナリ幼兒ニアリテハ骨間ノ縫合開大スヘシ又タ嘔
吐ノ持續スルカ爲メニ全身ノ榮養ヲ害スルコト甚タシキモノナリ
患者全然昏睡ノ狀ニ陥井リ偶マ感覺稍々興奮シテ脈搏及ヒ呼吸共ニ輕快シ反射的運動
モ亦タ刺衝ヲ起スヲアルモ持續スルヲナク再ヒ昏睡スルヲ常トス

經過時期及轉歸

今日ニ至ルマテ回復ノ報告ヲナシタルモノ極メテ鮮ナシ偶マ
全治スルヲアルモノ小兒ヲ侵カス所ノ輕症ナルモノニシテ刺衝亢進スルモ抑壓ノ症狀ヲ
繼發セサルモノニ於テ見ルコトアルノミ
抑壓ノ期ニ於テ回復ノ症狀ヲ現出スルモノハ決シテ良徵ニアラサルナリ
卒中症及ヒ搐掣症ノ腦水ニアリテハ二三時間乃至二三日ニシテ不幸ニ陷井ルモノ多ク
普通ノ症、ニ於テモ全治スルモノ極メテ鮮ナシ